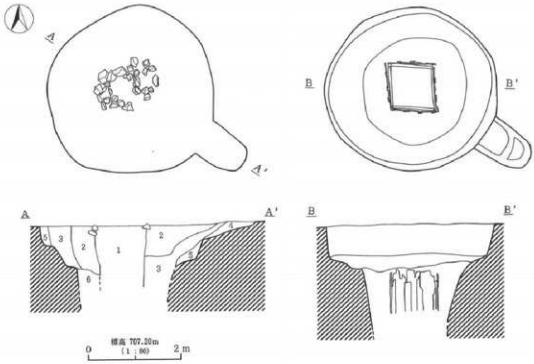
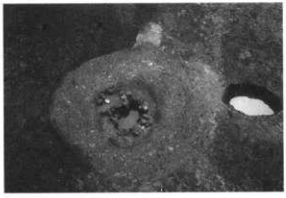
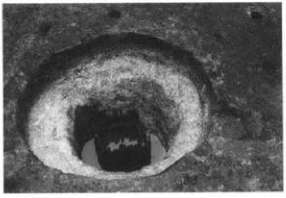
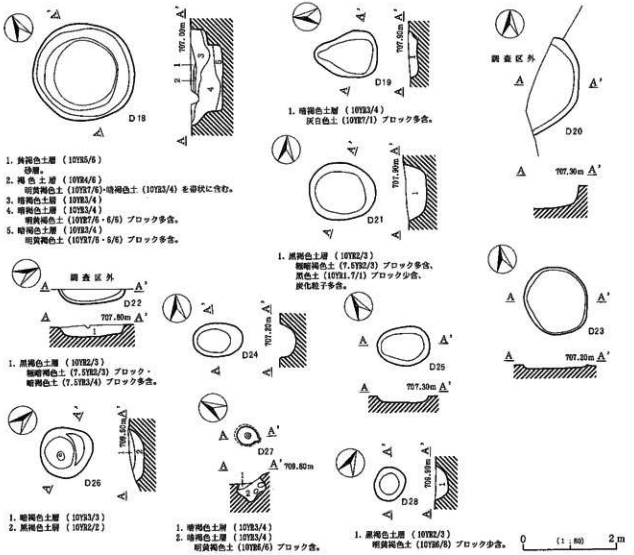


1. 黒 褐 色 土 層 （10YR3/2）
2. 暗 褐 色 土 層 （10YR3/3）
3. 黒 褐 色 土 層 （10YR2/3）　黄褐色土（10YR5/6）・黒色土（10YR1.7/1）ブロック多含。
4. にぶい褐色土層（7.5YR5/2）
5. 黒 褐 色 土 層 （10YR3/2）　粘性強い。
6. 黒　色　土　層 （10YR2/1）　シルト質、粘性強い。

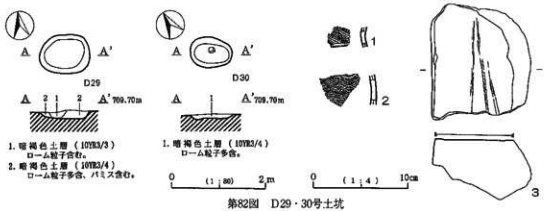




第80図　D17号土坑



第81図　D18～28号土坑



第82図　D29・30号土坑

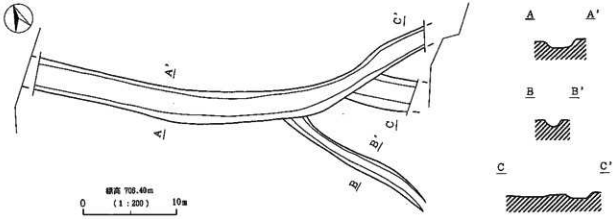
第41表　D30号土坑出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
3	台石	12.3	10.7	6.3	側面に線状痕あり		D30、1,170g

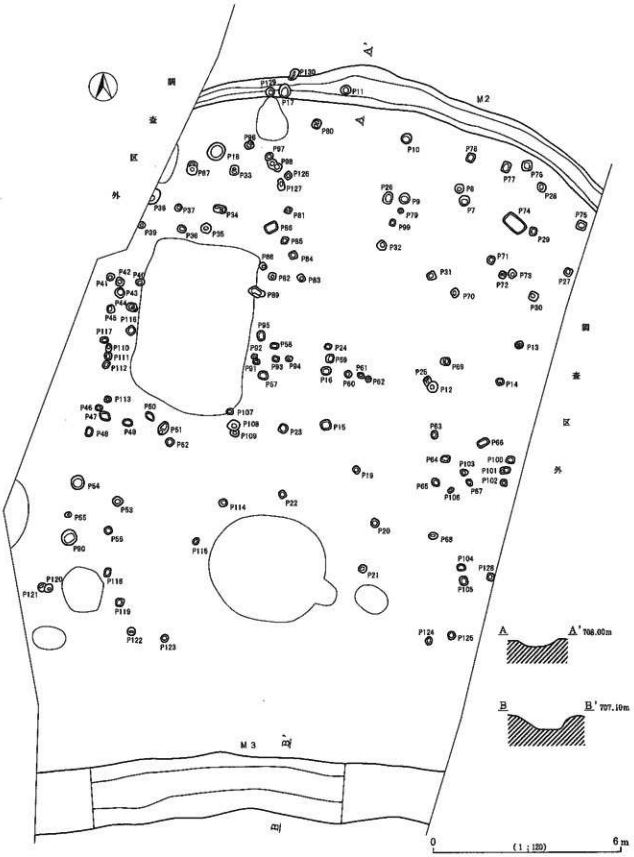
第42表　土坑一覧表

遺跡名	No	検出位置	平面形態	規模(cm) 長軸長	短軸長	深さ	長軸方位	備考
直路Ⅰ	D1	Ⅵ－W－く－1	楕円形	107	60	41	N－83°－W	
	D2	Ⅵ－W－けー2	楕円形	146	104	23	N－29°－E	
	D3	Ⅵ－W－けー2	楕円形	136	118	29	N－51°－W	
	D4	Ⅵ－W－けー3	楕円形	156	126	30	N－83°－E	D11を切る
	D5	Ⅵ－W－けー1	楕円形	110	98	44	N－30°－E	D12を切る
	D6	Ⅵ－W－けー4	(楕円形)	－	50	6	－	東側調査区外
	D7	Ⅵ－W－く－2	円　形	170	156	27	N－80°－W	
	D8	Ⅵ－X－あー7	方　形	124	116	15	N－83°－W	D13・14を切る
	D9	Ⅵ－X－あー3	(円　形)	－	100	13	－	西側調査区外
	D10	Ⅵ－X－あー5	楕円形	200	124	49	N－79°－W	
	D11	Ⅵ－W－けー3	円　形	94	－	21	－	D4に切られる
	D12	Ⅵ－W－けー1	不整楕円形	132	94	29	N－87°－W	D5に切られる
	D13	Ⅵ－W－あー7	楕円形	162	98	21	N－89°－W	D14を切る、D8に切られる
	D14	Ⅵ－W－あー7	(楕円形)	－	140	11	－	D8・13に切られる
	D15	Ⅵ－W－おー9	(楕円形)	－	－	60	－	H1を切る、東側調査区外
直路Ⅱ	D16	Ⅵ－W－かー8	方　形	198	196	8	N－90°	H1を切る
	D17	Ⅺ－C－かー4	円　形	366	343	－	N－90°	B地区、井戸址
	D18	Ⅵ－X－えー7	円　形	214	204	79	N－73°－W	C地区
	D19	Ⅺ－C－かー1	不整楕円形	136	100	33	N－0°	B地区
	D20	Ⅺ－C－くー4	－	－	－	28	－	B地区、西側調査区外
	D21	Ⅺ－C－おー1	楕円形	142	120	53	N－76°－W	B地区
	D22	Ⅺ－C－きー1	－	－	－	26	－	B地区、西側調査区外
	D23	Ⅺ－C－きー5	楕円形	150	132	11	N－59°－W	B地区
	D24	Ⅺ－C－くー5	楕円形	106	72	26	N－79°－W	B地区
	D25	Ⅺ－C－おー5	楕円形	108	82	16	N－61°－W	B地区
	D26	Ⅵ－G－くー8	円　形	116	110	43	N－9°－W	A地区
	D27	Ⅵ－G－くー10	楕円形	48	40	62	N－13°－W	A地区
	D28	Ⅵ－G－くー10	楕円形	71	62	28	N－0°	A地区
直路Ⅲ	D29	Ⅵ－R－うー6	楕円形	104	76	18	N－83°－W	
	D30	Ⅵ－R－うー6	楕円形	88	64	10	N－58°－W	

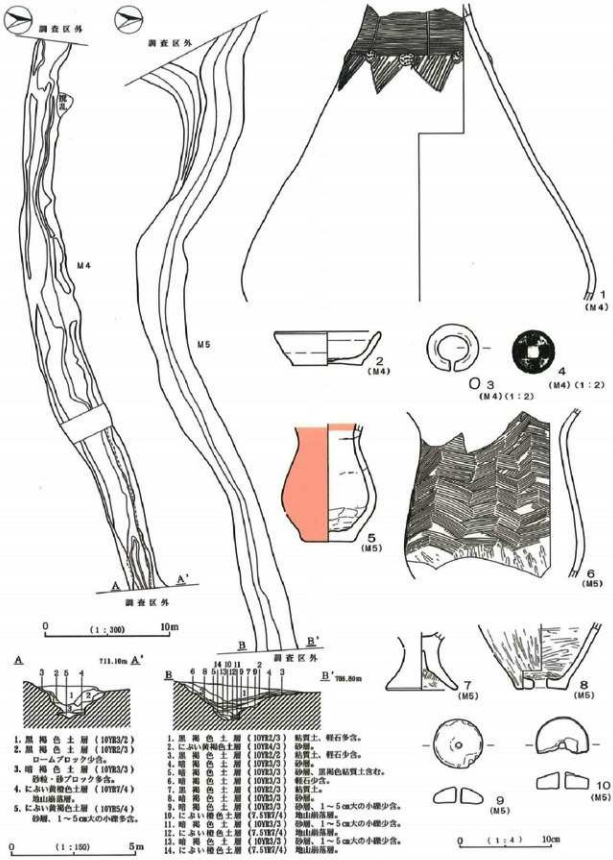
第6節　溝　址・ピット



第83図　M1号溝址



第84図　M２・３号溝址、ピット群


調査区外
調査区外
M4
M5
A
A'
調査区外
0
(1：300)
10m
B
B'
調査区外
A
711.10m A'
B
B'
706.80m
0
(1：150)
5m
1. 黒褐色土層（10YR2/2）
2. 黒褐色土層（10YR2/2）
ロームブロック少含。
3. 暗褐色土層（10YR3/3）
砂粒・砂ブロック多含。
4. にぶい黄橙色土層（10YR7/4）
地山崩落層。
5. にぶい黄褐色土層（10YR5/4）
砂礫、1～5cm大の小礫多含。
1. 黒褐色土層（10YR2/3）粘質土、軽石多含。
2. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）砂層。
3. 黒褐色土層（10YR2/2）粘質土、軽石少含。
4. 暗褐色土層（10YR3/3）砂層。
5. 暗褐色土層（10YR3/3）砂層、黒褐色粘質土含む。
6. 暗褐色土層（10YR3/3）軽石少含。
7. 黒褐色土層（10YR2/3）粘質土。
8. 暗褐色土層（10YR3/3）砂層。
9. 暗褐色土層（10YR3/3）砂礫、1～5cm大の小礫少含。
10. にぶい橙色土層（7.5YR7/4）地山崩落層。
11. 暗褐色土層（10YR3/3）砂層、1～5cm大の小礫少含。
12. にぶい橙色土層（7.5YR7/4）地山崩落層。
13. 暗褐色土層（10YR3/3）砂層、1～5cm大の小礫少含。
14. にぶい橙色土層（7.5YR7/4）地山崩落層。
1
(M4)
2
(M4)
3
(M4)(1：2)
4
(M4)(1：2)
5
(M5)
6
(M5)
7
(M5)
8
(M5)
9
(M5)
10
(M5)
0
(1：4)
10cm

第85図　M4・5号溝址

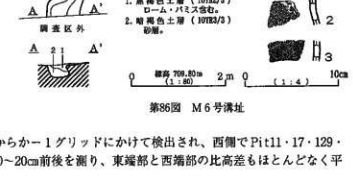
第43表　M４・５号溝址出土遺物観察表

No	器種	法量 口径(残)	底径(残)	器高(厚)	成形・調整・文様 外面	内面	備考
1	壺	－	－	(31.9)	頸部丁字文・縄文・円形貼付文	ハケメ	M４
2	十師器 皿	11.5	(7.5)	3.6	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	M４
3	耳環	2.5	2.8	0.6	表面剥落		M４、13.6g
4	熙寧元寶	2.4					M４、2.8g
5	壺	－	－	5.5	(12.3) ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ、頸部赤色塗彩	M５
6	甕	－	－	－	(17.9) 櫛描羽状文	ヘラミガキ	M５
7	台付甕	－	－	7.8	(6.2) ヘラミガキ、摩滅	ハケメ	M５
8	甑	－	－	5.5	(6.9) ヘラミガキ	ヘラミガキ	M５
9	紡錘車	5.6	－	1.8	ヘラミガキ、摩滅		M５、46g
10	紡錘車	5.6	－	1.8	ヘラミガキ、赤色顔料付着		M５、39g

Ｍ１号溝址（第83図）

直路遺跡Ⅰ調査区南側、Ⅺ－Ｃ－こ－７グリッドからⅪ－Ｄ－え－５グリッドにかけて検出され、Ｍ３号溝址と同一の溝である。本址周辺からは住居址・土坑等の遺構は検出されなかった。南東方向から北西方向に延びる溝であり３本の溝が交差する。検出長24ｍ、幅0.7～1.7ｍ、深さ12～46cmを計測し、南溝は８ｍで消滅する。東端部と西端部の比高差は30cmでありほぼ平坦である。

本址からの出土遺物はない。



第86図　Ｍ６号溝址

Ｍ２号溝址（第84図、図版39）

直路遺跡ⅡＢ地区北側、Ⅺ－Ｃ－う－２グリッドからか－１グリッドにかけて検出され、西側でPit11・17・129・130に切られる。検出長14ｍ、幅0.5～1.3ｍ、深さ10～20cm前後を測り、東端部と西端部の比高差もほとんどなく平坦である。

本址から図示できた遺物はない。

Ｍ３号溝址（第84図、図版39）

直路遺跡ⅡＢ地区南側、Ⅺ－Ｃ－お－６グリッドからく－６グリッドにかけて検出された。Ｍ１号溝址の東側にあたる溝であり、他遺構との重複関係はない。検出長13.2ｍ、幅２ｍ、深さ40～50cm前後を測る。底面は平坦で東から西に向かって傾斜しており比高差は20cmを計測する。

本址から図示できた遺物はない。

Ｍ４号溝址（第85図、図版40・51）

直路遺跡ⅡＡ地区南側、Ⅵ－Ｇ－い－７グリッドからⅥ－Ｈ－う－９グリッドにかけて検出され、Ｈ９・10・12号住居址を切る。検出長46ｍ、幅2.1～4.1ｍ、深さ0.6～1.2ｍ前後を測る。

東から西に向かって傾斜しており、比高差は80cmを計測する。覆土は５層からなり底面には小礫を含む砂層の堆積がみられ、底面の状態から流路であると考えられる。

遺物は弥生土器壺（１）、土師器皿（２）、耳環（３）、古銭（４）を図示した。

１は頸部に櫛描横線文を巡らせた後、鋭描沈線を垂下させて区画する丁字文を施し、さらに斜走文を充填した鋸歯文が施文され、円形貼り付け文が付加される大型の壺である。２はロクロ成形による皿で底部は左回転の糸切り痕が残る。３は銅芯の耳環で表面は剥落しており重さは13.6ｇを測る。４は「熙寧元寶」（初鋳年1068年）で書体は篆書である。

Ｍ５号溝址（第85図、図版40・51）

直路遺跡ⅡＡ地区中央、Ⅵ－Ｇ－い－３グリッドからⅥ－Ｈ－え－４・５グリッドにかけて検出され、他遺構との重複関係はない。検出長53ｍ、幅３～４ｍ、深さ1.5ｍ前後を測る。覆土から数度にわたる水の流れが想定される。

遺物は壺（５）、甕（６・７）、甑（８）、土製紡錘車（９・10）を図示した。

５は外面と口縁部内面に赤色塗彩される小型の壺である。甕には櫛描羽状文が施文される６と台付甕の台部（７）がある。８は単孔の甑で内外面にヘラミガキ調整される。紡錘車には９・10の２点があり、９は径5.3cm、厚さ1.8cmを測り端部に溝状の凹みが観察される。２層からの出土であり表面は摩滅が著しい。10は半分近くが欠損しているが、径5.6cm、厚さ1.8cmを測る。３層からの出土であり、周縁部を除いた表裏面はヘラミガキされ、わずかに赤色顔料の付着が観察される。９・10ともに土器片を再利用したものではなく当初から紡錘車として焼成されたものである。

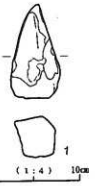
ピット（第84・87図、図版40・51）

直路遺跡Ⅰから６基、直路遺跡Ⅱから124基、直路遺跡Ⅲから12基のピットが検出され、総数で142基を数える。各遺跡における分布状況は以下のとおりである。

直路遺跡Ⅰでは調査区東側のＨ１号住居址とＨ２号住居址の間から６基がまとまって検出された。直路遺跡Ⅱの124基はすべてＢ地区内、Ｍ２号溝址とＭ３号溝址間の全面から検出されたものである。直路遺跡Ⅲでは調査区東側に８基、西側に４基の小規模なまとまりが指摘できるが、限られた範囲での調査のため明確ではない。

規模・形状は径20～30cmの円形または楕円形のものが主体的であるが、直路遺跡Ⅱで調査されたピットの中には方形または長方形のものも存在する。これら方形のピットは北半部に比較的多く認められるが、円形のものも含めて掘立柱建物址のような遺構を構成する規則的な配列は認められなかった。なお、各ピットの検出位置・規模等については第46表直路遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲピット一覧表に記した。

遺物は極めて少量であり、直路遺跡Ⅲから検出されたPit132から出土した砂岩製の砥石（１）が１点図示できたのみである。

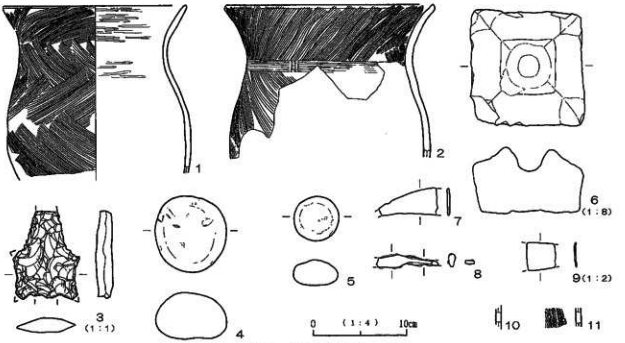


第87図 直路遺跡Ⅲ Pit132出土遺物

第44表　Pit132出土遺物観察表

No.	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	砥石	10.0	5.3	4.5			280g

第７節　遺構外出土遺物（第88図、図版51）



第88図　遺構外出土遺物

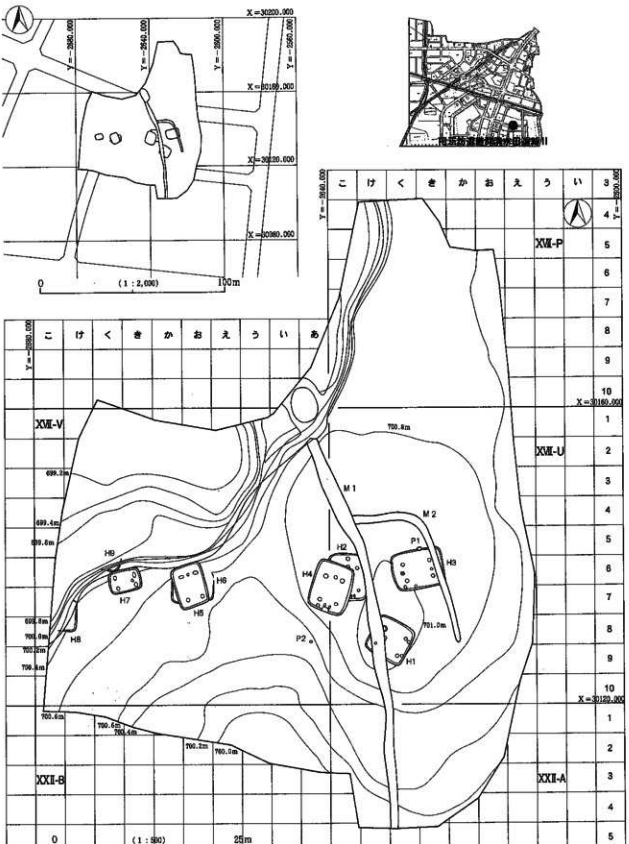
第45表　遺構外出土遺物観察表

No.	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	甕	19.5	－	(18.4)	櫛描羽状文	ヘラミガキ、摩滅	
2	甕	(22.4)	－	(16.3)	櫛描羽状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
3	打製石鏃	2.3	1.8	0.4	先端部・基部欠損		1.8g
4	石製品	8.1	7.6	5.0	敲状痕あり		161g
5	石製品	4.8	4.8	2.7			23g
6	五輪塔	24.8	24.3	14.0	火輪		8,260g
7	鐙	6.3	2.9	0.2	両端欠損		11.1g
8	刀子	6.5	1.6	1.5	両端欠損		13.3g
9	鞘製品	1.6	1.5	0.1	両端欠損		0.7g

第46表　直路遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲピット一覧表

No.	検出位置	規模(cm) 径	規模(cm) 深さ	備考	No.	検出位置	規模(cm) 径	規模(cm) 深さ	備考
1	Ⅵ－Ｗ－き－７	24×23	22		72	Ⅺ－Ｃ－いー４	22	5	
2	Ⅵ－Ｗ－き－８	32×24	22		73	Ⅺ－Ｃ－いー４	31×26	8	
3	Ⅵ－Ｗ－き－８	26×24	11		74	Ⅺ－Ｃ－いー４	74×43	9	
4	Ⅵ－Ｗ－き－８	26×23	26		75	Ⅺ－Ｃ－いー３	28×27	21	
5	Ⅵ－Ｗ－き－８	28×22	22		76	Ⅺ－Ｃ－あー４	30	35	
6	Ⅵ－Ｗ－き－９	36×30	20		77	Ⅺ－Ｃ－あー４	32×22	22	
7	Ⅺ－Ｃ－いー４	34×32	18		78	Ⅺ－Ｃ－あー４	26×22	14	
8	Ⅺ－Ｃ－いー４	30×26	21		79	Ⅺ－Ｃ－いー５	18×16	9	
9	Ⅺ－Ｃ－いー５	35×32	24		80	Ⅺ－Ｃ－あー５	26×24	23	
10	Ⅺ－Ｃ－あー５	34×32	20		81	Ⅺ－Ｃ－いー６	20×18	26	
11	Ⅺ－Ｃ－あー５	35×29	17	Ｍ２を切る	82	Ⅺ－Ｃ－いー６	22	18	
12	Ⅺ－Ｃ－うー５	35×31	28	Ｐ25を切る	83	Ⅺ－Ｃ－いー６	26×20	13	
13	Ⅺ－Ｃ－うー４	25×21	25		84	Ⅺ－Ｃ－いー６	24×23	10	
14	Ⅺ－Ｃ－うー４	22	28		85	Ⅺ－Ｃ－いー６	22×18	11	
15	Ⅺ－Ｃ－うー６	34	22		86	Ⅺ－Ｃ－いー６	40×28	17	
16	Ⅺ－Ｃ－うー６	30×26	13		87	Ⅺ－Ｃ－あー７	46×32	35	
17	Ⅺ－Ｃ－あー６	46×38	24	Ｍ２を切る	88	Ⅺ－Ｃ－いー６	20×18	15	Ｔａ２を切る
18	Ⅺ－Ｃ－あー６	58×54	37		89	Ⅺ－Ｃ－いー６	50×26	39	Ｔａ２を切る
19	Ⅺ－Ｃ－えー５	21×20	15		90	Ⅺ－Ｃ－えー８	52×44	10	
20	Ⅺ－Ｃ－えー５	28	29		91	Ⅺ－Ｃ－うー６	20×15	15	
21	Ⅺ－Ｃ－おー５	24×23	11		92	Ⅺ－Ｃ－うー６	16×14	11	
22	Ⅺ－Ｃ－えー６	24×22	12		93	Ⅺ－Ｃ－うー６	20×18	9	
23	Ⅺ－Ｃ－うー６	28×26	32		94	Ⅺ－Ｃ－うー６	18×16	22	
24	Ⅺ－Ｃ－うー５	20×10	10		95	Ⅺ－Ｃ－うー６	32×21	17	
25	Ⅺ－Ｃ－うー５	(28)×26	27	Ｐ12に切られる	96	Ⅺ－Ｃ－あー６	25×24	9	
26	Ⅺ－Ｃ－いー５	37×30	9		97	Ⅺ－Ｃ－あー６	26×22	33	Ｐ98を切る
27	Ⅺ－Ｃ－いー４	23×22	25		98	Ⅺ－Ｃ－あー６	(50)×32	34	Ｐ97に切られる
28	Ⅺ－Ｃ－いー４	25	34		99	Ⅺ－Ｃ－いー５	18	10	
29	Ⅺ－Ｃ－いー４	24×21	15		100	Ⅺ－Ｃ－えー４	24×22	16	
30	Ⅺ－Ｃ－いー４	27×26	27		101	Ⅺ－Ｃ－えー４	30×20	22	
31	Ⅺ－Ｃ－いー５	27×22	15		102	Ⅺ－Ｃ－えー４	20	22	
32	Ⅺ－Ｃ－いー５	32	22		103	Ⅺ－Ｃ－えー４	20×18	17	
33	Ⅺ－Ｃ－あー６	31×25	40		104	Ⅺ－Ｃ－おー４	25×18	18	
34	Ⅺ－Ｃ－いー６	38×22	18		105	Ⅺ－Ｃ－おー４	26×23	19	
35	Ⅺ－Ｃ－いー６	30	20		106	Ⅺ－Ｃ－えー５	18×15	7	
36	Ⅺ－Ｃ－いー７	26×23	16		107	Ⅺ－Ｃ－うー６	19×18	17	Ｔａ２を切る
37	Ⅺ－Ｃ－いー７	22	20		108	Ⅺ－Ｃ－うー６	35×32	29	Ｐ109を切る
38	Ⅺ－Ｃ－いー７	55×－	38	西半部調査区外	109	Ⅺ－Ｃ－うー６	(24)×23	26	Ｐ108に切られる
39	Ⅺ－Ｃ－いー７	21×－	29	西端部調査区外	110	Ⅺ－Ｃ－うー７	24×19	13	
40	Ⅺ－Ｃ－いー７	26×19	20	Ｔａ２を切る	111	Ⅺ－Ｃ－うー７	22×20	11	
41	Ⅺ－Ｃ－いー７	23×22	28		112	Ⅺ－Ｃ－うー７	25×18	10	
42	Ⅺ－Ｃ－いー７	28×24	26		113	Ⅺ－Ｃ－うー７	19×18	11	
43	Ⅺ－Ｃ－いー７	31×28	22		114	Ⅺ－Ｃ－えー６	28×27	14	
44	Ⅺ－Ｃ－いー７	31×25	25		115	Ⅺ－Ｃ－えー７	24×18	6	
45	Ⅺ－Ｃ－いー７	25×24	33		116	Ⅺ－Ｃ－うー７	26×24	12	
46	Ⅺ－Ｃ－うー７	18×15	14		117	Ⅺ－Ｃ－うー７	22×18	17	
47	Ⅺ－Ｃ－うー７	30×28	29		118	Ⅺ－Ｃ－おー７	28×19	20	
48	Ⅺ－Ｃ－うー７	29×21	24		119	Ⅺ－Ｃ－おー７	25×23	20	
49	Ⅺ－Ｃ－うー７	29×22	16		120	Ⅺ－Ｃ－おー８	28×24	19	Ｐ121を切る
50	Ⅺ－Ｃ－うー７	29×22	12		121	Ⅺ－Ｃ－おー８	26×22	10	Ｐ120に切られる
51	Ⅺ－Ｃ－うー７	45×28	33		122	Ⅺ－Ｃ－おー７	25×24	8	
52	Ⅺ－Ｃ－えー７	26×25	28		123	Ⅺ－Ｃ－おー７	26×24	10	
53	Ⅺ－Ｃ－えー７	28	16		124	Ⅺ－Ｃ－おー５	24×22	14	
54	Ⅺ－Ｃ－えー７	45×40	14		125	Ⅺ－Ｃ－おー５	24×23	14	
55	Ⅺ－Ｃ－えー８	20×16	16		126	Ⅺ－Ｃ－あー６	23×22	16	
56	Ⅺ－Ｃ－えー７	24×23	26		127	Ⅺ－Ｃ－いー６	38×24	16	
57	Ⅺ－Ｃ－うー６	28	10		128	Ⅺ－Ｃ－おー４	22	24	
58	Ⅺ－Ｃ－うー６	26×18	27		129	Ⅺ－Ｃ－あー６	28×26	26	Ｍ２を切る
59	Ⅺ－Ｃ－うー５	24	14		130	Ⅺ－Ｃ－あー６	36×22	－	Ｍ２を切る
60	Ⅺ－Ｃ－うー５	20×19	6		131	Ⅵ－Ｑ－くー６	54×43	17	
61	Ⅺ－Ｃ－うー５	20×16	15		132	Ⅵ－Ｑ－こー７	50×32	39	ＳＭ１を切る
62	Ⅺ－Ｃ－うー５	19×16	11		133	Ⅵ－Ｑ－こー７	42×34	27	
63	Ⅺ－Ｃ－うー５	26×18	27		134	Ⅵ－Ｒ－えー７	38×30	43	Ｈ16を切る
64	Ⅺ－Ｃ－えー５	30×19	12		135	Ⅵ－Ｑ－くー６	32×28	32	Ｐ136を切る
65	Ⅺ－Ｃ－えー５	24×23	27		136	Ⅵ－Ｑ－けー６	30×24	30	
66	Ⅺ－Ｃ－えー４	36×22	15		137	Ⅵ－Ｑ－けー７	34×26	45	
67	Ⅺ－Ｃ－えー４	22×17	16		138	Ⅵ－Ｑ－くー６	26×20	20	Ｐ135に切られる
68	Ⅺ－Ｃ－えー５	24×22	12		139	Ⅵ－Ｑ－くー７	38×26	57	
69	Ⅺ－Ｃ－うー５	28×22	9		140	Ⅵ－Ｒ－うー５	44×30	9	
70	Ⅺ－Ｃ－いー４	32×23	13		141	Ⅵ－Ｒ－うー６	52×36	12	
71	Ⅺ－Ｃ－いー４	24×23	10		142	Ⅵ－Ｒ－うー６	40×30	10	

※Ｐ１～Ｐ６＝直路遺跡Ⅰ、Ｐ７～Ｐ130＝直路遺跡Ⅱ、Ｐ131～Ｐ142＝直路遺跡Ⅲ



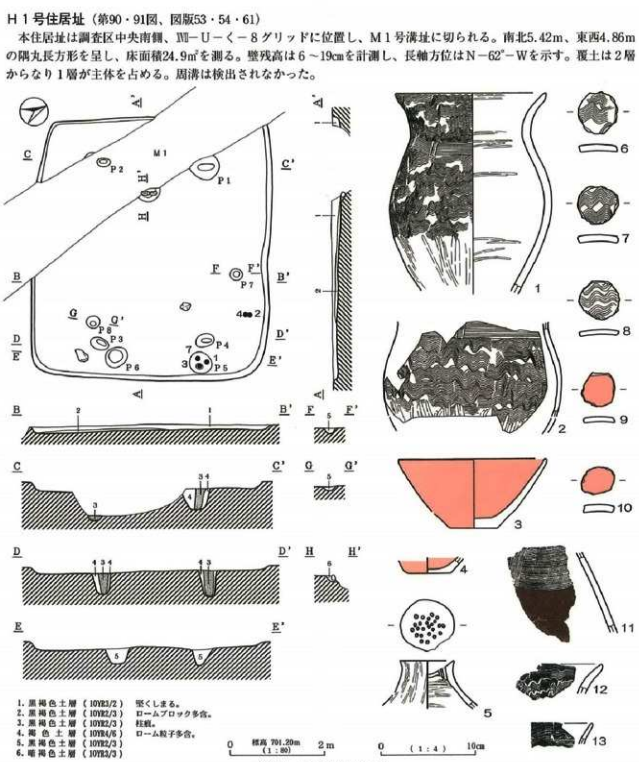
第89図　円正坊遺跡群清水田遺跡Ⅱ全体図

第Ⅶ章　円正坊遺跡群清水田遺跡Ⅱ

第１節　竪穴住居址

Ｈ１号住居址（第90・91図、図版53・54・61）

本住居址は調査区中央南側、Ⅶ－Ｕ－く－８グリッドに位置し、Ｍ１号溝址に切られる。南北5.42m、東西4.86mの隅丸長方形を呈し、床面積24.9㎡を測る。壁残高は６～19cmを計測し、長軸方位はＮ－62°－Ｗを示す。覆土は２層からなり１層が主体を占める。周溝は検出されなかった。

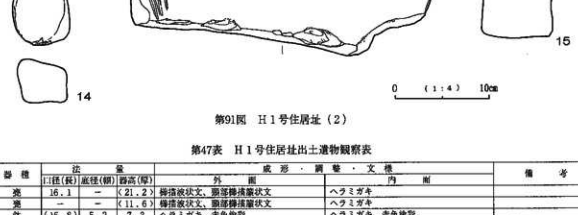


第90図　Ｈ１号住居址（１）

ピットは8基検出された。このうちＰ１～Ｐ４が主柱穴であり、径20cmの柱痕が確認された。Ｐ１～Ｐ３は46～56cmの深さを有し、Ｐ２はＭ１号溝址によって上部を破壊され12cmが残存する。南壁下東側から検出されたＰ５からは甕（1）・鉢（3）・土製円盤（6～10）が出土しており貯蔵穴と考えられる。またＰ６も同様な機能が想定される。炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ２間南側から検出された。Ｍ１号溝址により北半部を破壊され、南側に炉縁石が置かれる。また、この炉縁石は本址から西へ約20m離れたＨ５号住居址の炉縁石と接合し、同一の礫が使用されていることが判明した。

遺物は甕（1・2・12・13）、鉢（3・4）、蓋（5）、土製円盤（6～10）、壺（11）を図示した。

甕は口縁部から胴部上半に櫛描波状文が施文された後頸部に簾状文が巡る。3・4は内外面に赤色塗彩される鉢である。5はＰ６から出土した蓋の頂部で凹部に小孔が貫通しヘラミガキ調整される。土製円盤（6～10）はすべてＰ５内から出土した。6～8は波状文がみられ甕の胴部片を利用したものである。9は壺の胴部片を利用したものであり、10は両面に赤彩され高坏の坏部と考えられる。壺には頸部に櫛描によるＴ字文が施文される11がある。



第91図　Ｈ１号住居址（2）

第47表　Ｈ１号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	成形・調整・文様 外面	内面	備考
1	甕	16.1	－	(21.2)	櫛描波状文、胴部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
2	甕	－	－	(11.6)	櫛描波状文、胴部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
3	鉢	(15.8)	5.2	7.3	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
4	鉢	－	5.0	(1.5)	ヘラミガキ、赤色塗彩、剥離	ヘラミガキ、赤色塗彩	
5	蓋	5.8	－	(4.7)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
6	土製円盤	4.5	4.1	0.7	櫛描波状文	摩滅	甕胴部片、14.9g
7	土製円盤	4.3	4.0	0.7	櫛描波状文	摩滅	甕胴部片、15.7g
8	土製円盤	4.3	4.1	0.5	櫛描波状文	摩滅	甕胴部片、11.1g
9	土製円盤	3.7	3.6	0.6	ヘラミガキ、赤色塗彩	摩滅	壺胴部片、9.6g
10	土製円盤	3.5	3.0	0.8	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	高坏坏部片、8.9g
14	焼石・敲石	11.5	6.1	4.8			460g
15	炉縁石	32.5	11.0	7.8	Ｈ５炉縁石と接合		4,558g

Ｈ２号住居址（第92・93図、図版54・61）

本住居址は調査区中央、四－Ｕ－こ－６グリッドに位置する。東壁部分をＭ１号溝址に、西側をＨ４号住居址に切られるため、南北6.7mが計測できたのみである。壁残高は40～60cmを測り、周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積である。

ピットは９基が検出され、このうちＰ１～Ｐ４が主柱穴である。Ｐ１・Ｐ４は70cm・38cmの深さを有し、Ｐ２・Ｐ３はＨ４号住居址によって上部を破壊され12cm・６cmが残存する。Ｐ５は棟持柱とされるもので深さ27cmを測り、径18cmの柱痕が確認された。Ｐ６～Ｐ８は出入り口に関する柱穴であり、Ｐ９は貯蔵穴としての機能が考えられる。

炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ２間に位置するがＨ４号住居址によって破壊されており、残存部で幅50cm、深さ18cmを計測し壺の胴部片が埋設されていた。

遺物は壺（1・10～12）、甕（2～6・13～19）、鉢（7・8）、高坏（9）の他、石器（20・21）、鉄製品（22・23）、銅製品（24～28）を図示した。

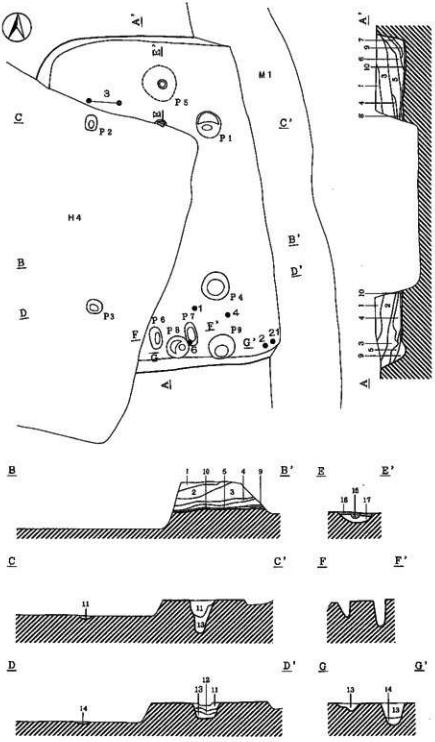
壺は無彩で頸部に櫛描によるＴ字文が巡る１の他に、頸部文様帯を除いて赤彩される10～12がある。甕には波状文の2・3・13・14と羽状文の15～19があるが、3は頸部に簾状文が加えられるのに対して２は波状文のみである。

台付甕は６の台部が１点出土している。鉢には口縁部が直線的に開く７と内彎する８があり、８は小孔が２個みられる。高坏（９）ともに赤彩品である。

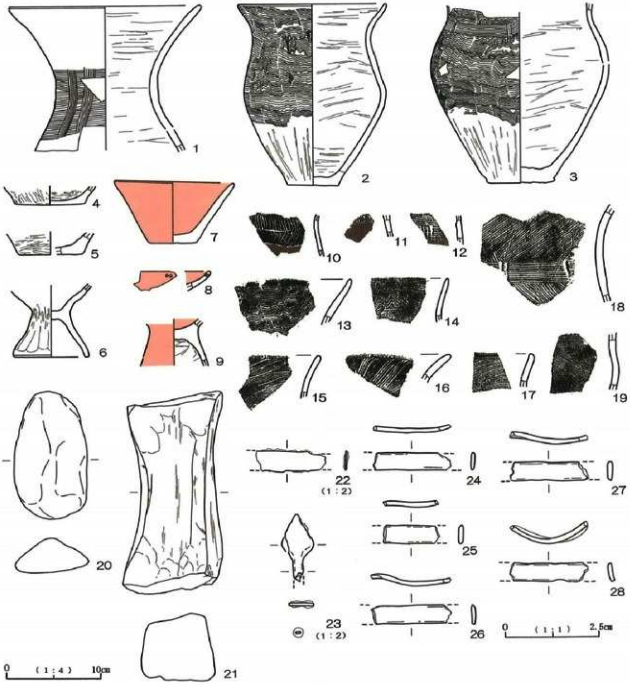
石器には安山岩製の敲石（20）と砂岩製の砥石（21）があり、砥石は四面が使用されている。

22は刀子で残存長3.7cmを測る。23は鉄鏃の鏃身部で三角形を呈し残存長3.6cmを計測する。

24～28は銅鋺と考えられ、Ｐ９から出土した。接合はできないが５点の残存長を合わせると約10cmであり、鋺の径が６cm前後と考えると１／２程度になる。幅0.5cmで断面形状は長方形の板状のタイプである。



第92図　Ｈ２号住居址（１）



第93図　Ｈ２号住居址（２）

Ｈ３号住居址（第94・95図、図版55・56・62）

本住居址は調査区中央東側、Ⅷ－Ｕ－き－６グリッドに位置し、北壁中央部分をＰｉｔ１に、東壁付近上面をＭ２号溝址に切られる。南北5.08m、東西5.98mの東西に長い隅丸長方形を呈し、床面積29.5㎡を測る。壁残高は11～22cmを計測し、長軸方位はＮ－81°－Ｅを示す。覆土は自然堆積で、炭化物を含む８層が床面上を薄く覆っている。周溝は検出されなかった。

ピットは６基が検出され、このうちＰ１～Ｐ４が主柱穴である。東西2.8m、南北2.1mの整然とした配置であり、36～57cmの深さを有する。柱痕は確認されなかった。南壁下中央から検出されたＰ５は出入り口施設に関わる柱穴、

第48表　Ｈ２号住居址出土遺物観察表

No.	器種	法量 口径(長)	法量 底径(幅)	法量 器高(厚)	成形・調整・文様 外面	成形・調整・文様 内面	備考
1	壺	20.4	－	(15.2)	ヘラミガキ、頸部櫛描T字文	ヘラミガキ	
2	甕	15.8	5.4	19.1	櫛描波状文	ヘラミガキ	
3	甕	－	7.2	(18.7)	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
4	甕	－	(7.4)	(1.9)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
5	甕	－	(6.9)	(2.2)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
6	台付甕	－	8.1	(7.5)	ハケナデ、ヘラミガキ	ナデ	
7	鉢	12.6	5.0	6.6	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
8	鉢	－	－	(2.1)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口縁部穿孔
9	高坏	－	－	(4.6)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩、脚部ナデ	
20	擂石・敲石	13.4	7.8	3.8			452 g
21	砥石	21.4	10.6	8.0	四面使用		2,090 g
22	刀子	3.8	1.2	0.4	両端欠損		2.2 g
23	鉄鏃	3.6	1.5	0.5	茎部欠損		1.8 g
24	銅製	2.0	0.5	0.1			0.5 g
25	銅製	1.5	0.5	0.1			0.3 g
26	銅製	2.1	0.5	0.1			0.4 g
27	銅製	2.1	0.5	0.1			0.5 g
28	銅製	2.1	0.5	0.1			0.3 g

南壁下西側から検出されたＰ６は貯蔵用のピットとしての機能が考えられる。

炉址はＰ２・Ｐ３間西寄りから炉址１が、Ｐ１・Ｐ４間から炉址２の２基が検出された。炉址１は径30cm、深さ９cmの円形の掘り方に壺の底部（３）を埋設して設けられる。また、東側に隣接してほぼ同規模の掘り込みが確認され上面には貼床が構築されていた。炉址２は径32cm、深さ15cmの規模を有し、壺（４）の口縁部から頸部を埋設した後、その上に同じ壺の底部を置いて炉体としている。また、この壺の胴部片は南西隅の西壁下から出土している。

遺物は甕（１・２・９～11）、壺（３～５・８）、甑（６）、高坏（７）の他、石器（12～14）を図示した。

１は櫛描羽状文・簾状文が施文された甕で、西壁下中央とＰ６から出土した。甕には他に波状文の９～11があり、11は口唇部に刻目が施される。

壺には炉址１に埋設されていた底部（３）と炉址２に埋設されていた４の他に、西壁下北側から口縁部を下にして出土した５がある。頸部文様は４が櫛描Ｔ字文であり５が櫛描横線文である。また、５は外面と口縁部内面に赤色塗彩されるのに対して４は無彩である。

甑には単孔でヘラミガキ調整される６があり、高坏には口縁部が大きく開き端部に突起が付加される７がある。６は南壁下東側、７は西壁下中央からの出土である。

石器には12のスクレイパーと13・14の敲石がある。

Ｈ４号住居址（第96～98図、図版56・57・62・63）

本住居址は調査区中央、罰－Ｕ－こ－６グリッドに位置し、Ｈ２号住居址を切る。南北6.32ｍ、東西4.52ｍの隅丸長方形を呈し、床面積27.5㎡を測る。壁残高は80～88cmを計測し、長軸方位はＮ－15°－Ｅを示す。周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積であり、16層が床面上を薄く覆っている。

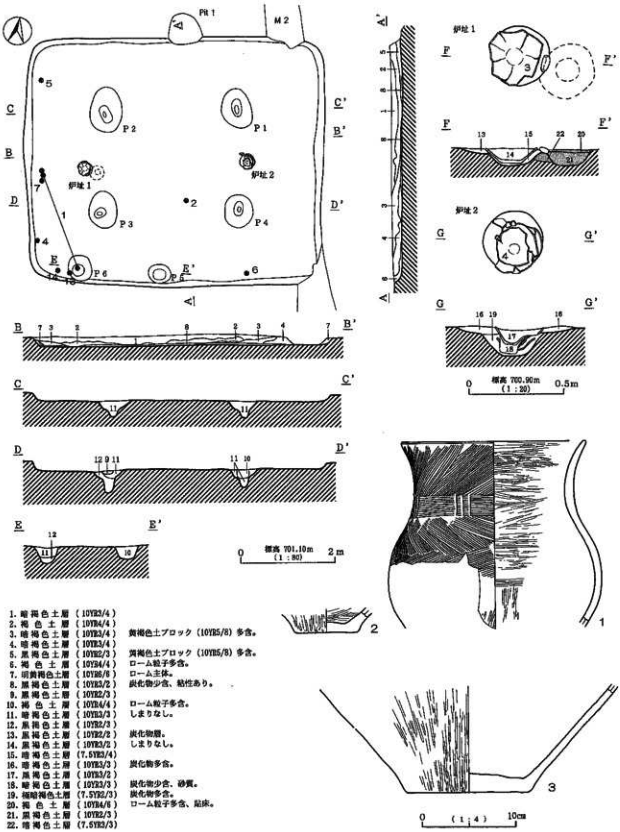
ピットは８基が検出された。このうちＰ１～Ｐ４が主柱穴であり、34～47cmの深さを有する。柱痕は確認されなかった。Ｐ５は南壁下中央から検出された。幅96cm、深さ15cmの長方形を呈し、Ｐ７・Ｐ８とともに出入り口に関する施設であると思われる。この西側に位置するＰ６からは甕（９）が出土しており貯蔵用のピットであろう。

炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ２間の北寄りに位置する。径30cm、深さ17cmの円形の掘り方に甕の底部（11）を埋設して設けられ、この下には焼土が認められた。また、炉址周辺の床面上には薄い炭の分布がみられる。

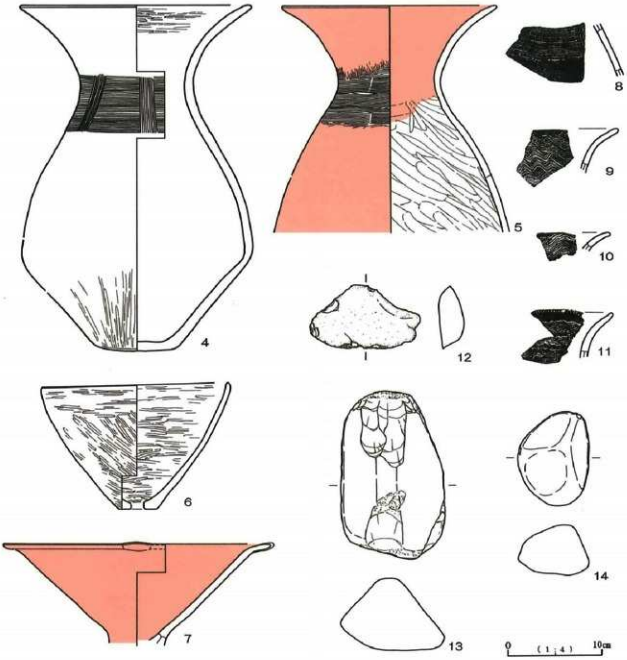
遺物は壺（１～５・26～32）、甕（６～16・33～41）、鉢（17～21）、甑（22）、高坏（23～25）の他、鉄製品（42）、石器（43～45）を図示した。これらの遺物は住居址のほぼ全体から出土しており、特に集中している箇所は認められない。また、西壁下中央に炭化材がみられる。

壺には赤色塗彩される１・２・５・26～32と無彩の３・４がある。頸部文様には３・４の櫛描Ｔ字文の他に筮描による斜格子目文の29・32、斜走文の27・28・30があり、27は円形貼付文が付加される。また、頸部に文様帯をもたない５、わずかに内彎する口縁部に波状文が１条巡る26も存在する。４は西壁下南側、５はＰ４西側と南壁下東側から出土した。

甕は単純口縁で、文様はすべて櫛描による波状文または羽状文であるが、９は頸部に簾状文が施文されない点で他と異なる。また、内面に赤色塗彩される小型の41もある。７はＰ３内、８は北東隅の床面上、９はＰ６内からの出土



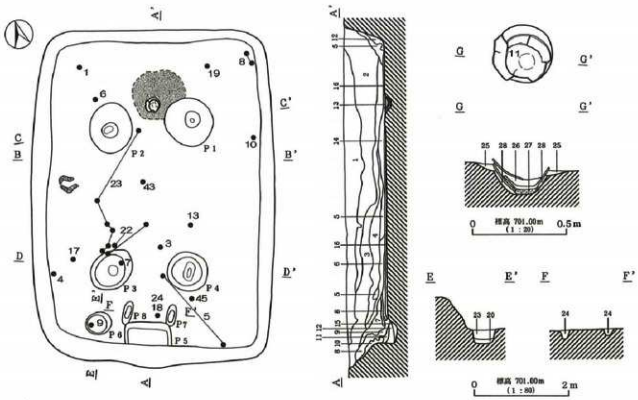
第94図　Ｈ３号住居址（１）



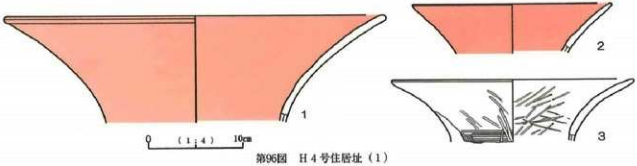
第95図　Ｈ３号住居址（２）

第49表　Ｈ３号住居址出土遺物観察表

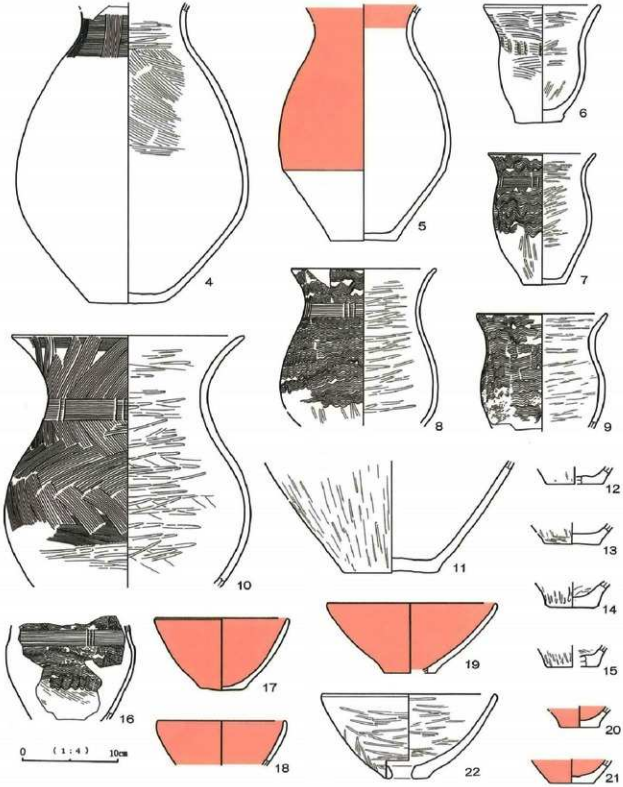
No	器種	法量 口径(長)	法量 底径(幅)	法量 器高(厚)	成形・調整・文様 外面	成形・調整・文様 内面	備考
1	甕	(19.6)	－	〈19.6〉	櫛描羽状文、頸部櫛描加状文	ヘラミガキ	
2	甕	－	(6.9)	〈2.0〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
3	壺	－	13.0	〈11.0〉	ヘラミガキ、赤色顔料付着	調整	炉1
4	壺	24.7	8.1	36.5	ヘラミガキ、頸部櫛描丁字文	ヘラミガキ、摩滅	炉2
5	壺	22.8	－	〈23.8〉	ヘラミガキ、赤色塗彩、頸部櫛描横線文	口縁部ヘラミガキ、赤色塗彩、頸部ハケナデ	
6	甕	20.1	4.2	13.3	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
7	高坏	(28.3)	－	〈10.7〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口唇部突起
12	スタレイバー	6.7	11.7	2.6			220g
13	擦石・敲石	17.7	11.1	7.6			2,155g
14	擦石・敲石	9.9	7.7	5.4			520g



1. 黒　色　土　層（10YR2/1）　粘性あり。
2. 暗 褐 色 土 層（10YR3/3）
3. 黒 褐 色 土 層（10YR3/2）　炭化物少含。
4. 褐　色　土　層（10YR4/4）　ローム粒子多含、炭化物少含。
5. 黒 褐 色 土 層（10YR2/3）
6. 褐　色　土　層（10YR4/4）　上面に炭化物含む。
7. 黄 褐 色 土 層（10YR5/6）　ローム粒子・ロームブロック多含。
8. 黒 褐 色 土 層（10YR2/3）　炭化物多含。
9. 暗 褐 色 土 層（10YR3/3）
10. 明 黄 褐 色 土 層（10YR6/8）　ローム主体。
11. 黄 褐 色 土 層（10YR5/6）　ローム主体。
12. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
13. 暗 褐 色 土 層（10YR3/3）　しまりなし。
14. 明 黄 褐 色 土 層（10YR7/6）　しまりあり。
15. 黒 褐 色 土 層（10YR3/2）　炭化物多含、しまりなし。
16. 暗 褐 色 土 層（10YR3/3）　ロームブロック多含、粘性あり。
17. 暗 褐 色 土 層（10YR3/4）　ロームブロック多含、砂質土。
18. 暗 褐 色 土 層（10YR3/3）
19. 褐　色　土　層（10YR4/4）　ロームブロック多含。
20. 黒 褐 色 土 層（10YR3/2）　炭化物少含、しまりなし。
21. 暗 褐 色 土 層（10YR3/4）　小礫含む。
22. 黄 褐 色 土 層（10YR5/8）　ローム主体、10YR2/3ブロック多含。
23. 黒 褐 色 土 層（10YR2/2）　粘性あり、しまりなし。
24. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
25. 黒 褐 色 土 層（7.5YR3/2）　炭化物・灰少含。
26. 黒 褐 色 土 層（10YR2/2）　炭化物少含。
27. 明 赤 褐 色 土 層（5YR5/8）　焼土。
28. 黒 褐 色 土 層（5YR2/2）　炭化物多含、焼土粒子含む。

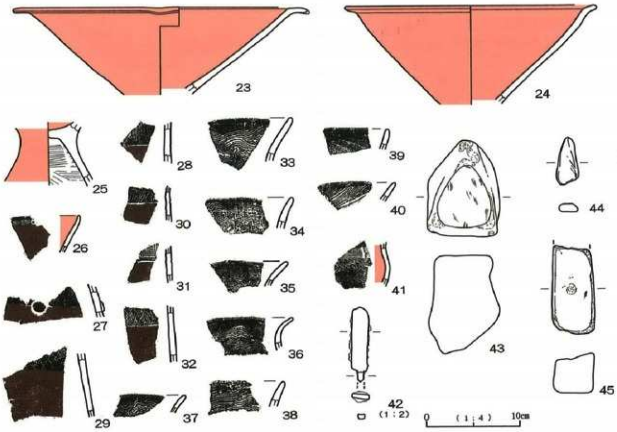


第96図　H 4 号住居址（1）



第97図　H４号住居址（２）

である。鉢（17～21）はすべてが内外面に赤彩される。17～19の出土位置は異なりまとまった状態ではない。22は体部が内彎して立ち上がる単孔の甑でヘラミガキ調整される。Ｐ３北側の床面上からの出土である。



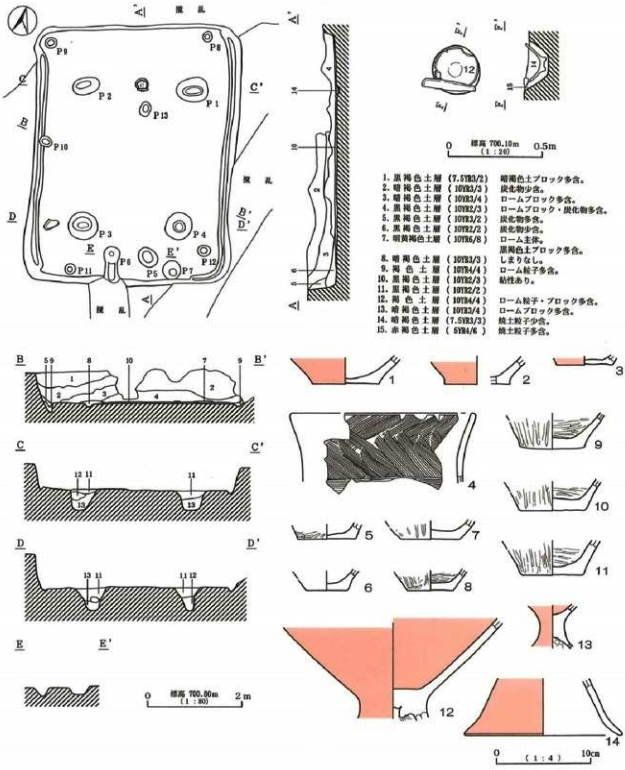
第98図　H 4 号住居址（3）

第50表　H 4 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	法量 口径(長)	法量 底径(幅)	法量 器高(厚)	成形・調整・文様 外面	成形・調整・文様 内面	備考
1	壺	(20.4)	－	(11.3)	ヘラミガキ、赤色塗彩、摩滅	ヘラミガキ、赤色塗彩、調整	
2	壺	(21.2)	－	(5.2)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
3	壺	(25.8)	－	(6.5)	ヘラミガキ、櫛描T字文	ヘラミガキ、赤色顔料付着	
4	壺	－	8.2	(31.4)	ヘラミガキ、頭部櫛描T字文	ハケメ、ヘラミガキ	
5	壺	－	7.1	(24.6)	赤色塗彩、ヘラミガキ	口縁部赤色塗彩、調整	
6	甕	12.6	5.0	12.5		ヘラミガキ	
7	甕	11.5	4.5	13.9	櫛描波状文、頭部櫛描簾状文	ヘラミガキ、赤色顔料付着	
8	甕	15.4	－	(16.6)	櫛描波状文、頭部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
9	甕	13.9	－	(12.1)	櫛描波状文	ヘラミガキ	
10	甕	(24.6)	－	(26.5)	櫛描羽状文、頭部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
11	甕	－	10.0	(11.5)	ヘラミガキ	摩滅	台[3]
12	甕	－	(6.0)	(1.6)	ヘラミガキ、摩滅	ヘラミガキ	
13	甕	－	5.9	(1.9)	ヘラミガキ	ナデ	
14	甕	－	(5.6)	(2.5)	ヘラミガキ	ナデ	
15	甕	－	(5.4)	(1.9)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
16	甕	－	－	(10.0)	櫛描波状文、頭部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
17	鉢	14.3	4.8	7.6	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
18	鉢	(13.6)	－	(4.7)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
19	鉢	17.9	5.4	7.4	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩、調整	
20	鉢	－	4.2	(1.9)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	P 5
21	鉢	－	(4.6)	(2.4)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
22	椀	18.7	4.9	8.9	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
23	高坏	31.2	－	(9.2)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口縁部突起
24	高坏	26.8	－	(10.4)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
25	高坏	－	－	(5.5)	ヘラミガキ、赤色塗彩、摩滅	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩、調整 脚部ハケメ	
42	鉄鏃	3.9	0.9	0.2			3.6g
43	敲石・磨石	5.1	2.4	1.9			16.7g
44	敲石・磨石	9.3	4.5	4.2			305g
45	砥石	10.2	7.8	10.5			1,210g

高坏には全体の器形が知れるものはないが、23・24ともに口縁部が大きく開くもので、23は口唇部に突起が付加される。25は脚部内面を除いて赤色塗彩される。

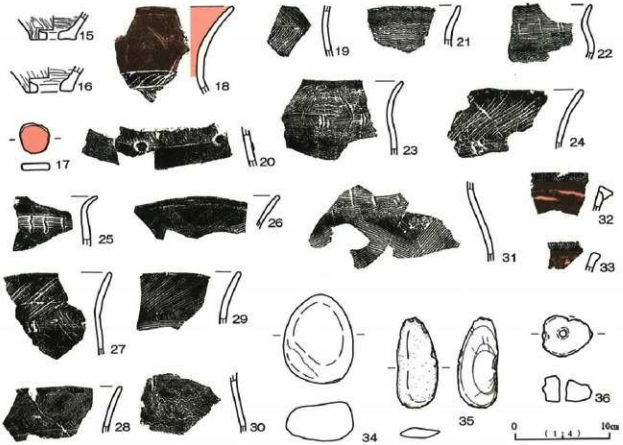
42は残存長3.9cmを測り鉄鏃と思われる。石器には43・44の敲石と45の砥石がある。



第99図　H５号住居址（１）

Ｈ５号住居址（第99・100図、図版57・64）

本住居址は調査区西側の縁辺部、Ⅲ－Ⅴ－おー６グリッドに位置する。Ｈ６号住居址を切り、北壁と東壁南側上部及び南壁の一部は攪乱による破壊を受けている。南北5.24m、東西3.80mの隅丸長方形を呈し、床面積19.5㎡を測る。壁残高は20～70cmを計測し、南東隅付近が最も深い。長軸方位はＮ－10°－Ｗを示す。東壁・西壁下から幅14cm、深さ４～８cmの周溝が検出されたが、北壁と南壁下には認められなかった。覆土は自然堆積で、10層が床面上を薄く覆っている。



第100図　Ｈ５号住居址（２）

第51表　Ｈ５号住居址出土遺物観察表

№	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	－	(7.0)	(2.1)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ	
2	壺	－	(7.0)	(2.3)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ	
3	壺	－	6.0	(0.7)	ヘラミガキ、赤色顔料付着	ナデ	
4	甕	(19.8)	－	(7.2)	櫛描羽状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
5	甕	－	(6.2)	(1.5)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
6	甕	－	4.4	(2.0)	ヘラミガキ、摩滅	ヘラミガキ、摩滅	
7	甕	－	6.2	(1.9)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	P４
8	甕	－	(4.8)	(2.0)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	P３
9	甕	－	6.8	(3.6)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
10	甕	－	7.0	(3.0)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
11	甕	－	6.5	(3.6)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
12	高坏	－	－	(9.9)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩、摩滅	炉
13	高坏	－	－	(4.2)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ナデ、赤色顔料付着	
14	高坏	－	(16.7)	(6.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩、摩滅	ヘラミガキ	
15	椀	－	4.7	(2.5)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	P３
16	椀	－	5.0	(2.3)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
17	土製円盤	3.2	－	0.7	ヘラミガキ、赤色塗彩	摩滅	壺胴部片、8.5g
34	擂石・敲石	9.3	7.4	4.4			435g
35	スクレイパー	9.5	4.3	1.0			48.8g
36	石製品	5.2	4.3	12.5			12.7g

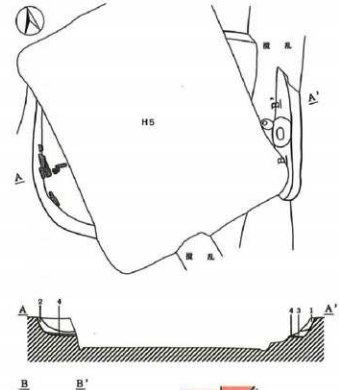
ピットは13基が検出された。このうちＰ１～Ｐ４が主柱穴であり、38～53㎝の深さを有する。柱痕は確認されなかった。南壁下中央に位置するＰ５・Ｐ６は出入り口に関する柱穴であり、Ｐ７は貯蔵用のピットと考えられる。壁下から検出されたＰ８～Ｐ12は径20cm前後、深さ10～22cmと主柱穴に比べて小規模であり補助的な柱穴であろう。

炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ２間に位置する。径26cm、深さ12cmの円形の掘り方に高坏の坏部(12)を埋設して設けられ、南側に炉縁石を置いている。この炉縁石はＨ１号住居址の炉縁石と接合したものである。

遺物は壺（１～３・18～20・32・33)、甕（４～11・21～31)、高坏（12～14)、甑（15・16）の他、土製円盤（17)、石器（34～36）を図示したが、全体の器形が知れるものはない。

壺は20を除いて赤彩され、頸部文様には箆描による平行沈線間を斜走文によって充填する18～20があり、20は円形貼付文が付加される。この他、肥厚する端部に面取りを行い、縄文・櫛描文が施される32・33がある。甕は櫛描波状文または羽状文を施文した後、頸部に簾状文が巡るが、31は簾状文下に波状文が１条巡り、その下に羽状文が施文される。高坏は13・14の脚部内面を除いて赤彩される。甑には単孔の15・16がある。17は壺の胴部片を利用した土製円盤である。

石器には34の敲石・35のスクレイパーの他に、中央部に１孔を有する軽石製の36がある。



第101図　Ｈ６号住居址

Ｈ６号住居址（第101図、図版58・59）

本住居址は調査区西側緩辺部、Ⅶ－Ｖ－お－６グリッドに位置する。Ｈ５号住居址に大半を切られ、東側は撹乱による破壊を受けているため東西5.42ｍが計測できたのみであるが、南北4.2ｍ前後の東西に長い隅丸長方形を呈するものと思われる。壁残高は28～44㎝を測り、周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積である。

ピットは東壁下から２基が検出されたが性格は不明である。炉址は調査範囲内からは検出されなかった。

遺物は内外面に赤彩された鉢の底部（１）が図示できたのみである。

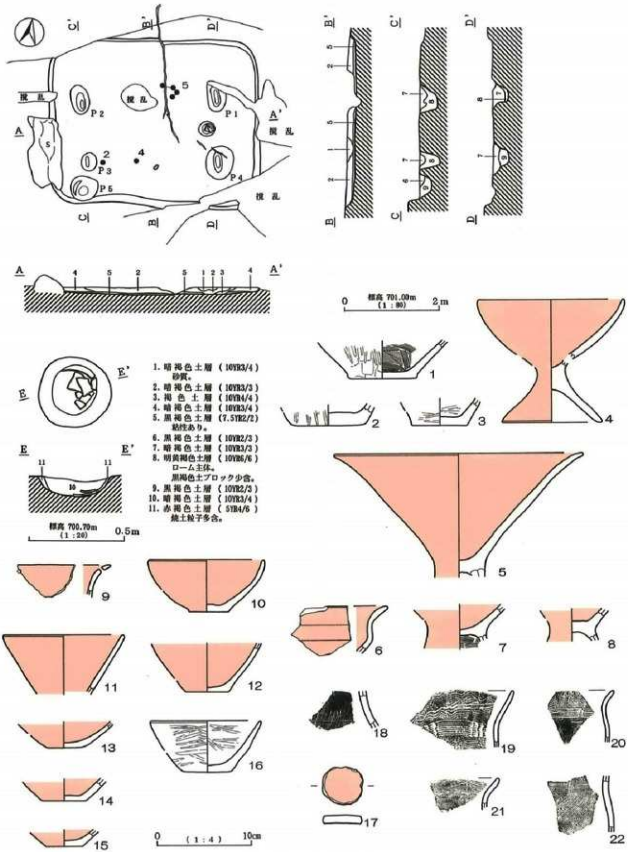
第52表　Ｈ６号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	鉢	－	(5.0)	(1.7)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	

Ｈ７号住居址（第102・103図、図版58・59・64）

本住居址は調査区西側緩辺部、Ⅶ－Ｖ－き－６グリッドに位置し、東壁と南東隅を撹乱による破壊を受けている。南北3.34ｍ、東西4.24ｍの東西に長い隅丸長方形を呈し、床面積13.3㎡を測る。壁残高は２～23㎝を計測し、長軸方位はＮ－79°－Ｅを示す。周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積である。また、本址周辺では垂直方向に地盤のズレが生じており、床面も最大で４㎝のズレがみられる。これは地震に伴う噴砂によるものであり、辻の前遺跡ⅡＨ１号住居址においても確認されている。土層断面は第103図に示した。

ピットは５基が検出された。Ｐ１－Ｐ４が主柱穴であり、39～48㎝の深さを有する。南西隅に位置するＰ５から鉢(11)と土製円盤（17）が出土しており貯蔵用のピットと考えられる。



第102図　H7号住居址（1）

炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ４間から検出された。径76cm、深さ10cmの規模を有し、底面から甕の胴部片が出土している。

遺物は壺（１・18）、甕（２・３・19～22）、高坏（４～８）、鉢（９～16）、土製円盤（17）を図示した。

甕には単純口縁の20と受口気味の19・21があり、文様は波状文または羽状文である。

高坏はすべて赤彩品であるが、口縁部が内彎して立ち上がる４、外反して開く５の他に坏部中位に明瞭な稜を有し口縁部が大きく開く６がある。鉢はヘラミガキ調整される16を除いて赤色塗彩される。

土製円盤（17）は両面が赤彩されており高坏の坏部を利用したものと思われる。

Ｈ８号住居址（第104図、図版59・64）

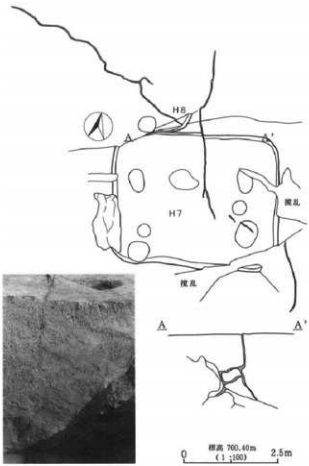
本住居址は調査区西端部、Ⅻ－Ⅴ－けー８グリッドに位置するが、大半が削平を受けており南東隅付近が残存するのみであるため規模・形状等は不明である。壁残高は東壁で７cmを計測する。周溝は検出されなかった。

ピットは５基が検出されたがいずれも主柱穴とは言い難く性格は不明である。

残存する範囲内で炉址は検出されなかった。

遺物は壺（１・２）を図示した。

１は大型の壺で頸部に櫛描簾状文を２条、横線文を４条巡らせた後櫛描文を垂下させるＴ字文が施文される。２は簾状文１条、横線文２条である。１・２ともに文様体を除く外面と口縁部内面に赤色塗彩される。



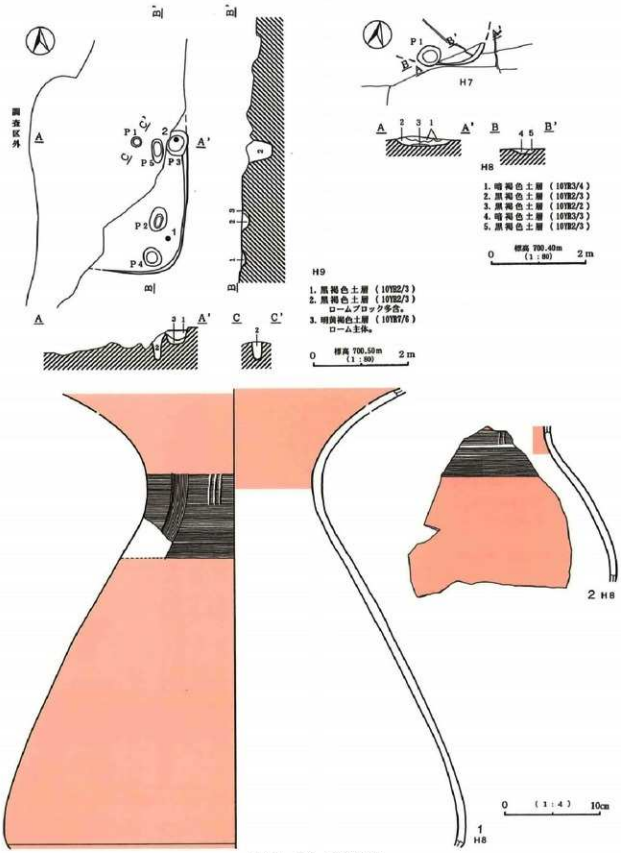
第103図　Ｈ７号住居址（２）

第53表　Ｈ７号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	－	7.4	(3.8)	ヘラミガキ	ハケメ	
2	甕	－	7.8	(1.9)	ヘラミガキ	ナデ	
3	甕	－	6.0	(2.5)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
4	高坏	15.7	10.7	(13.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩、剥離	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩、剥離 脚部ナデ	
5	高坏	(26.4)	－	(13.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩、剥離	ヘラミガキ、赤色塗彩、摩滅	
6	高坏	－	－	(5.9)	ヘラミガキ、摩滅	ヘラミガキ、摩滅	
7	高坏	－	－	(4.7)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ハケナデ	
8	高坏	－	－	(3.5)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩、剥離 脚部ナデ	
9	鉢	－	－	(3.4)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口縁部穿孔
10	鉢	(12.4)	4.1	5.5	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
11	鉢	(12.8)	－	(6.2)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	P５
12	鉢	－	4.6	(5.2)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
13	鉢	－	4.8	(2.5)	ヘラミガキ、赤色塗彩、剥離	ヘラミガキ、赤色塗彩	
14	鉢	－	(4.7)	(2.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩、剥離	ヘラミガキ、赤色塗彩	
15	鉢	－	(3.9)	(1.5)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
16	鉢	(11.6)	5.3	5.4	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
17	土製円盤	4.3	3.9	0.9	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	P５、16.7g

第54表　Ｈ８号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	－	－	(48.1)	ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部櫛描Ｔ字文	口縁部ヘラミガキ、赤色塗彩 胴部ナデ	
2	壺	－	－	(16.3)	ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部櫛描簾状文、櫛描横線文	口縁部ヘラミガキ、赤色塗彩 胴部ナデ、剥離	



第104図　H 8・9 号住居址

Ｈ９号住居址（第104図、図版59）

本住居址は調査区西側、Ⅶ－Ｖ－く－６グリッドに位置するが、大半が削平を受けており南東隅がわずかに残存するのみであるため規模・形状等は不明である。壁残高は16cmを計測する。また、本址もＨ７号住居址と同様に床面にズレが認められた。Ｐ１の性格は不明である。

炉址は極くわずかな範囲が残存するのみであるため検出されなかった。

遺物は弥生土器が少量出土しているが図示できたものはない。

第２節　溝　址・ピット

Ｍ１号溝址（第105図、図版60）

調査区北側Ⅶ－Ｖ－あ－２グリッドから調査区南端部Ⅶ－Ａ－く－５グリッドにかけて検出された。調査区内を南北に縦断する溝で、検出長55.2ｍ、幅0.5～２ｍ、深さ12～70cmを計測する。北から南に向かって傾斜しており、溝幅も徐々に細くなる。北端部と南端部の比高差は40cmを測る。覆土は砂層である２層が主体を占め、底面の状態から流路であると思われる。

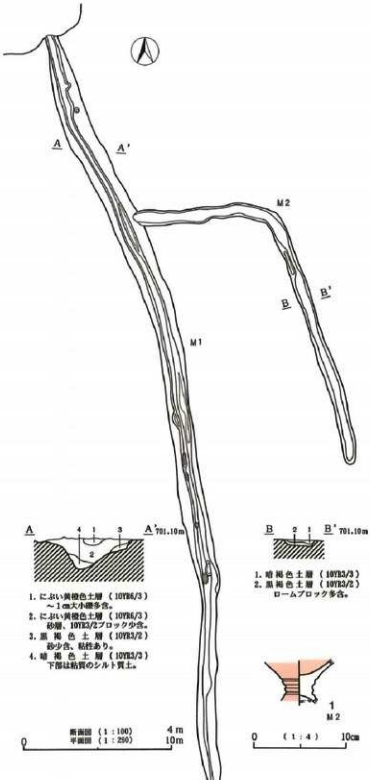
遺物は波状文の甕、赤彩品の壺・高坏など弥生土器の他に須恵器坏が出土しているが、図示できたものはない。

Ｍ２号溝址（第105図、図版60）

Ⅶ－Ｕ－か－８グリッドから調査区中央付近Ⅶ－Ｕ－こ－４グリッドでＭ１号溝址に合流する溝で、東西９ｍ、南北17.5ｍのＬ字状を呈する。幅１ｍ、深さ５～30cmを測り、比高差25cmをもって南から北へ傾斜する。覆土は２層からなり、Ｍ１号溝址と同様に流路と思われる。

遺物には壺・甕・高坏などの弥生土器の他に須恵器の小片があるが、高坏（１）が１点図示できたのみである。

１はハケメ調整が残る脚部内面を除いて赤色塗彩され、接合部に３条の沈線が巡る。



第105図　Ｍ１・２号溝址

第55表　Ｍ２号溝址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	高坏	－	－	(40.9)	ヘラミガキ、赤色塗彩、接合部沈線３条	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩、脚部ハケメ	

ピット（第106図、図版60・65）

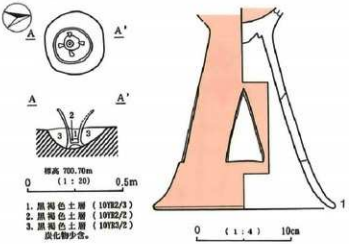
本遺跡からは単独ピットが２基検出された。

Ｐｉｔ１はⅧ－Ｕ－き－５グリッドから検出され、Ｈ１号住居址を切る。径80cm×67cm、深さ28cmを計測する。

Ｐｉｔ２はⅧ－Ｖ－あ－８グリッドから検出され、径34cm、深さ10cmを測り、ピット内から高坏の脚部（１）が逆位の形で出土した。

遺物はＰｉｔ２から出土した高坏（１）を図示した。

脚部のみの出土であり坏部形態は不明である。脚部内面を除いて赤色塗彩された大型品で、４箇所に三角形の透かしを有る。



第106図　Ｐｉｔ２

第56表　Ｐｉｔ２出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	高坏	－	19.5	(21.2)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩	脚部透かし４

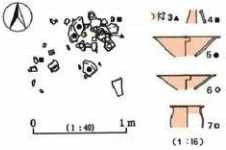
第３節　遺構外出土遺物（第107図、図版65）

遺構外出土遺物として壺（１）、甑（２）、高坏（３～６）、鉢（７）、土製円盤（８）の他、石器（９～16）、耳環（17）、鉄製品（18）を図示した。

１は頸部に筮描による２条の平行沈線・３条の櫛描波状文を巡らせ、その下に筮描による鋸歯文を施文している大型の壺で、Ⅷ－Ｕ－え－８グリッドから出土した。

高坏（３～６）・鉢（７）はⅧ－Ｖ－う－８グリッドからまとまって出土しており第107図に出土状況を示した。５・６は口縁部が大きく開くもので口唇部に突起が付加される。土製円盤（８）は甕の胴部片を利用したものである。

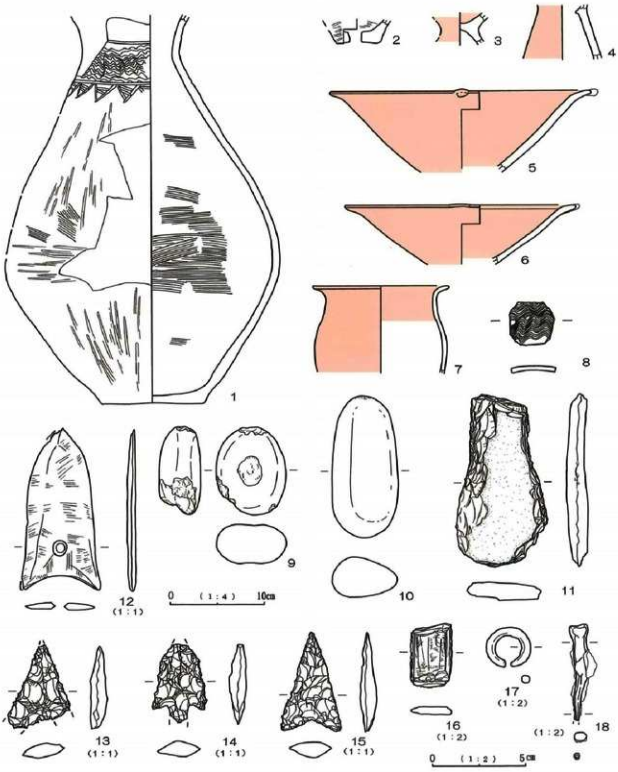
12は長さ4.3cmの大型の磨製石鏃である。打製石鏃には黒曜石製の13・14とチャート製の15がある。16は磨製石鏃の未製品である。



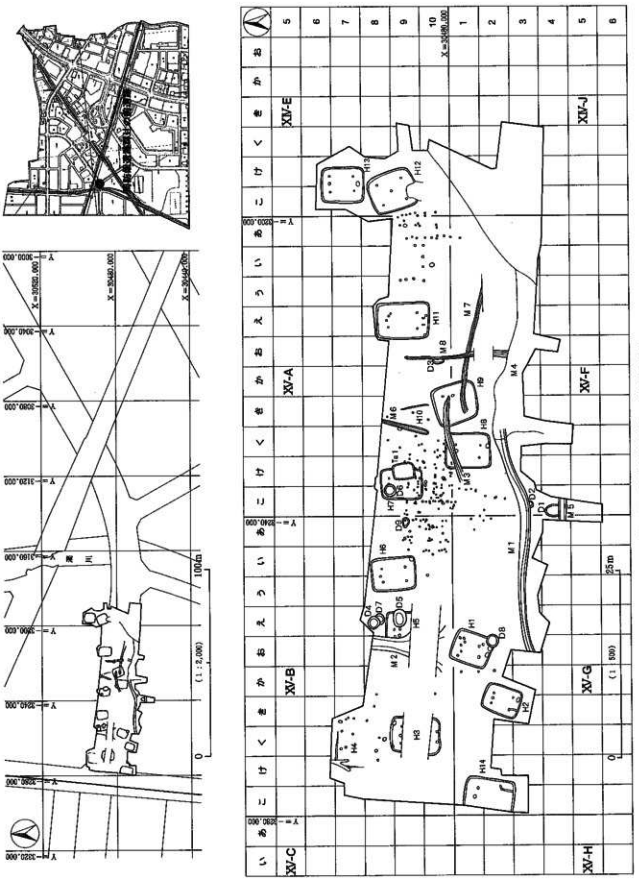
第107図　遺構外出土遺物（１）

第57表　遺構外出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	－	11.0	(40.9)	頸部筮描横線文・波状文・鋸歯文 櫛描波状文、ヘラミガキ	ハケメ	
2	甑	－	4.5	(2.4)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
3	高坏	－	－	(3.4)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩	
4	高坏	－	－	(5.8)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ	
5	高坏	(24.7)	－	(6.3)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口唇部突起
6	高坏	(28.0)	－	(8.6)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口唇部突起
7	鉢	(14.6)	－	(9.3)	ヘラミガキ、赤色塗彩	口縁部ヘラミガキ、赤色塗彩	
8	土製円盤				櫛横波状文	ヘラミガキ	要胴部片、14.4 g
9	搬石・敲石	9.3	7.4	4.4	両面中央に凹み		432 g
10	搬石・敲石	14.9	7.0	4.2			620 g
11	打製石斧	18.2	9.8	2.1			440 g
12	磨製石鏃	4.3	2.1	0.2	下半部中央に孔		2.7 g
13	打製石鏃	2.2	1.7	0.4	無茎、先端部・脚部欠損		1.1 g
14	打製石鏃	2.1	1.4	0.5	有茎、先端部・茎部欠損		1.0 g
15	打製石鏃	2.6	1.6	0.4	無茎		1.1 g
16	磨製石鏃	3.4	2.2	0.4	未製品		6.0 g
17	耳環	2.1	2.4	0.5			5.2 g
18	鉄製品	5.1	1.4	1.1			4.9 g



第108図　遺構外出土遺物（2）



第109図　周防矩遺跡群辻の前遺跡全体図

第Ⅷ章　周防畑遺跡群辻の前遺跡

第１節　竪穴住居址

Ｈ１号住居址（第110図、図版67・68・79）

本住居址は調査区西側、Ⅳ－Ｇ－お－１グリッドに位置し、南東隅をＤ８号土坑に切られる。南北4.96m、東西3.96mの隅丸長方形を呈し、壁残高13～29cm、床面積19.3㎡を測る。長軸方位はＮ－18°－Ｅを示す。周溝は北壁・西壁でわずかに断絶する箇所も認められるが南壁を除く各壁下に巡る。覆土は自然堆積である。

ピットは12基が検出された。このうちＰ１～Ｐ４が主柱穴であり42cm～64cmの深さを有する。その他のピットの性格は不明であるが、南壁下より検出されたＰ11・Ｐ12については、この部分で周溝が途切れていることから出入り口施設に関する柱穴あるいは貯蔵穴と考えられる。

炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ２間の北側東寄りに位置し、径56cm×34cmの楕円形の掘り方に７層暗褐色土を埋め戻した後、壺の底部（２）を埋設して設けられ、土器内には灰の堆積が認められた。

遺物は壺（１・２・11・12）、甕（３・13～16）、高坏（４～７）、鉢（８・９）の他、土製勾玉（10）、石器（17～20）を図示した。

壺には口縁部の内外面に赤色塗彩され、頸部に櫛描による簾状文が施文される１の他に、頸部文様が櫛描横線文と細かい櫛描波状文の11、櫛描Ｔ字文の12がある。２は炉址内に埋設されていた壺の底部であり、内面は剥離が著しい状態である。

３は折り返し口縁の甕で櫛描による波状文を施文した後頸部に簾状文が巡るが、折り返し部への施文は行われていない。甕にはこの他、口縁部が内彎して受口状を呈し櫛描による波状文と縦の条線が施され、口唇部に刻目が加えられる14と櫛描羽状文の15がある。

高坏は脚部内面を除いて全てが赤色塗彩されるが、坏部が内彎して立ち上がる４と坏部に稜をもち口縁部が外反する有稜高坏の５・６があるが、５は明瞭な稜を有するのに対して６は曲線的で不明瞭である。

鉢には口縁部が短く外反する甕型の８と椀状の９があるがいずれも赤色塗彩される。８は頸部に櫛描簾状文が巡り、２孔一対と考えられる小孔を有する。10は北西隅から出土した土製勾玉で、長さ2.6cmを測り赤色塗彩される。

石器には自然礫を使用した泥岩製の砥石（17）、軽石製の砥石（18）、安山岩製の敲石（19・20）がある。

Ｈ２号住居址（第111図、図版67・68・79）

本住居址は調査区南西部、Ⅳ－Ｇ－き－２グリッドに位置する。他遺構との重複関係はない。南北4.68m、東西3.62mの隅丸長方形を呈し、壁残高30～41cm、床面積16.2㎡を測る。長軸方位はＮ－18°－Ｅを示す。周溝は南西隅から検出され、南壁から北側に屈曲し幅10cm前後の間仕切り溝としてＰ３に連結する。覆土は自然堆積である。

ピットは５基が検出された。このうちＰ１～Ｐ４が主柱穴であり18cm～36cmの深さを有する。Ｐ５は南壁下東側から検出された。径60cm×50cm、深さ30cmを測り、貯蔵穴としての機能が考えられる。

炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ２間のやや西寄りに位置し、径60cm×38cmの楕円形の掘り方に４層黒褐色土を埋め戻した後、壺の胴下半部（４）を埋設して設けられる。

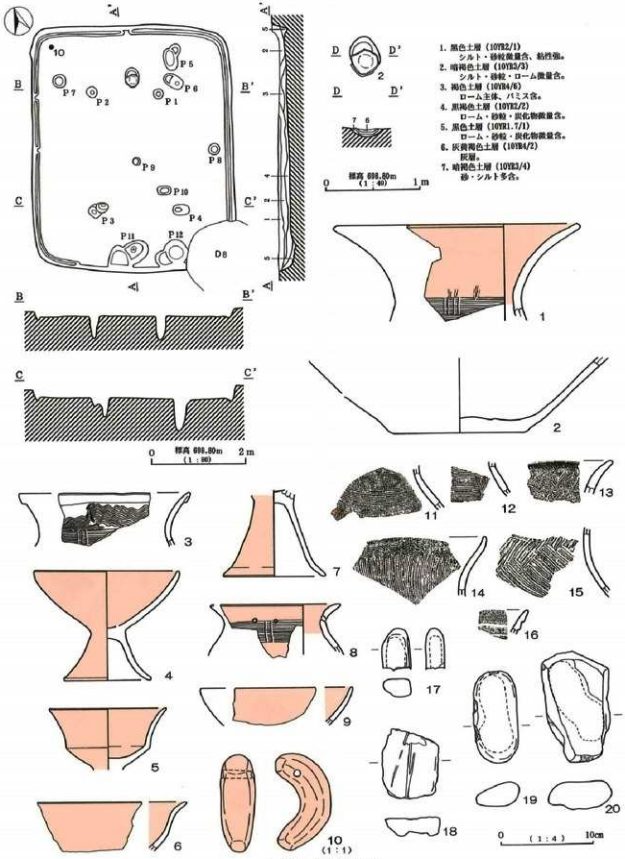
遺物は壺（１～５・13）、甕（６～８・14～21）、壺（９）、鉢（10・11）の他、紡錘車（12）、擦石（22）、軽石製品（23）を図示したが、全体の器形が知れるものはない。

壺は受口口縁の端部に櫛描波状文が１条巡る１があり、頸部文様には櫛描Ｔ字文の２・簾状文の13がある。３は小型の壺の底部で外面に赤色塗彩される。４は炉址内に埋設されていた壺で外面上半に赤色塗彩され、内面にハケメ調整が残る。５は内面底部にヘラミガキ調整が行われ赤色顔料の付着が認められる。

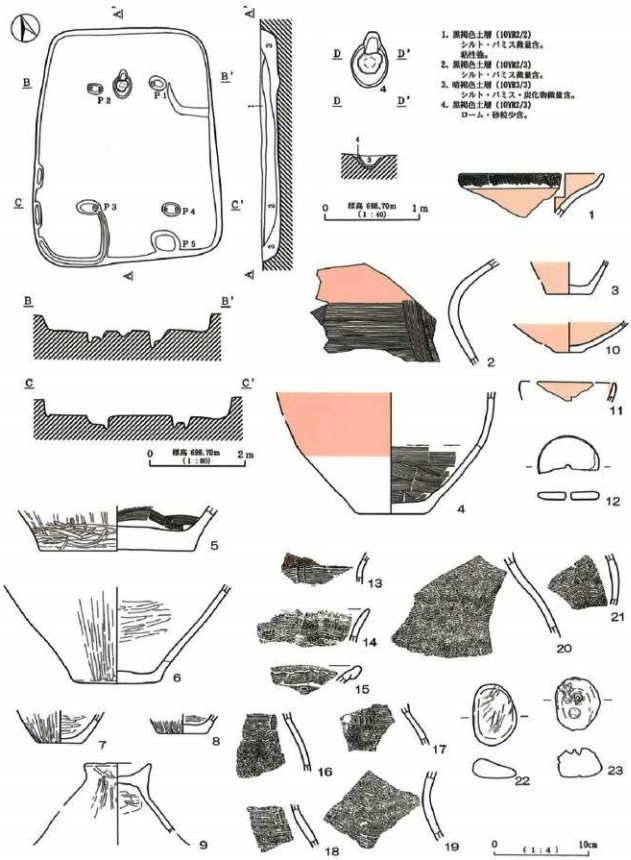
甕には櫛描波状文が施文されるが、頸部に櫛描簾状文が加えられるもの（16・17・18）と加えられないもの（19・20）とがある。他に折り返し部に波状文が巡る15がある。

９は壺の把手部で頂部に凹みをもつが穿孔は行われていない。鉢（10・11）は内外面ともに赤色塗彩され、11は体部が内彎して立ち上がる形態のものである。

12は砂岩製の紡錘車である。約１/２が欠損するが径6.5cm、厚さ0.9cmを測る。23は軽石製で中央に未貫通の孔がみられる。



第110図　H 1 号住居址



第111図　日２号住居址

第58表　H１号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量 口径(長)	法量 底径(幅)	法量 器高(厚)	成形・調整・文様 外面	成形・調整・文様 内面	備考
1	壺	(25.8)	－	(10.3)	ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部櫛描波状文	ヘラミガキ、赤色塗彩	
2	壺	－	14.4	(7.8)	ヘラミガキ	横撫	炉
3	甕	(18.2)	－	(5.6)	櫛描波状文、頸部櫛描波状文	ヘラミガキ	
4	高坏	15.4	9.0	11.8	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ナデ	
5	高坏	(12.4)	－	(6.6)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
6	高坏	－	－	(5.3)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
7	高坏	－	(10.6)	(9.2)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ナデ	
8	鉢	(13.8)	－	(5.4)	ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部櫛描波状文	口縁部ヘラミガキ、赤色塗彩	頸部小孔2
9	鉢	(16.2)	－	(4.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
10	土製勾玉	2.6	0.9	0.9	ヘラミガキ、赤色塗彩		3.2g
17	紡石	4.4	3.0	2.0	2面使用		35.5g
18	砥石	7.6	6.0	2.0	線状痕あり		30g
19	敲石・磨石	9.8	4.8	2.6	敲打痕4、磨面2		200g
20	磨石・敲石	11.9	7.3	3.0	磨面1、敲打痕1		410g

第59表　H２号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量 口径(長)	法量 底径(幅)	法量 器高(厚)	成形・調整・文様 外面	成形・調整・文様 内面	備考
1	壺	－	－	(4.6)	ヘラミガキ、赤色塗彩 口縁部櫛描波状文	ヘラミガキ、赤色塗彩	
2	壺	－	－	(10.3)	ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部櫛描T字文	横撫	
3	壺	－	4.6	(3.4)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ	
4	壺	－	7.6	(12.8)	胴上半ヘラミガキ、赤色塗彩 胴下半ヘラミガキ	ヘラミガキ、ハケメ	炉
5	壺	－	(16.2)	(4.3)	ヘラミガキ	ハケメ 底部ヘラミガキ、赤色顔料付着	
6	甕	－	9.4	(10.2)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
7	甕	－	(4.4)	(3.4)	ナデ、ヘラミガキ	ナデ、ヘラミガキ	
8	甕	－	5.3	(1.8)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
9	蓋	7.0	－	(7.1)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
10	鉢	－	2.8	(3.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
11	鉢	(10.0)	－	(2.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
12	胡桃車	6.5	－	0.9			27g
22	捻石	6.5	4.6	2.0	擦面3		60g
23	凹石	5.5	4.7	3.0	擦面1		20g

H３号住居址（第112・113図、図版68・79）

本住居址は調査区西側、Ⅳ－B－く－９グリッドに位置し、住居址中央を東西に撹乱による破壊を受けている。南北6.28m、東西4.64mの隅丸長方形を呈し、壁残高は南壁で11cm、東壁北側で53cmを測る。床面積は29m²内外の規模を有するものと思われる。長軸方位はN－6°－Eを示す。周溝は検出されなかった。

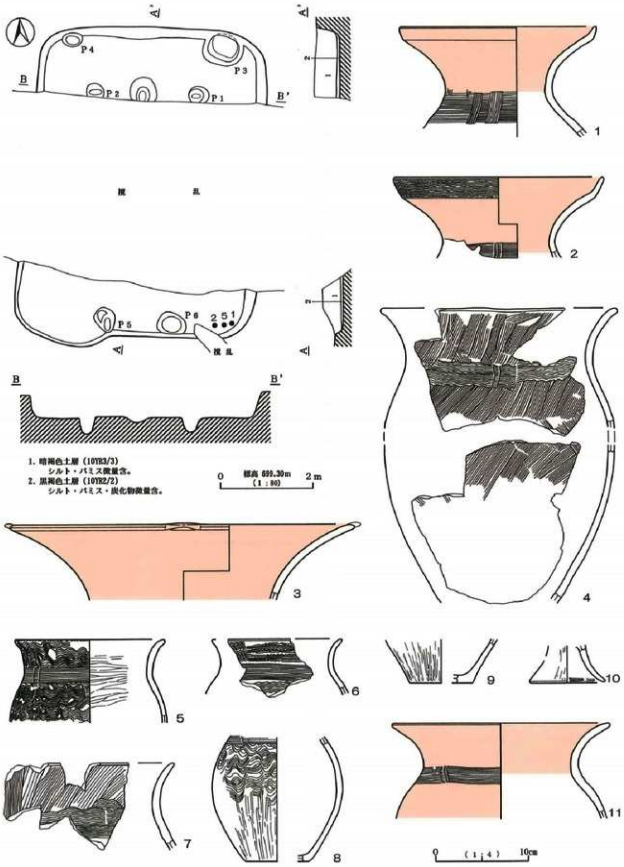
ピットは６基が検出された。このうちP１・P２が主柱穴であり、南側に配される主柱穴は撹乱によって破壊されており残存しない。深さはP１が33cm、P２が39cmを測る。他に北壁下からP３・P４、南壁下からP５・P６が検出され、P５・P６は出入り口施設に関する柱穴と考えられる。

炉址は主柱穴であるP１・P２間のやや西寄りに位置し南端部は撹乱を受けている。径56cmの地床炉である。

遺物は壺（１～３・17）、甕（４～10・18～28）、鉢（11・14）、高坏（12・13・15）、ミニチュア土器（16）の他、石器３点（29～31）を図示した。壺（１・２）、甕（５）は南東隅からの出土である。

壺は受口口縁の１・２と単純口縁の３がある。１は頸部に櫛描T字文が施文されるのに対して、２は櫛描簾状文が巡り、口縁部に振り幅の細かい波状文が加えられる。３は口縁端部に突起が付される。いずれも口縁部から頸部まで赤色塗彩が行われる。

甕の口縁部は単純口縁のものが主体的であるがわずかに受口気味となる23も存在する。施文は口縁部から胴上半部にかけて櫛描によって行われるが、波状文の５・６・８・19～27と羽状文の４・７・18・28がある。また波状文の５・６・８・25には頸部に簾状文が加えられるのに対して羽状文の４・７には波状文が２帯加えられる。さらに、６の波状文は他に比して細かく振り幅に差異が認められる。５には口唇部に刻目が加えられる。台付甕は台部のみの10が１点出土している。

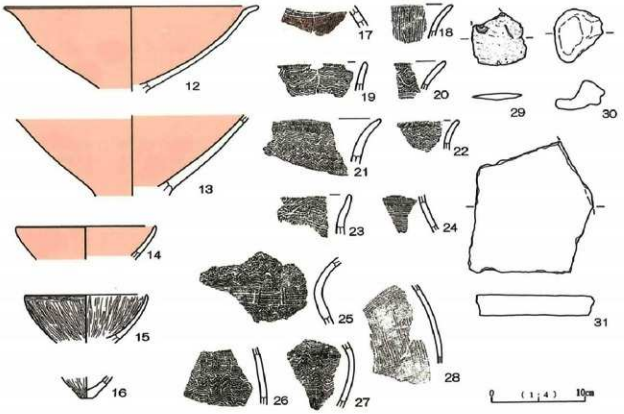


第112図　H３号住居址（１）

11は口縁部が外反する甕型の鉢で、赤色塗彩され頸部に櫛描簾状文が施文される。

12・13は比較的大型の高坏で、12は口縁部内面に稜をもち外反して大きく開く。12・13ともに赤色塗彩される。14は鉢の体部と考えられ、内外面ともに赤色塗彩される。15は無彩で内外面ともにヘラミガキ調整される。高坏の坏部であろうか。16のミニチュア土器は底部のみで全体の器形は不明であるが内外面にヘラミガキが行われる。

石器には磨製石斧の破片（29）、軽石製の凹石（30）、鉄平石の台石（31）がある。



第113図　H３号住居址（２）

第60表　H３号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	21.0	－	〈11.5〉	ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部櫛描工字文	口辺部ヘラミガキ、赤色塗彩	
2	壺	22.4	－	〈8.6〉	ヘラミガキ、赤色塗彩 口縁部櫛描波状文、 頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ、赤色塗彩	
3	壺	〈36.2〉	－	〈8.1〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩、剥離	口唇部突起
4	甕	〈24.8〉	－	〈31.5〉	櫛描羽状文、頸部櫛描波状文	ヘラミガキ	
5	甕	15.6	－	〈8.8〉	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文 口唇部刻目	ヘラミガキ	
6	甕	〈13.6〉	－	〈5.8〉	櫛描波状文、頸部櫛描横線文	ヘラミガキ	
7	甕	－	－	〈8.8〉	櫛描斜走文、頸部櫛描波状文	ヘラミガキ	
8	甕	－	〈6.6〉	〈13.3〉	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
9	甕	－	〈6.8〉	〈4.6〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
10	台付甕	－	〈8.2〉	〈4.0〉	ヘラミガキ	ナデ	
11	鉢	〈23.4〉	－	〈10.2〉	ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部櫛描簾状文	口辺部ヘラミガキ、赤色塗彩 胴部ナデ	
12	高坏	〈27.0〉	－	〈9.2〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
13	高坏	－	－	〈8.4〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
14	鉢	〈14.8〉	－	〈3.5〉	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
15	高坏	〈12.8〉	－	〈5.1〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
16	ミニチュア器	－	1.5	〈2.2〉	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
29	磨製石斧	5.5	5.9	0.6			24g
30	凹石	5.6	5.2	2.8			15g
31	台石	13.9	13.2	2.4			740g

Ｈ４号住居址（第114図、図版69）

本住居址は調査区北西部、Ⅳ－Ｂ－く－７グリッドに位置する。他遺構との重複関係はないが、耕作等による削平のため北壁・西壁北側の周溝及びピットが確認されたのみで壁は残存しない。また、北西隅は攪乱を受けている。

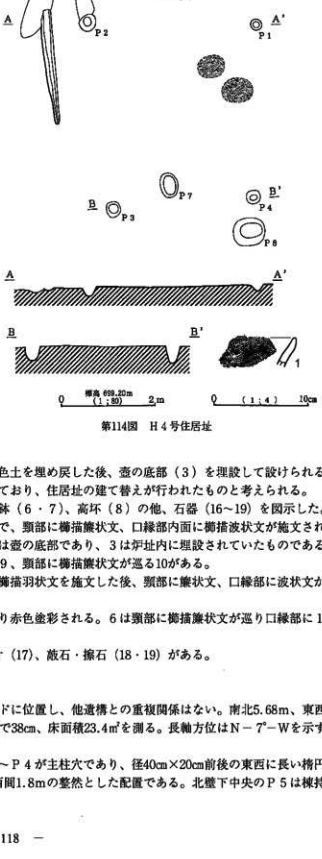
ピットは８基が検出された。全てが本址に伴うものか判然としないが、Ｐ１～Ｐ４が主柱穴と考えられることから、南北6.8m、東西5.6m前後の隅丸長方形を呈するものと想定される。また、Ｐ８は検出された位置から貯蔵穴と思われる。

中央東側より火熱を受けている範囲が２箇所確認され、ここに炉址が設けられていたものと思われる。

前述したように本住居址は削平により周溝の一部とピットが検出されたのみであるため、出土遺物はわずかであり甕（１）が図示できたのみである。

１はわずかに内彎する受口気味の口縁部に櫛描波状文が施文される。

この他、甕の底部片、赤色塗彩された小片が出土している。



第114図　Ｈ４号住居址

Ｈ５号住居址（第115図、図版69・79・80）

本住居址は調査区西側、Ⅳ－Ｂ－え－９グリッドに位置し、西側をＭ２号溝址に、東壁の一部をＤ５号土坑に切られる。また、南半部は攪乱によって破壊を受けており残存しないため、規模・形状等は不明である。壁残高は30cmを測る。周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積である。

ピットは床面上から北側に配される主柱穴であるＰ１・Ｐ２が検出された。炉址はＰ１・Ｐ２間に位置し、50cm×46cm、深さ12cmの掘り方に３層にぶい黄褐色土を埋め戻した後、壺の底部（３）を埋設して設けられる。また、この南側掘り方からＰ３・Ｐ４と炉址が検出されており、住居址の建て替えが行われたものと考えられる。

遺物は壺（１～３・９・10）、甕（４・５・11～15）、鉢（６・７）、高坏（８）の他、石器（16～19）を図示した。

１は調査範囲南側の床面上から出土した単純口縁の壺で、頸部に櫛描簾状文、口縁部内面に櫛描波状文が施文される。赤色塗彩は文様帯を除く内外面に行われる。２・３は壺の底部であり、３は炉址内に埋設されていたものである。壺には他に受口口縁で口縁部に櫛描波状文が施文される９、頸部に櫛描簾状文が巡る10がある。

甕には櫛描による波状文・羽状文が施文される。４は櫛羽状文を施文した後、頸部に簾状文、口縁部に波状文が巡らされ、口唇部に刻目が加えられる。

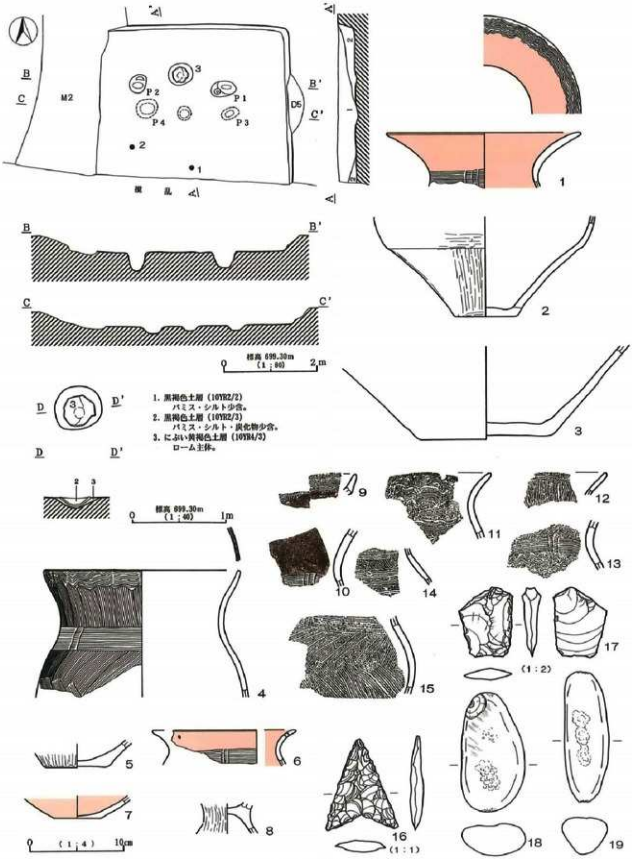
鉢には口縁部が短く外反する甕型の６と椀状の７があり赤色塗彩される。６は頸部に櫛描簾状文が巡り口縁部に１孔を有する。８は無彩の高坏である。

石器には黒曜石製の打製石鏃（16）、チャート製の剥片（17）、敲石・擦石（18・19）がある。

Ｈ６号住居址（第116・117図、図版70・80・81）

本住居址は調査区中央西寄り、Ⅳ－Ｂ－い－８グリッドに位置し、他遺構との重複関係はない。南北5.68m、東西4.16mの隅丸長方形を呈し、壁残高は北壁で24cm、南壁で38cm、床面積23.4m^2を測る。長軸方位はＮ－7°－Ｗを示す。周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積である。

ピットは床面上から14基が検出された。このうちＰ１～Ｐ４が主柱穴であり、径40cm×20cm前後の東西に長い楕円形を呈し、深さは38cm～46cmを測る。南北間3.2m、東西間1.8mの整然とした配置である。北壁下中央のＰ５は棟持



第115図　Ｈ５号住居址

柱であり、Ｐ６・Ｐ７は補助的な柱穴であろうと考えられる。深さは各々27cm・17cm・22cmを測る。Ｐ８は南壁下西側、Ｐ９は南東隅から検出され、29cm・45cmの深さを有し貯蔵穴としての機能が考えられる。

炉址は主柱穴である Ｐ１・Ｐ２間のやや西寄りに位置し、径50cm・深さ20cmの円形の掘り方に６層褐色土を埋め戻した後、壺の胴下部（２）を埋設して設けられる。

遺物は壺（１～４）、甕（５～９・16～18）、甑（10）、鉢（11）、高坏（12・13）、ミニチュア土器（14）、土製紡錘車（15）、の他、石器10点（19～28）、ガラス小玉（29）を図示した。

壺には無彩の１と赤色塗彩される２・３があり、１は内面胴下半部にハケメ調整が施される他はヘラミガキが行われる。２は炉址内に埋設されていた大型の壺の胴下半部で、外面に赤色塗彩・ヘラミガキ、内面にハケメ調整が行われる。３は口縁部内面と外面に赤色塗彩され、頸部に櫛描Ｔ字文が施文される小型の壺である。１は北壁下西側とＰ８北側、３は南東隅からの出土である。

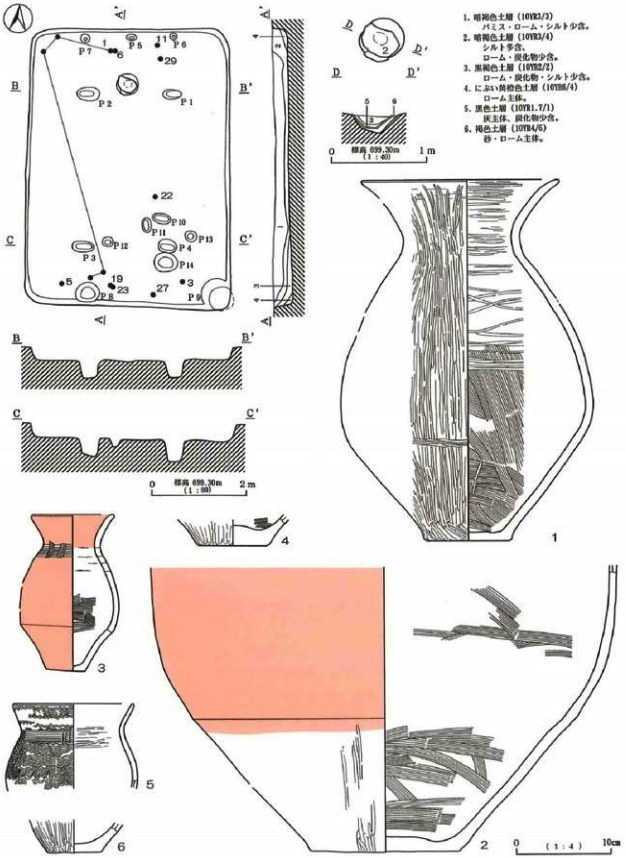
甕は単純口縁で櫛描波状文と頸部に櫛描簾状文が施文される５の他、櫛描による縦の条線と簾状文が施される17、口縁部に波状文・胴部に斜走文が施文される18がある。甑（10）は単孔でヘラミガキされ鉢形を呈するものと思われる。11は片口の鉢で内外面に赤色塗彩が行われる。高坏には12の赤色塗彩の坏部と、裾部で大きく開き外面に赤色塗彩、内面にハケメ調整の施される13の脚部がある。14は外面に赤色塗彩されるミニチュア品である。

第61表　Ｈ５号住居址出土遺物観察表

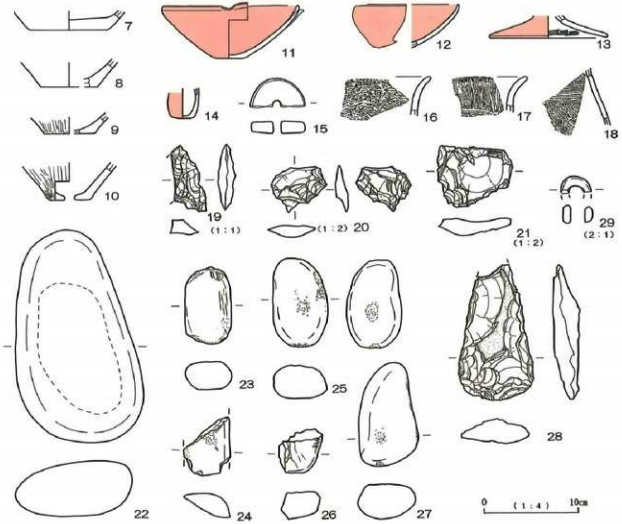
No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	(21.0)	－	(5.8)	ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ、赤色塗彩 口縁部櫛描波状文	
2	壺	－	6.8	(10.6)	ヘラミガキ	ナデ	
3	壺	－	14.8	(9.9)	ヘラミガキ	刷毛	炉
4	甕	(20.6)	－	(13.5)	櫛描羽状文、口縁部櫛描波状文 頸部櫛描簾状文、口唇部刻目	ヘラミガキ、赤色顔料付着	
5	甕	－	7.0	(2.5)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
6	鉢	(15.4)	－	(3.7)	ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ、赤色塗彩	口縁部穿孔
7	鉢	－	5.0	(2.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
8	高坏	－	－	(3.3)	ヘラミガキ	坏部ヘラミガキ、脚部ナデ	
16	打製石鏃	2.5	1.9	0.3	無茎		1.1g
17	剥片	3.7	2.9	1.0			8g
18	敲石・磨石	12.7	6.9	3.5	擦面2、敲打痕3		420g
19	敲石・磨石	13.9	4.8	3.9	擦面3、敲打痕3		360g

第62表　Ｈ６号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	(21.3)	9.5	38.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ、ハケメ	
2	壺	－	15.8	(30.4)	胴上半ヘラミガキ、赤色塗彩 胴下半ヘラミガキ	ハケメ	炉
3	壺	8.4	4.1	16.6	ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部櫛描Ｔ字文	口辺部ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部ハケメ	
4	壺	－	(7.6)	(2.7)	ヘラミガキ	ハケメ	
5	甕	12.8	－	(9.2)	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
6	甕	－	5.7	(3.5)	ヘラミガキ	ナデ	
7	甕	－	8.2	(1.9)	ヘラミガキ	ナデ	
8	甕	－	(6.0)	(2.6)	ヘラミガキ	ナデ	
9	甕	－	(5.4)	(1.7)	ヘラミガキ	ナデ	
10	甑	－	(4.4)	(3.6)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
11	鉢	14.2	2.8	5.5	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	片口
12	高坏	－	－	(4.6)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
13	高坏	－	(12.6)	(2.3)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ハケメ、ナデ	
14	ミニチュア土器	－	2.4	(3.3)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ	
15	紡錘車	5.8	－	1.3	ヘラミガキ		26.9g
19	打製石鏃	1.7	1.0	0.4	無茎		0.5g
20	錐	2.4	2.8	0.7			4.1g
21	剥片	3.3	4.0	0.9			12.6g
22	敲石	22.2	13.5	5.7	擦面2		2,590g
23	敲石・磨石	8.1	5.0	3.0	擦面3、敲打痕4		150g
24	敲石・磨石	6.3	5.0	2.6	敲打痕・擦面あり		30g
25	磨石	9.4	5.8	3.5	擦面2		260g
26	磨石	4.6	4.6	3.0	擦面1		80g
27	敲石・磨石	10.9	6.2	3.7	敲打痕2、擦面3		380g
28	打製石斧	13.8	7.8	2.6			320g
29	ガラス小玉	0.4	－	0.2			0.03g



第116図　Ｈ６号住居址（１）



第117図　Ｈ６号住居址（２）

15は土製の紡錘車で１/２が欠損するが径5.8cm、厚さ1.3cmを測る。土器片を再利用したものではなく紡錘車として焼成されたものでヘラミガキ調整される。

石器には黒曜石製の打製石鏃（19）、チャート製の鎌（20）、22～27の敲石・擦石がある。29はブルーのガラス小玉で径４mmを測る。

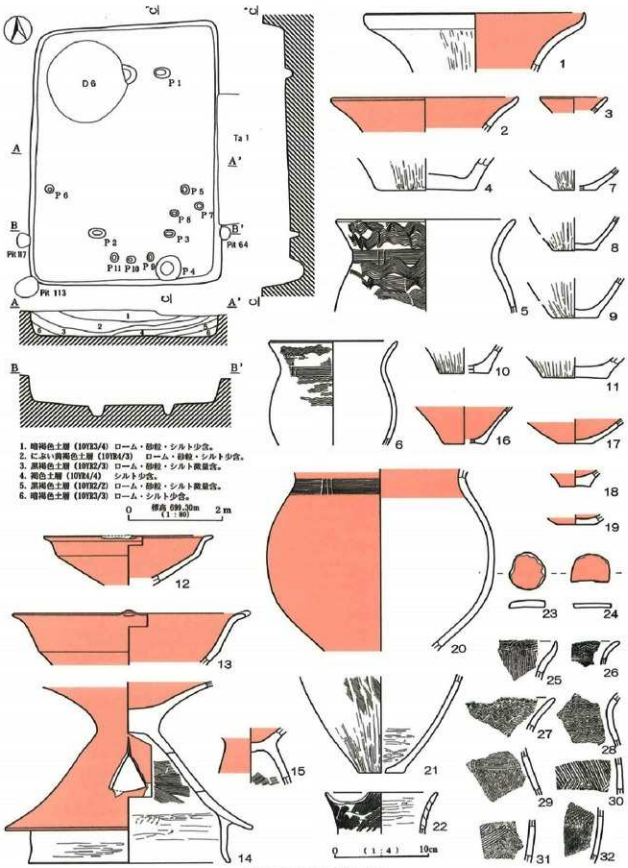
Ｈ７号住居址（第118・119図、図版71・81）

本住居址は調査区中央北側、Ⅳ－Ａ－け－９グリッドに位置する。他遺構との重複関係は北西部分の床面をＤ６号土坑に、東壁上面をTa１号竪穴状遺構に切られる他、Pit 64～69・113・117・121～124に切られる。南北5.34m、東西3.80mの隅丸長方形を呈し、壁残高39～62cm、床面積20.2㎡を測る。長軸方位はＮ－2°－Ｅを示す。周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積である。

ピットは11基が検出された。このうちＰ１～Ｐ３が主柱穴であり、北西に配される主柱穴はＤ６号土坑により破壊され残存しない。深さ16cm～24cmの東西に長い楕円形で、Ｐ１・Ｐ３間3.4m、Ｐ２・Ｐ３間1.3mを測る。Ｐ４は南壁下東側から検出され、径52cmの円形で31cmの深さを有し貯蔵穴と考えられる。南壁下中央から検出されたＰ９～Ｐ11は出入り口施設に関する柱穴と考えられる。

炉址は北側主柱穴間に位置する。Ｄ６号土坑による破壊を受けているため東半部が残存するのみであり、径45cm前後の地床炉である。

遺物は壺（１～４）、甕（５～11・25～32）、高坏（12～15）、鉢（16～20）、甑（21）、土製円盤（23・24）の他、石器４点（33～36）を図示した。



第118図　Ｈ７号住居址（１）

壺は受口口縁の１とわずかに受口気味となる２があり、１の外面には赤色塗彩が行われない。

甕は単純口縁で頸部に櫛描簾状文を巡らせた後、波状文が施文される５と波状文の後簾状文を頸部に巡らせる６があり、施文順序に差がみられる。この他、櫛描羽状文・斜走文の29・30・31、受口状の口縁で櫛描の波状文と縦の条線が施文される25がある。

12・13は高坏の坏部である。大きさに差があるものの、中位で稜をもち端部で屈曲して大きく開く有稜高坏で口唇部に突起が貼り付けされる。14は三角形の透かし孔を４箇所有する脚部に台部が貼り付けされる高坏である。台部は内外面ともにヘラミガキされ、脚部内面がハケメ調整される他は赤色塗彩が行われる。坏部の形態は不明であるが、12・13と同様に中位に稜をもつものであろう。

第119図　Ｈ７号住居址（２）

第63表　Ｈ７号住居址出土遺物観察表

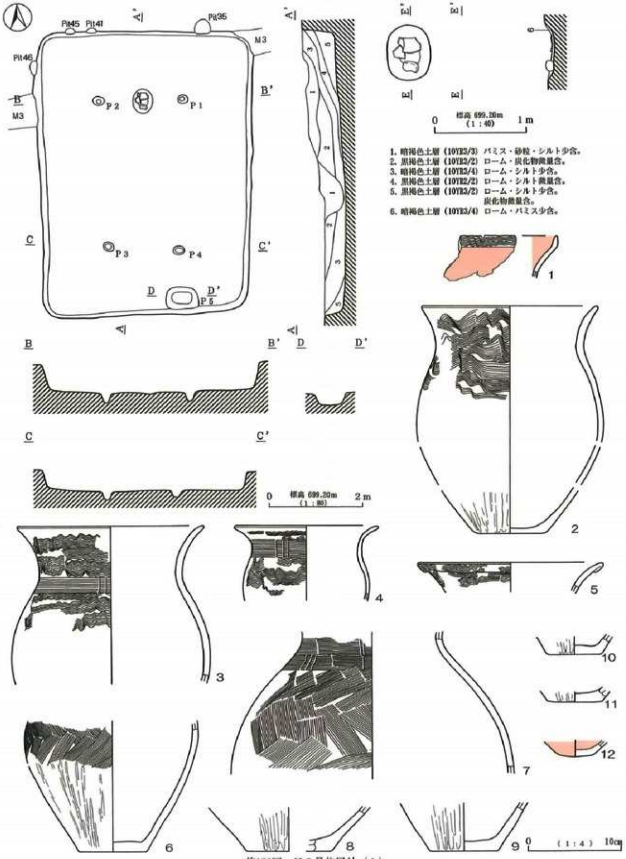
No	器種	法量 口径(長)	法量 底径(幅)	法量 器高(厚)	成形・調整・文様 外面	成形・調整・文様 内面	備考
1	壺	(23.6)	－	(6.2)	ヘラミガキ	ヘラミガキ、赤色塗彩	
2	壺	(20.0)	－	(3.7)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
3	壺	(7.4)	－	(1.7)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
4	甕	－	(10.6)	(3.5)	ヘラミガキ	ナデ	
5	甕	(19.0)	－	(9.9)	櫛描波状文 頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
6	甕	(13.6)	－	(11.1)	櫛描波状文 頸部櫛描簾状文、凝縮	ヘラミガキ	
7	甕	－	(4.6)	(2.1)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
8	甕	－	4.6	(3.5)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
9	甕	－	5.0	(4.2)	ヘラミガキ	凝縮	
10	甕	－	(5.2)	(2.8)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
11	甕	－	6.8	(2.2)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
12	高坏	(18.2)	－	(5.2)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口唇部突起
13	高坏	(25.0)	－	(5.5)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口唇部突起
14	高坏	－	(21.6)	(19.2)	ヘラミガキ、赤色塗彩 台部ヘラミガキ	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ハケメ、台部ヘラミガキ	脚部透かし４
15	高坏	－	－	(5.8)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ナデ、ハケメ	
16	鉢	－	(4.2)	(4.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
17	鉢	－	3.6	(2.2)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
18	鉢	－	3.4	(1.4)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
19	鉢	－	4.0	(0.6)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
20	鉢	－	－	(19.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部櫛描簾状文	口辺部ヘラミガキ、赤色塗彩 胴部ナデ	
21	甑	－	(5.0)	(10.3)	ハケメ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	
22	壺	(12.0)	－	(4.4)	縄文	ヘラミガキ	
23	土製円盤	4.0	3.9	0.7	ヘラミガキ、赤色塗彩	ハケメ	須恵器片、14.9g
24	土製円盤	4.2	－	0.5	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ	須恵器片、8.4g
33	擦石・敲石	14.1	5.5	6.4	敲打痕２、擦痕２		500g
34	擦石	6.1	6.9	11.9	擦痕１		910g
35	擦石	9.6	5.7	2.4	擦痕２、敲打痕１		900g
36	擦石	9.8	5.7	3.3	擦痕２、敲打痕１		240g

付けされる高坏である。台部は内外面ともにヘラミガキされ、脚部内面がハケメ調整される他は赤色塗彩が行われる。坏部の形態は不明であるが、12・13と同様に中位に稜をもつものであろう。

鉢は椀状の16～19と球状の胴部から口縁部が外反する甕型の20がある。椀状の16～19は全て赤色塗彩される。甕型の20は外面と口縁部から頸部内面に赤色塗彩され、頸部に櫛描簾状文が巡る。

甑（21）は単孔で、ハケメ調整の後ヘラミガキされ鉢形を呈するものと思われる。23・24は赤色塗彩された壺の胴部片を利用した土製円盤である。

石器には33～36の擦石があり、34を除いて敲打痕が認められる。34がチャート製である他は安山岩製である。



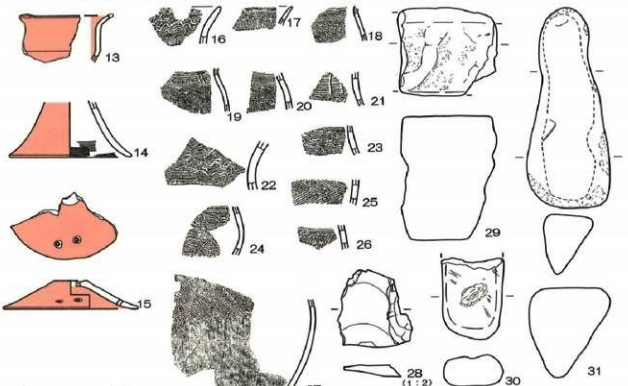
第120図　Ｈ８号住居址（１）

Ｈ８号住居址（第120・121図、図版70・71・81・82）

本住居址は調査区中央、Ⅳ－Ｆ－く－１グリッドに位置する。他遺構との重複関係は北側上面をＭ３号溝址に切られる他、北壁付近をPit35・37・41～46に切られる。南北5.74m、東西4.32mの隅丸長方形を呈し、壁残高は北壁で68cm、南壁で40cm、床面積25.4㎡を測る。長軸方位はＮ－1°－Ｅを示す。周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積である。

ピットは５基が検出され、このうちＰ１～Ｐ４が主柱穴である。北側のＰ１・Ｐ２間1.8mに比べ、南側のＰ３・Ｐ４間は1.5mとやや短いものの整った配置であり、15cm～20cmの深さを有する。Ｐ５は南壁下東側から検出された。21cmの深さを有し貯蔵穴と考えられる。

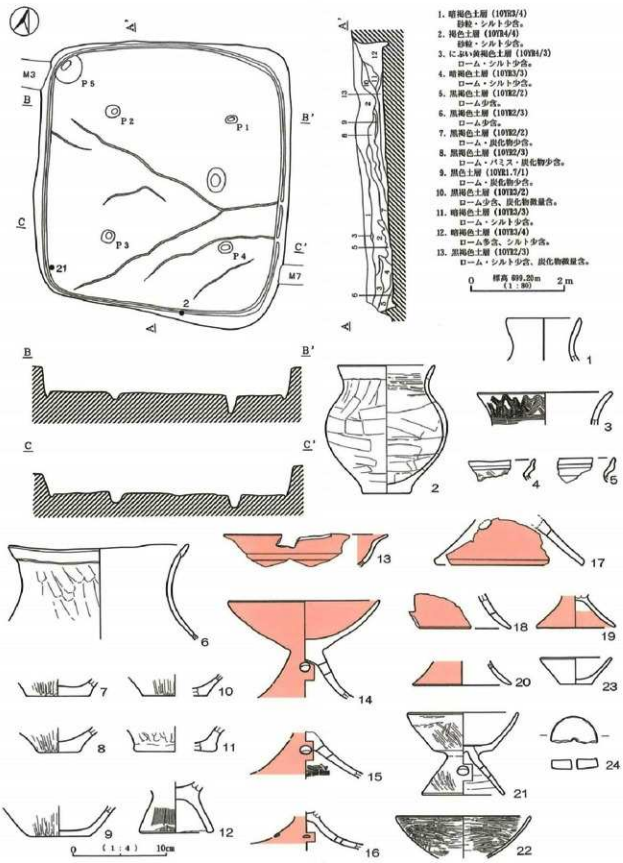
炉址は北側主柱穴間に位置する。径60cm×46cm、深さ10cmの規模を有し南側に炉縁石を置いている。



第121図　Ｈ８号住居址（２）

第64表　Ｈ８号住居址出土遺物観察表

No.	器種	法量 口径(長)	法量 底径(幅)	法量 器高(厚)	成形・調整・文様 外面	成形・調整・文様 内面	備考
1	壺	－	－	(4.4)	ヘラミガキ、赤色塗彩 口縁部櫛描波状文	ヘラミガキ、赤色塗彩	
2	甕	18.8	(7.4)	(24.4)	櫛描波状文、ヘラミガキ	ヘラミガキ	
3	甕	(20.2)	－	(16.9)	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ、調整	
4	甕	(15.6)	－	(8.1)	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
5	甕	(20.2)	－	(3.3)	櫛描波状文	ヘラミガキ	
6	甕	－	7.2	(14.1)	櫛描羽状文、ヘラミガキ	ヘラミガキ	
7	甕	－	－	(15.3)	櫛描羽状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
8	甕	－	(9.4)	(4.7)	ヘラミガキ	ナデ	
9	甕	－	7.2	(5.1)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
10	甕	－	(5.4)	(1.9)	ヘラミガキ	ナデ	
11	甕	－	(4.4)	(1.2)	ヘラミガキ	ナデ	
12	鉢	－	3.6	(1.5)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩、調整	
13	高坏	－	－	(4.9)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口縁部突起
14	高坏	－	(13.0)	(5.8)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ハケメ、ナデ、赤色顔料付着	
15	壺	(3.6)	(14.4)	2.9	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	2孔一対の穿孔
28	剥片	4.0	3.0	0.6			10.6g
29	敲石	9.3	10.7	13.1	敲面２		2,150g
30	敲石	8.6	6.6	3.3	敲面２、敲打痕２		310g
31	敲石	21.2	8.8	9.4	敲面１		1,880g



第122図　Ｈ９号住居址（１）

遺物は壺（1）、甕（2～11・16～27）、鉢（12）、高坏（13・14）、蓋（15）の他、石器4点（28～31）を図示した。

1は受口口縁の壺の口縁部である。内外面に赤色塗彩され端部に櫛描波状文が施文される。

甕には櫛描波状文が施文される2～5・16～24と羽状文が施文される6・7・25～27がある。2は櫛描波状文のみで頸部の簾状文は施文されない。5は折り返し口縁の甕で、折り返し部に波状文が施文される。

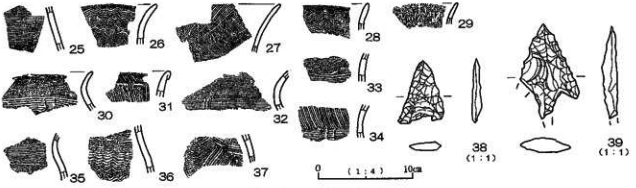
12は小型の鉢で内外面に赤色塗彩が行われる。13・14は高坏であり、13は坏部中位に稜をもつ有稜高坏で端部で大きく開き口唇部に突起が付加される。蓋には内外面に赤色塗彩が行われ、2孔一対となる小孔を有する15がある。

石器には28の剥片と29～31の擦石があり、30には敲打痕が2箇所に認められる。

H9号住居址（第122・123図、図版72・82）

本住居址は調査区中央、Ⅳ－F－き－1グリッドに位置し、M3号溝址に北側上面を、M7号溝址に南側上面を切られる。南北5.50m、東西5.0mの隅丸方形を呈し、壁残高は北東隅で67cm、床面積25.9m²を測る。長軸方位はⅣ－17°－Wを示す。壁下を深さ10cm前後の周溝が全周する。

ピットは5基検出され、このうちP1～P4が主柱穴である。南北間2.7m・2.6m、東西間2.5mの整った配置であり、16cm～38cmの深さを有する。P5は北西隅に位置し深さ9cmを測る。



第123図　H9号住居址（2）

第65表　H9号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量 口径(長)	法量 底径(幅)	法量 器高(厚)	成形・調整・文様 外面	成形・調整・文様 内面	備考
1	壺	(10.4)	5.4	13.6	ナデ	ヘラミガキ、ナデ	
2	甕	(7.8)	－	(4.5)	ナデ	ナデ	
3	甕	(14.2)	－	(3.5)	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
4	甕	－	－	(2.0)	ナデ	ナデ	S字状口縁台付甕
5	甕	－	－	(2.4)	ナデ	ナデ	S字状口縁台付甕
6	甕	19.2	－	(10.0)	ナデ	ナデ	
7	甕	－	6.6	(1.4)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
8	甕	－	(4.6)	(2.1)	ヘラミガキ	ナデ	
9	甕	－	6.4	(3.0)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
10	甕	－	(6.8)	(2.0)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
11	甕	－	(9.0)	(2.3)	ヘラミガキ	ナデ	
12	台付甕	－	8.0	(5.3)	ハケメ、摩滅	ナデ	
13	高坏	－	－	(3.5)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
14	高坏	16.2	－	(10.3)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚端ナデ、赤色顔料付着	脚部穿孔3
15	高坏	－	－	(5.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ハケメ	脚部穿孔3
16	高坏	－	－	(3.8)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ナデ	脚部穿孔4
17	高坏	－	(15.6)	(4.9)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ	脚部穿孔あり
18	高坏	－	－	(3.7)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ、赤色顔料付着	脚部透かしあり
19	高坏	－	8.3	(3.5)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩、ナデ	
20	高坏	－	10.6	(2.5)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ	
21	高坏	(11.6)	8.8	8.6	ヘラミガキ	坏部ヘラミガキ 脚部ナデ	脚部穿孔3
22	高坏	(14.2)	－	(4.5)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
23	鉢	7.8	3.4	2.9	ナデ	ナデ	
24	紡錘車	5.0	－	1.0	ヘラミガキ		17.9g
38	打製石鏃	1.7	1.2	0.2	無茎		0.3g
39	打製石鏃	2.4	1.6	0.4	有茎、茎部・脚部欠損		0.9g

炉址は東側主柱穴であるＰ１・Ｐ４間西寄りから検出された。径52cm×40cmの楕円形で深さ８cmの規模を有する地床炉である。また、本住居址においても清水田遺跡ⅡＨ７・９号住居址でみられた噴砂による垂直方向の地盤の移動が生じており、床面上に数状のズレが認められた。東西方向にみられるもので、東壁下で最大５cmのズレが生じている。

遺物は壺（１・25）、甕（２～12・26～37）、高坏（13～22）、鉢（23）、土製紡錘車（24）の他、打製石鏃（38・39）を図示した。

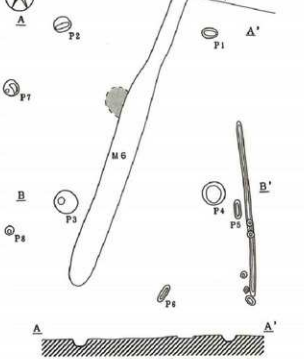
２は口縁部が短く外反し胴部に最大径をもつ甕で、南壁下中央東寄りから出土した。口縁部内面にヘラミガキが行われる他はナデ調整が施される。甕には他に櫛描による波状文・羽状文が施文される26～37と無文で折り返し口縁の６、Ｓ字状口縁台付甕の口縁部（４・５）がある。12は台付甕の台部である。

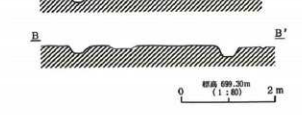
高坏には坏部中位に稜をもち端部で大きく開く有稜高坏の13と体部が内彎して立ち上がる椀状の14がある。14～17は脚部に円形の透かし孔を有するもので14・15は３箇所、16は４箇所に穿孔される。他に透かしを有するものに18があるが形状は不明である。19は脚部内面下半に赤色塗彩が行われる点で他と異なる。21は坏下部に稜をもつ無彩の高坏で、直線的に開く脚部の３箇所に円形の透かし孔をもちヘラミガキされる。22はヘラミガキ調整され高坏の坏部と思われる。

21・22は４・５とともに東海地方に系譜を求められる外来系の土器であり元屋敷式の特徴をもつものと思われる。23は小型の鉢で無彩である。

24は土製の紡錘車で、土器片を再利用したものではなく紡錘車として焼成されたものでヘラミガキが施される。1/2が欠損するが径5.0cm、厚さ1.0cmを計測する。

打製石鏃には無茎の38と脚部と茎部先端が欠損する有茎の39があり、いずれも黒曜石製である。





第124図　Ｈ10号住居址

Ｈ10号住居址（第124図、図版73）

本住居址は調査区中央北側、Ⅳ－Ａ－き－９グリッドに位置し、中央を南北にＭ６号溝址に切られる。また、耕作等による削平を受けており東壁周溝の一部とピットが確認されたのみであり、壁体は残存しないため規模等は不明であるが隅丸長方形を呈するものと考えられる。

ピットは８基が検出された。全てが本址に伴うものか判然としないが、Ｐ１～Ｐ４が主柱穴と考えられ、深さ11cm～19cmが残存する。

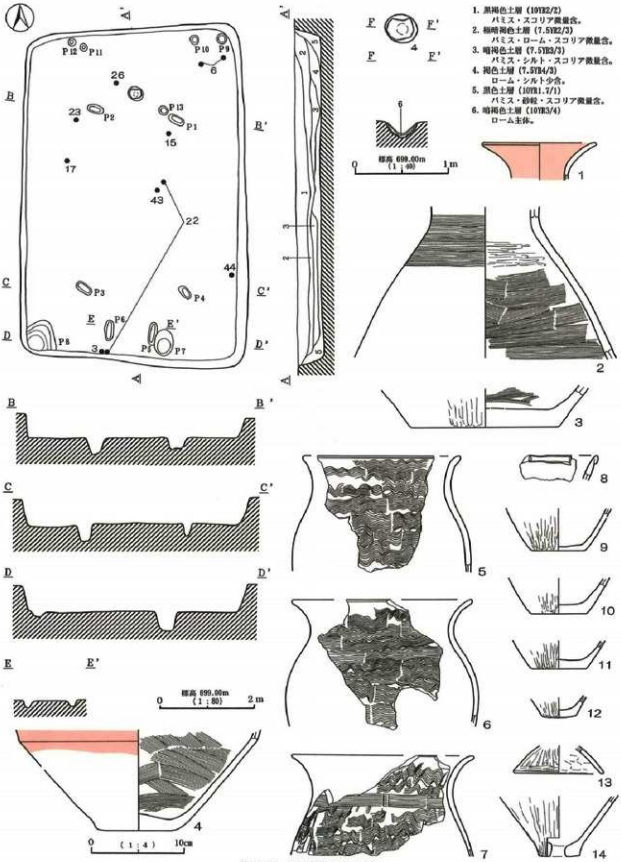
中央付近より火熱を受けている範囲が１箇所確認されており、ここに炉址が設けられていたものと思われる。

前述したように本住居址は削平により周溝の一部とピットが検出されたのみであるため、出土遺物はわずかであり壺（１）、甕（２・３）が図示できたのみである。

１は外面に赤色塗彩が行われる小型の壺の底部である。甕には折り返し口縁の２と櫛描による条線が施文される３がある。

第66表　Ｈ10号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量 口径(長)	法量 底径(幅)	法量 器高(厚)	成形・調整・文様 外面	成形・調整・文様 内面	備考
1	壺	－	(7.2)	(3.2)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ	
2	甕	－	－	(3.0)	ナデ	ナデ	

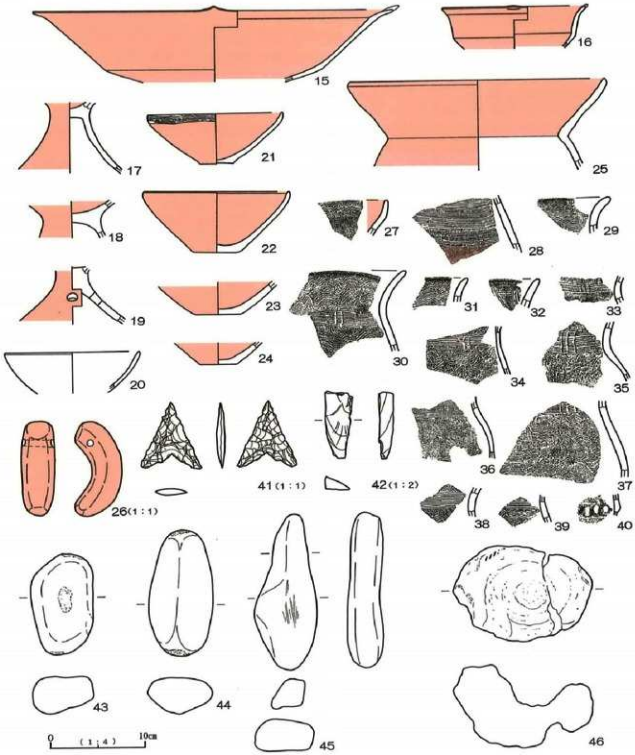


第125図　H11号住居址（1）

Ｈ11号住居址（第125・126図、図版73・74・82）

本住居址は調査区東側、Ⅳ－Ａ－え－９グリッドに位置する。他遺構との重複関係はない。南北6.88m、東西4.56mの隅丸長方形を呈し、壁残高は南壁で60cm、床面積30.7㎡を測る。長軸方位はＮ－1°－Ｗを示す。周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積である。

ピットは13基が検出され、このうちＰ１～Ｐ４が主柱穴である。径36cm×20cm前後の楕円形を呈し、21cm～37cmの



第126図　Ｈ11号住居址（２）

深さを有する。南北間3.7m・3.8m、東西間1.8m・2.2mの長方形に配される。南壁下中央のＰ５・Ｐ６は深さ44cm・48cmを計測し出入り口施設に関する柱穴であり、Ｐ７・Ｐ８は貯蔵穴と考えられる。北壁下のＰ９～Ｐ12は補助的な柱穴であろう。

炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ２間の北側に位置し、径35cm×30cm、深さ18cmの掘り方に壺（２）を頸部を下に埋設した後、さらに壺の底部（４）を置いて設けられる。

遺物は壺（１～４・27・28）、甕（５～13・29～39）、甑（14）、高坏（15～19）、鉢（20～25）の他、勾玉（26）、石器６点（41～46）を図示した。

１は単純口縁の壺で内外面ともに赤色塗彩される。他に受口口縁で口縁部に櫛描波状文が巡り内面に赤色塗彩される27がある。２・４は炉内に埋設されたものである。２は無彩で頸部に櫛描横線文が施文される。

甕は櫛描波状文が施文されるが、波状文のみの５・６と頸部に簾状文が加えられる７がある。13は台付甕の台部でヘラミガキが行われる。甑（14）は単孔でヘラミガキ調整され、鉢形を呈するものと思われる。

15・16は坏部中位に稜を有する有稜高坏で、端部で開き口唇部に突起が付加される。脚部には３箇所に円形の透かし孔をもつ19と透かし孔をもたない17がある。脚部内面を除いて赤色塗彩が行われる。20は高坏の坏部と思われ、無彩でヘラミガキ調整が施される。

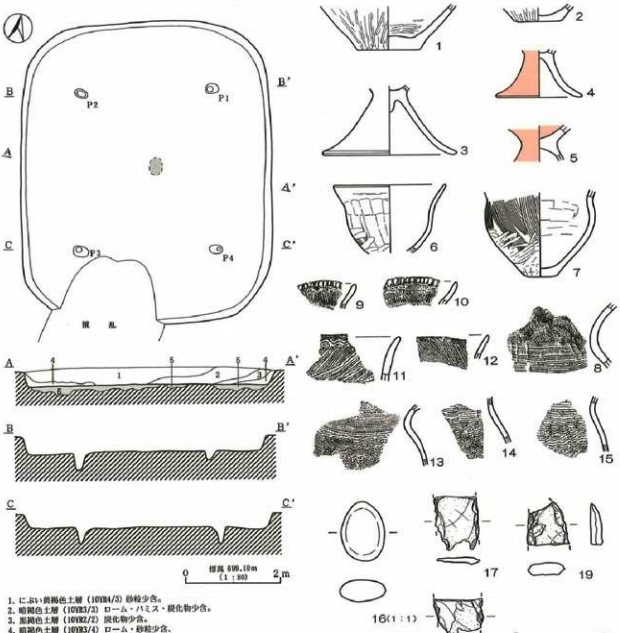
鉢には椀状で内外面に赤色塗彩される21～24と口縁部が「く」の字状に開く25がある。21・22は端部でわずかに内彎するもので、21には口縁部に櫛描波状文が施文される。

土製勾玉（26）は長さ2.5cmで赤色塗彩される。炉址の北西床面上からの出土である。

石器には黒曜石製の打製石鏃（41）と剥片（42）、安山岩製の敲石・擦石（43・44）、自然礫を使用した安山岩製の砥石（45）、軽石製の凹石（46）がある。

第67表　H11号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	(12.4)	－	(3.8)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
2	壺	－	－	(16.0)	ヘラミガキ、頸部櫛描横線文	頸部ヘラミガキ、胴部ハケメ	炉
3	壺	－	(15.8)	(4.1)	ヘラミガキ	ハケメ	
4	壺	－	9.0	(10.7)	胴上半ヘラミガキ、赤色塗彩 胴下半ヘラミガキ	ハケメ	炉
5	甕	(16.6)	－	(12.3)	櫛描波状文	ヘラミガキ	
6	甕	(19.0)	－	(13.5)	櫛描波状文	ヘラミガキ	
7	甕	(19.6)	－	(10.7)	櫛描波状文、頸部簾描無状文	ヘラミガキ	
8	甕	－	－	(2.7)	ナデ	ナデ	
9	甕	－	(5.6)	(4.5)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
10	甕	－	6.0	(3.8)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
11	甕	－	5.8	(3.0)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
12	甕	－	(3.6)	(2.1)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
13	台付甕	－	(9.4)	(3.0)	ヘラミガキ	ナデ	
14	甑	－	4.4	(6.4)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
15	高坏	(38.2)	－	(7.5)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口唇部突起
16	高坏	(15.4)	－	(4.4)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	口唇部突起
17	高坏	－	－	(7.6)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ナデ	
18	高坏	－	－	(3.4)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ナデ	
19	高坏	－	－	(5.7)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ナデ、赤色顔料付着	脚部穿孔３
20	高坏	(14.0)	－	(4.3)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
21	鉢	(14.3)	3.6	5.3	ヘラミガキ、赤色塗彩 口縁部櫛描波状文	ヘラミガキ、赤色塗彩	
22	鉢	(15.3)	4.0	6.4	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
23	鉢	－	4.8	(3.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
24	鉢	－	4.0	(2.3)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
25	鉢	(27.0)	－	(8.9)	ヘラミガキ、赤色塗彩	口辺部ヘラミガキ、赤色塗彩 胴部ナデ、ヘラミガキ	
26	土製勾玉	2.5	0.8	0.9	ヘラミガキ、赤色塗彩		2.8g
41	打製石鏃	1.7	1.5	0.2	無茎		0.3g
42	剥片	3.6	1.4	0.8			4.5g
43	敲石・擦石	10.6	6.7	4.3	敲打痕4、擦痕4		450g
44	敲石・擦石	13.3	6.7	4.5	敲打痕5、擦痕3		510g
45	砥石	16.3	6.6	3.4	擦痕1		460g
46	凹石	10.1	14.8	8.8			310g

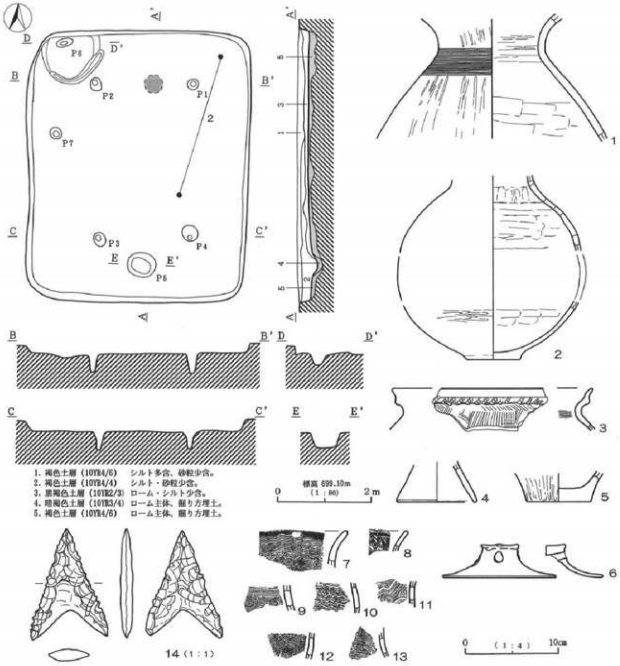


1. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）砂粒少含。
2. 暗褐色土層（10YR3/3）ローム・パミス・炭化物少含。
3. 黒褐色土層（10YR2/2）炭化物少含。
4. 暗褐色土層（10YR3/4）ローム・砂粒少含、炭化物微量含。
5. 褐色土層（10YR4/6）　ローム主体、固り方埋土。

第127図　H12号住居址

第68表　H12号住居址出土遺物観察表

No	器種	法量 口径(長)	法量 底径(幅)	法量 器高(厚)	成形・調整・文様 外面	成形・調整・文様 内面	備考
1	甕	－	6.6	(4.6)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
2	甕	－	5.2	(1.5)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
3	高坏	－	(14.4)	(7.3)	ヘラミガキ	坏部ヘラミガキ、脚部ナデ	
4	高坏	－	9.2	(4.9)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ、赤色顔料付着	
5	高坏	－	－	(3.4)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ナデ、赤色顔料付着	
6	鉢	(12.0)	－	(7.2)	ナデ、ヘラミガキ	ナデ	
7	鉢	－	3.6	(8.9)	ハケメ、ヘラミガキ	ナデ	
16	磨石	1.5	1.1	0.6			1.5g
17	打製石斧	5.2	4.7	0.7			23.1g
18	打製石斧	3.9	5.2	0.9			20.1g
19	打製石斧	4.4	4.5	1.2			30g



第128図　H13号住居址

第69表　H13号住居址出土遺物観察表

㊕	器種	法量				成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	
1	壺	－	－	〈12.6〉		ヘラミガキ、頸部櫛描横線文	口辺部ヘラミガキ 胴部ハケメ	
2	壺	－	5.8	〈19.5〉		ヘラミガキ、摩滅	ナデ	
3	甕	(21.2)	－	〈4.3〉		口縁部刺突文、ハケメ	頸部ハケメ	S字状口縁台付甕
4	台付甕	－	8.6	〈4.3〉		ナデ、摩滅	ナデ	
5	鉢	－	(7.0)	〈3.0〉		ヘラミガキ	ヘラミガキ	
6	蓋	4.1	12.0	3.5		ナデ、ヘラミガキ	ナデ	穿孔4
14	打製石鏃	2.8	2.0	0.3		無茎		1.2g

H12号住居址（第127図、図版74・83）

本住居址は調査区東側、Ⅲ－Ｅ－けー８グリッドに位置し、他遺構との重複関係はないものの、南側を撹乱による破壊を受けている。南北6.16m、東西5.06mの隅丸長方形を呈し、壁残高は東壁で52cm、床面積28.7㎡を測る。長軸方位はＮ－17°－Ｗを示す。周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積であり、床面は５層を埋め戻して設けられる。

ピットは主柱穴であるＰ１～Ｐ４の４基が検出された。径30cm×20cm内外の楕円形を呈し、20cm～38cmの深さを有する。南北間3.3m、東西間2.8m・2.9mの整った配置である。

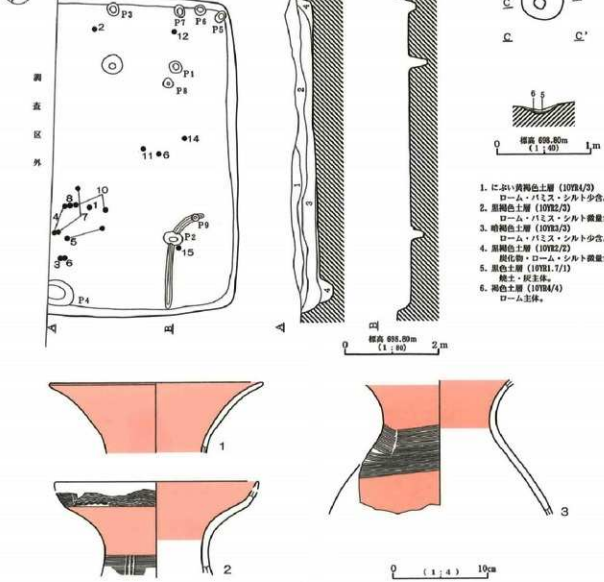
住居址中央に火熱を受けている範囲が１箇所確認され、ここに炉址が設けられていたものと考えられる。

遺物は甕（１・２・９～15）、高坏（３～５）、鉢（６・７）、壺（８）の他、磨石（16）、打製石斧（17～19）を図示したが全体の器形が知れるものはない。

甕には口縁部に斜走文が施文される11・12、櫛描波状文を施し頸部に簾状文が巡る13～15があり、11は口縁部に波状文が１条加えられる。９・10はわずかに受口気味となる口縁部の端部に刻目が施される。

高坏には無彩の３と赤色塗彩される４・５がある。６・７は無彩で口縁部が外反する甕型の鉢である。

16は黒色緻密安山岩製の磨石、17～19は安山岩製の打製石斧の欠損品である。

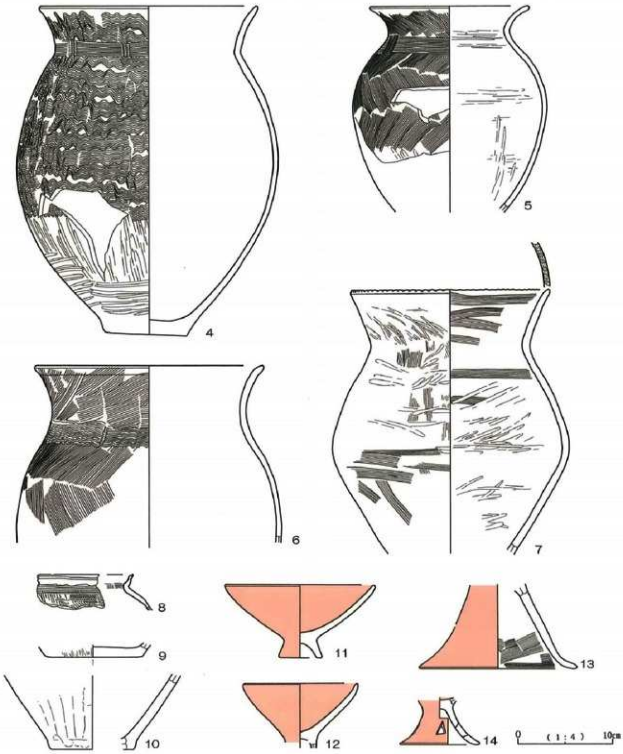


第129図　H14号住居址（１）

H13号住居址（第128図、図版75・83）

本住居址は調査区北東部、XV－E－け－7グリッドに位置し、他遺構との重複関係はない。南北5.52m、東西4.48mの隅丸長方形を呈し、壁残高16～27cm、床面積24.2㎡を測る。長軸方位はN－2°－Wを示す。周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積であり、床面は5層を埋め戻して構築される。

ピットは7基が検出され、このうちP1～P4が主柱穴である。東西2.0m、南北3.3mの整然とした配置であり、



第130図　H14号住居址（2）

深さ36cm～43cmを計測する。南壁下中央から検出されたＰ５は32cmの深さを有し出入り口に関する柱穴と思われる。Ｐ６は北西隅を床面より４cm程高くし、さらに南側を溝によって区画された中から検出され、深さ22cmを計測する。

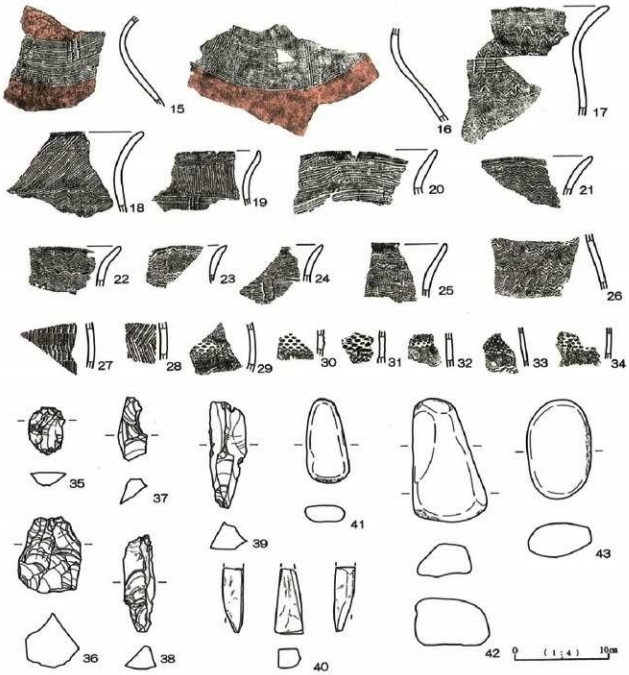
炉址は主柱穴であるＰ１・Ｐ２間に径40cmの範囲で火熱を受けている部分がみられ、ここに炉址が設けられていたものと考えられる。

遺物は壺（１・２）、甕（３～５・７～13）、蓋（６）、打製石鏃（14）を図示した。

壺には頸部に櫛描による横線文が巡る１と胴部が球形を呈する２があり、いずれも赤色塗彩は行われていない。

３はＳ字状口縁台付甕の口縁部で、外面に刺突文がみられることから赤塚分類Ａ類にあたる。他に櫛描文が施文される７～13がある。６は無彩の蓋で、頂部は凹みをもたず扁平で４箇所に穿孔される。

石器にはチャート製の打製石鏃（14）がある。



第131図　H14号住居址（３）

H14号住居址（第129～131図、図版75・83・84）

本住居址は調査区南西端部、Ⅳ－Ｇ－こ－２グリッドに位置し、他遺構との重複関係はないものの西側は調査区外のため未調査である。南北6.4mが計測しうるのみであるが、東西4.8m前後の隅丸長方形を呈するものと考えられる。壁残高は25～48cmを測る。周溝は検出されなかったが、Ｐ２から南北に幅12cm、深さ５～10cmの間仕切溝が確認された。覆土は自然堆積である。

ピットは９基が検出された。このうちＰ１・Ｐ２が主柱穴であり深さ38cm・30cmを計測するが、西側に配される主柱穴は調査区外である。炉址北側の北壁下から検出されたＰ３は棟持柱と思われ30cmの深さを有する。南壁下に位置するＰ４は貯蔵穴であり、Ｐ５～Ｐ８は補助的な柱穴と考えられる。

炉址は北側主柱穴間に位置し、径44cm×40cm、深さ10cmの地床炉である。

遺物は壺（１～３・15・16）、甕（４～10・17～28）、高坏（11～14）、石器（35～43）を図示した。これらの遺物はＰ４北側に集中する傾向がみられ、壺（１・３）、甕（４・８・10）が出土している。この他、住居址北側から壺（２）、高坏（12）、中央付近から甕（６）、高坏（11・14）が出土している。

壺は文様帯を除く外面と口縁部内面に赤色塗彩されるが、口縁部形態には単純口縁の１と受口口縁の２があり、２は口縁部に櫛描による波状文が施文される。また、頸部文様には櫛描簾状文の２の他、２条の横線文が巡る３、簾状文＋横線文の15、Ｔ字文の16などがあり多様である。

甕の口縁部は外反する単純口縁のものが主体的であるが、端部が内彎して受口状を呈し擬描波状文が施文される19も存在する。文様は口縁部から胴部上半に櫛描による波状文または羽状文が施文され、頸部に文様帯が加えられる。頸部文様には４の簾状文の他に、横線文に垂下文が加えられる５、波状文の６・18がある。７は無文で口唇部に刻目が施されるのみである。８はＳ字状口縁台付甕の口縁部で外面の刺突文はみられずＢ類に属するものであろう。

高坏は脚部内面を除いて赤彩される。11は脚部に再加工が行われている。14は三角形の透かしを４箇所有する。

35～39は黒曜石の剥片である。40は砂岩製の砥石であり、41～43は安山岩製の敲石である。

この他、本址からは29～34に示した縄文時代早期と考えられる土器片が出土している。29～32・34は楕円押型文、33は格子押型文が帯状施文された深鉢である。本遺跡の西側に隣接する辻の前遺跡ⅡＨ１号住居址からも同様な土器片が出土していることから、付近に該期の遺構が存在する可能性が考えられる。

第70表　H14号住居址出土遺物観察表

No.	器種	法量 口径(長)	法量 底径(幅)	法量 器高(厚)	成形・調整・文様 外面	成形・調整・文様 内面	備考
1	壺	(22.8)	－	(7.4)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
2	壺	－	－	(10.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩 口縁部櫛描波状文 頸部擬簾簾状文	ヘラミガキ、赤色塗彩、剥離	
3	壺	－	－	(13.5)	ヘラミガキ、赤色塗彩 頸部擬簾簾縦文	口辺部ヘラミガキ、赤色塗彩	
4	甕	23.0	34.8	8.7	櫛描波状文 頸部櫛描横集状文	ヘラミガキ	
5	甕	(17.0)	－	(21.7)	櫛描羽状文 頸部櫛描横縦文＋垂下文	ヘラミガキ	
6	甕	(24.4)	－	(18.7)	櫛描羽状文、頸部櫛描波状文	ヘラミガキ	
7	甕	(21.2)	－	(27.7)	ハケメ、ヘラミガキ 口唇部刻目	ハケメ、ヘラミガキ	
8	甕	－	－	(3.7)	ハケメ	頸部ハケメ	Ｓ字状口縁台付甕
9	甕	－	9.2	(1.2)	ヘラミガキ	ナデ	炉
10	甕	－	(8.6)	(7.8)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
11	高坏	(16.0)	7.7	4.4	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ナデ	脚部再加工
12	高坏	12.2	－	(6.8)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
13	高坏	－	16.8	(8.9)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ハケメ	
14	高坏	－	8.5	(5.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩 脚部ナデ	脚部透かし４
35	剥片	2.5	1.9	0.7			2.9 g
36	剥片	4.0	3.2	2.8			26.8 g
37	剥片	3.4	1.6	1.3			4.8 g
38	剥片	5.1	1.5	1.3			7.5 g
39	剥片	5.6	2.0	1.4			11.6 g
40	砥石	6.8	3.0	2.9			50 g
41	敲石	8.9	4.5	1.7			130 g
42	敲石	13.0	7.9	5.0			640 g
43	敲石	10.5	7.0	3.5	擦面２、敲打痕１		400 g

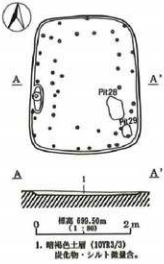
第２節　竪穴状遺構

Ta１号竪穴状遺構（第132図、図版76）

本址は調査区中央北側、Ⅳ－Ａ－けー９グリッドに位置する。Ｈ７号住居址を切り、Pit 28・29に切られる。南北2.82m、東西2.18mの隅丸長方形を呈し、床面積5.8m²を測る。壁残高は東壁で５cm、西壁で８cmを測り、長軸方位はＮ－4°－Ｗを示す。覆土は炭化物をわずかに含む暗褐色土層１層からなる。

壁下と30～40cm内側の床面上から径６cm前後の小ピットが多数検出された。

本址からの出土遺物はない。



第132図　Ta１号竪穴状遺構

第３節　土　坑（第133・134図、図版76・77・84）

辻の前遺跡から検出された土坑は９基を数え、特に集中する傾向は認められない。このうちＤ６号土坑・Ｄ８号土坑が井戸址と考えられる以外は出土遺物もわずかであり時期・性格ともに不明である。形状は円形または楕円形を呈する。また住居址と重複関係をもつものもあり、いずれも住居址を切っている。

土坑内から出土した遺物には須恵器、弥生土器、石器がある。

１は須恵器甕の口縁部で、Ｄ６号土坑からの出土である。２は中位に明瞭な稜を有する有稜高坏の坏部でＤ８号土坑から出土した。内外面に赤彩され口唇部に突起が付加される。

甕には櫛描による波状文が施文されるが、受口状の３と単純口縁の４があり、Ｄ７号土坑・Ｄ８号土坑からの出土である。

石器にはＤ７号土坑から出土した安山岩製の敲石（５）とＤ６号土坑から出土した砂岩製の砥石（６）がある。

各土坑の規模・形態等については土坑一覧表に記した。

Ｄ６号土坑

調査区中央北側、Ⅳ－Ａ－こ－８グリッドから検出され、Ｈ７号住居址を切る。長軸長1.94m×短軸長1.70mの楕円形を呈する井戸址と思われる。深さ1.6mまで掘り下げを行ったが湧水により底面を確認するには至らなかった。覆土は５層からなるが、ロームを主体とする４・５層は円筒状の掘り方の側面に貼り付けられた状態である。

Ｄ８号土坑

調査区西側、Ⅳ－Ｇ－お－２グリッドから検出され、Ｈ１号住居址の南東隅をを切る。長軸長1.67m×短軸長1.56mの円形を呈する井戸址と思われる。深さ1.2mまで掘り下げを行ったが湧水により底面を確認するには至らなかった。

第133図　Ｄ６～８号土坑出土遺物

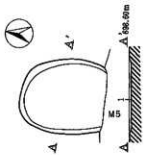
第71表　Ｄ６・８号土坑出土遺物観察表

№	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	須恵器　甕	－	－	(6.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ｄ６
2	高坏	－	－	(4.8)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	Ｄ８、口唇部突起
5	敲石	16.3	16.0	4.0			Ｄ６、1,550g
6	砥石	8.0	4.3	1.2			Ｄ６、70.4g

第４節　溝址・ピット

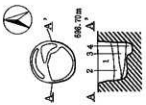
溝　址（第135・136図、図版77・84）

本遺跡からは８条の溝址が検出された。Ｍ２・３・６・７号溝址は住居址と重複し、いずれも住居址よりも新しい溝址である。また、Ｍ４号溝址は河川跡と考えられる。



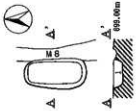
1. 褐色土層（10YR4/4）
シルト多含、パミス微量含。

D1



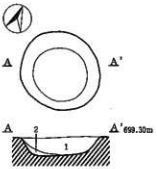
1. 明褐色土層（10YR3/4）
シルト主体。
2. 灰褐色土層（10YR2/3）
ローム・シルト少含。
3. 褐色土層（10YR4/4）
ローム主体。
4. 褐色土層（10YR4/6）
ローム主体。

D2



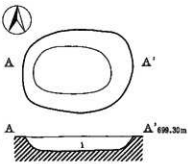
1. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
シルト主体。

D3



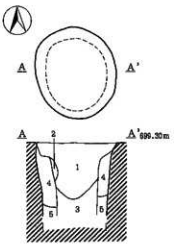
1. 褐色土層（10YR4/6）
砂・シルト層。
2. 暗褐色土層（10YR3/4）
シルト層。

D4



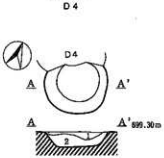
1. 褐色土層（10YR4/6）
ローム主体。

D5



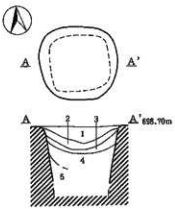
1. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
シルト多含、パミス少含。
2. 黒褐色土層（10YR2/3）
ローム・シルト微量。
3. 黒褐色土層（10YR3/2）
シルト少含。
4. 褐色土層（10YR4/4）
ローム主体。
5. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
ローム主体。

D6



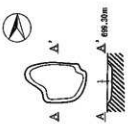
1. 炭黄褐色土層（10YR5/2）
砂質、粒子細い。
2. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
シルト層。

D7



1. にぶい黄橙色土層（10YR6/4）
砂主体。
2. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
シルト主体。
3. 黒褐色土層（10YR3/2）
砂・シルト微差。
4. 明褐色土層（10YR3/3）
砂・シルト少含。
5. 明黄褐色土層（10YR6/6）
ローム主体。

D8



1. 黒褐色土層（10YR2/3）
ローム・炭化物少含。

D9

0　(1：80)　2m

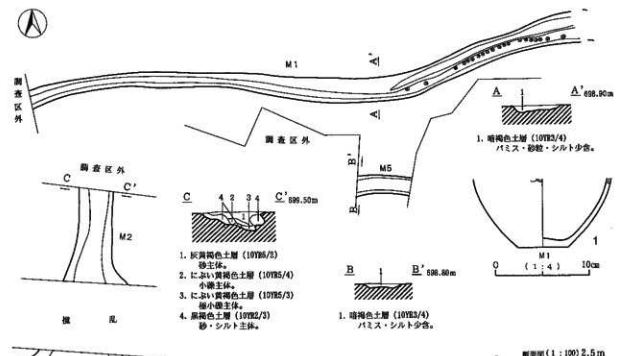
第134図　Ｄ１～９号土坑

第72表　土坑一覧表

No	検出位置	平面形態	規模(cm) 長軸長	短軸長	深さ	長軸方向	備考
D１	Ⅳ－Ｆ－こ－４	楕円形	－	158	7	－	Ｍ５に切られる。
D２	Ⅳ－Ｆ－こ－３	円　形	96	88	101	Ｎ－０°	Ｍ１に切られる。
D３	Ⅳ－Ａ－お－10	楕円形	130	－	22	Ｎ－０°	Ｍ８に切られる。
D４	Ⅳ－Ｂ－え－８	円　形	176	160	43	Ｎ－72°－Ｗ	Ｄ７を切る。
D５	Ⅳ－Ｂ－え－９	楕円形	234	175	35	Ｎ－84°－Ｅ	Ｈ５を切る。
D６	Ⅳ－Ａ－こ－８	楕円形	194	170	－	Ｎ－１°－Ｗ	井戸址、Ｈ７を切る。
D７	Ⅳ－Ｂ－え－８	円　形	134	－	41	Ｎ－57°－Ｅ	Ｄ４に切られる。
D８	Ⅳ－Ｇ－お－２	円　形	167	156	－	Ｎ－87°－Ｗ	井戸址、Ｈ１を切る。
D９	Ⅳ－Ｂ－あ－９	不整楕円形	132	85	12	Ｎ－90°－Ｅ	

遺物はＭ１号溝址出土の甕（１）、Ｍ４号溝址出土の甕（１）、「祥符元寶」（４）、擦石・敲石（５～９）、凹石（10）、Ｍ６号溝址出土の台付甕（２）、高坏（３）を図示した。

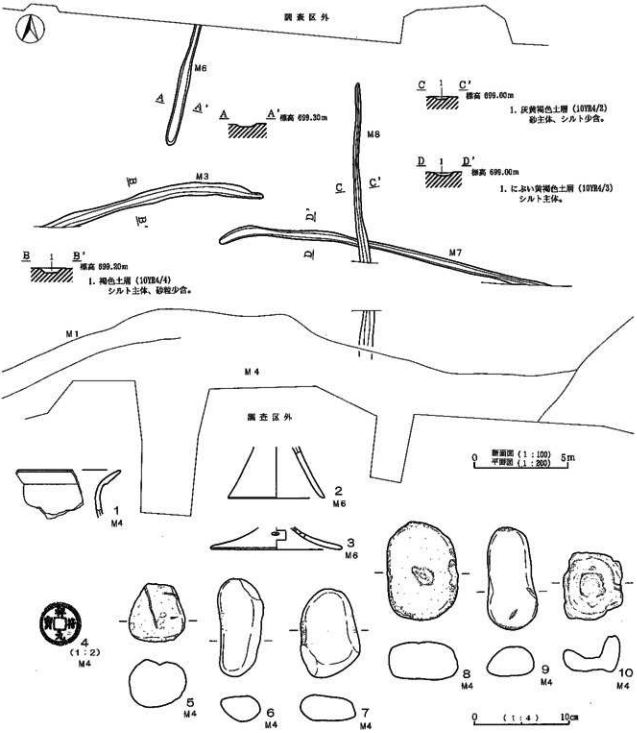
Ｍ１号溝址から出土した甕（１）にはわずかに櫛描による波状文が認められる。Ｍ６号溝址から出土した２は台付甕の台部であり、３は裾部が大きく開く無形の高坏脚部で円形の透かし孔を有する。



第135図　Ｍ１・２・５号溝址

第73表　Ｍ１・４・６号溝址出土遺物観察表

No	器種	法量 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	成形・調整・文様 外面	内面	備考
1	甕	－	(5.4)	(7.2)	ヘラミガキ、櫛描波状文	ヘラミガキ	Ｍ１
1	瓮	－	－	(4.7)	ナデ	ナデ	Ｍ４
2	台付甕	－	(10.0)	(5.4)	ヘラミガキ	ナデ	Ｍ６
3	高坏	－	(14.0)	(2.4)	ヘラミガキ	ナデ	Ｍ６、穿孔あり
4	祥符元寶	2.3	－	－			Ｍ４、2.5g
5	擦石	6.1	6.0	4.9	擦面２、打痕１		Ｍ４、100g
6	擦石	10.3	4.9	2.7	擦面３		Ｍ４、200g
7	敲石・擦石	9.4	6.3	2.7	擦面２、打痕２		Ｍ４、150g
8	敲石	10.5	7.5	3.9	擦面３、縁辺に打痕あり		Ｍ４、520g
9	敲石	10.8	5.3	3.1	擦痕あり		Ｍ４、220g
10	凹石	7.2	6.3	3.8			Ｍ４、50g

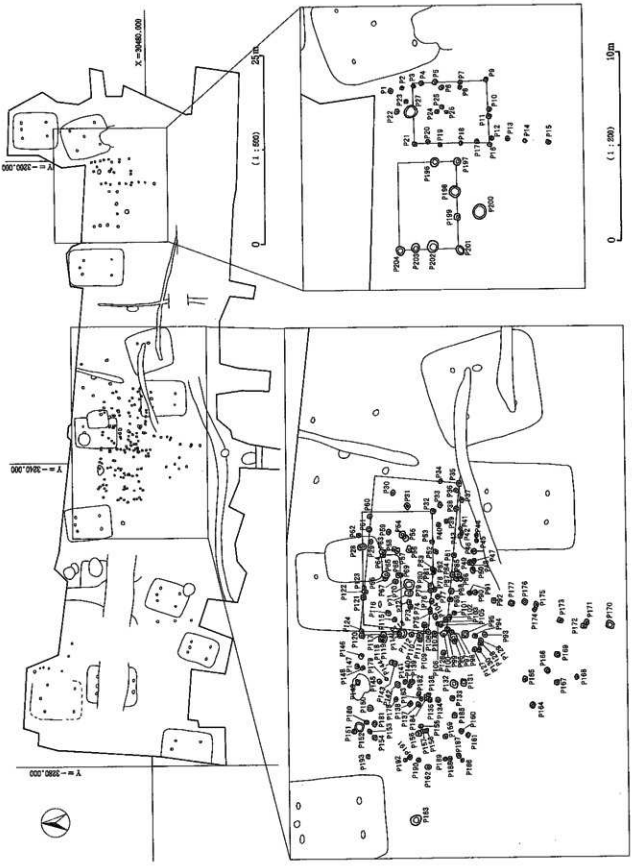


第136図　M3・4・6～8号溝址

ピット（第137図、図版78）

本遺跡からは総数で209基のピットが検出された。これらは調査区中央付近と東側の２箇所に集中する傾向が認められ、配列から建物址として想定できるものも存在する。規模・形状は20cm～30cm前後の円形のものと方形を呈するものがみられる。形状によって分布状況を指摘することはできないが、円形のものに比べて方形のものは比較的小型である傾向が認められる。遺物は弥生土器が少量出土しているが図示できたものはない。

なお、各ピットの検出位置・規模等については第74・75表ピット一覧表に記した。



第137図　ピット群

第74表　ピット一覧表（1）

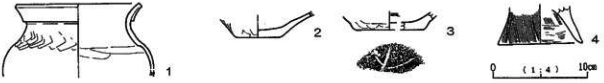
No	検出位置	規模(cm) 径	規模(cm) 深さ	備考	No	検出位置	規模(cm) 径	規模(cm) 深さ	備考
1	XV－A－け－1	27×26	12		71	XV－A－こ－9	45×34	45	
2	XV－A－け－1	20×19	13		72	XV－A－こ－10	22×18	8	
3	XV－A－け－1	15	5		73	XV－A－こ－10	26	5	
4	XV－A－け－1	22×21	7		74	XV－A－こ－10	22×16	18	P75を切る。
5	XV－A－け－1	36×26	19		75	XV－A－こ－10	18×－	9	P74に切られる。
6	XV－A－け－1	30×24	11		76	XV－A－こ－10	15	7	
7	XV－A－こ－1	18×15	12		77	XV－A－こ－10	24×22	27	
8	XV－A－こ－1	18×15	7		78	XV－A－こ－9	28×18	38	P79、80を切る。
9	XV－A－こ－10	22×15	14		79	XV－A－こ－9	－×32	35	P78に切られる、P80を切る。
10	XV－A－こ－1	18	15		80	XV－A－こ－9	－	34	P78、79に切られる、須恵器坏。
11	XV－A－こ－1	29×26	19		81	XV－A－こ－9	22×16	12	P82、83を切る。
12	XV－A－こ－1	29×18	19		82	XV－A－こ－9	26×－	17	P81に切られる、P83を切る。
13	XV－A－こ－1	17×12	15		83	XV－A－こ－9	－	10	P81、82に切られる。
14	XV－A－こ－1	15×12	9		84	XV－A－こ－9	50×40	36	P85、87を切る。
15	XV－F－あ－1	22×17	8		85	XV－A－こ－9	45×－	23	P84に切られる、P86、87を切る。
16	XV－A－こ－1	18×14	20		86	XV－A－こ－9	－×20	27	P85、87に切られる。
17	XV－A－こ－1	18×17	10		87	XV－A－こ－9	－	24	P84、85、86に切られる。
18	XV－A－こ－1	12×11	5		88	XV－A－こ－9	30×28	44	
19	XV－A－け－1	20×17	21		89	XV－A－こ－10	30	37	
20	XV－A－け－1	17	6		90	XV－A－こ－9	24×23	6	
21	XV－A－け－1	24×22	8		91	XV－A－こ－9	28×26	51	
22	XV－A－け－1	20	7		92	XV－F－あ－10	29×28	27	
23	XV－A－け－1	20×19	6		93	XV－F－あ－10	25×22	10	
24	XV－A－け－1	18×16	12		94	XV－A－こ－10	26×25	23	
25	XV－A－け－1	20×16	10		95	XV－A－こ－10	45×44	32	
26	XV－A－け－1	18	8		96	XV－A－こ－10	40×35	36	P97を切る。
27	XV－A－け－1	69×68	25		97	XV－A－こ－10	56×48	21	P96に切られる、P98を切る。
28	XV－A－け－9	50×34	47	Tb 1を切る。	98	XV－A－こ－10	－×22	20	P97に切られる、P99を切る。
29	XV－A－け－9	21×15	23	Tb 1を切る。	99	XV－A－こ－10	－×25	20	P98に切られる、P100を切る。
30	XV－A－け－8	28×22	27		100	XV－A－こ－10	－×30	42	P99に切られる。
31	XV－A－こ－8	39×30	24		101	XV－A－こ－10	22×20	26	
32	XV－A－こ－8	29×28	29		102	XV－A－こ－10	38×33	33	P103を切る。
33	XV－A－こ－8	23	16		103	XV－A－こ－10	28×－	12	P102に切られる。
34	XV－A－こ－8	16×13	6		104	XV－A－こ－10	24×21	29	
35	XV－A－こ－8	34×30	23	H 8を切る。	105	XV－A－こ－10	28×20	23	P106を切る。
36	XV－A－こ－8	24×20	10		106	XV－A－こ－10	22×－	8	P105に切られる。
37	XV－A－こ－8	22×19	13	H 8を切る。	107	XV－A－こ－10	28×24	11	
38	XV－A－こ－8	24×23	18		108	XV－A－こ－10	30×26	27	
39	XV－A－こ－9	21×20	8		109	XV－A－こ－10	20×18	14	弥生土器片
40	XV－A－こ－9	24	15		110	XV－A－こ－10	35×32	15	P111を切る。
41	XV－A－こ－9	28×24	37	H 8を切る。	111	XV－A－こ－10	－×24	15	P110に切られる。
42	XV－A－こ－9	23×20	18	H 8を切る。	112	XV－A－こ－10	26	31	
43	XV－A－こ－9	28×20	6	H 8を切る。	113	XV－A－け－10	52×42	21	H 7、P114を切る。
44	XV－A－こ－9	22×18	8	H 8を切る。	114	XV－A－け－10	－	30	P113に切られる。
45	XV－A－こ－9	22×18	15	H 8を切る。	115	XV－A－け－10	22	31	
46	XV－A－こ－9	26	31	H 8を切る。	116	XV－A－け－10	22	14	
47	XV－A－こ－9	28×26	35	P48、49を切る。	117	XV－A－け－10	30×28	40	H 7、P118、119を切る。
48	XV－A－こ－9	－×32	18	P47に切られる、P49を切る。	118	XV－A－け－10	－×21	43	P117に切られる、P119を切る。
49	XV－A－こ－9	－×30	12	P47、48に切られる。	119	XV－A－け－10	－×42	29	P117、118に切られる。
50	XV－A－こ－9	32×28	31		120	XV－A－け－10	30×28	21	
51	XV－A－こ－9	26×24	21		121	XV－A－け－10	24×23	6	H 7を切る。
52	XV－A－こ－9	30×26	28		122	XV－A－け－9	20×16	7	H 7、P123を切る。
53	XV－A－こ－9	22×20	7		123	XV－A－け－9	24×－	23	H 7を切る、P122に切られる。
54	XV－A－け－9	44×36	48	P55を切る。	124	XV－A－け－10	22×20	14	H 7を切る。
55	XV－A－け－9	32×－	36	P54に切られる、弥生土器片。	125	XV－A－こ－6	24	18	
56	XV－A－こ－9	30	42		126	XV－A－こ－10	25×22	29	
57	XV－A－け－9	24×20	13	P58を切る。	127	XV－A－こ－10	22×20	12	
58	XV－A－け－9	－×20	30	P57に切られる。	128	XV－A－こ－10	26×20	27	P129を切る。
59	XV－A－け－9	27×22	37		129	XV－A－こ－10	20×－	15	P128に切られる。
60	XV－A－け－8	25×24	14		130	XV－A－こ－10	23×21	16	
61	XV－A－け－9	30×28	14		131	XV－B－こ－1	35×33	17	
62	XV－A－け－9	21×20	10		132	XV－B－こ－1	34×33	51	
63	XV－A－け－9	38×32	7	P64を切る。	133	XV－B－こ－1	22×20	16	
64	XV－A－け－9	28×－	13	H 7を切る、P63に切られる。	134	XV－B－こ－1	24×23	10	
65	XV－A－け－9	40×34	17	H 7、P66を切る。	135	XV－B－こ－1	24×23	19	P134を切る。
66	XV－A－け－9	30×－	53	H 7を切る、P65に切られる。	136	XV－B－こ－1	22	27	P134を切る。
67	XV－A－け－9	22×19	19	H 7を切る。	137	XV－B－こ－1	25×24	15	
68	XV－A－け－9	27×20	5	H 7、P69を切る。	138	XV－B－こ－1	28×23	19	陶器器
69	XV－A－け－9	24×－	25	H 7を切る、P68に切られる。	139	XV－B－こ－1	28×25	29	
70	XV－A－こ－9	62×46	11		140	XV－B－こ－1	23×20	6	

第75表　ピット一覧表（２）

No	検出位置	規模(cm) 径	深さ	備考
141	Ⅳ－Ｂ－けー１	20	13	
142	Ⅳ－Ｂ－けー１	30×26	9	
143	Ⅳ－Ａ－けー10	28×24	26	Ｐ144を切る。
144	Ⅳ－Ａ－けー10	－×24	7	Ｐ143に切られる。
145	Ⅳ－Ｂ－けー１	23	26	
146	Ⅳ－Ａ－けー10	24×20	38	
147	Ⅳ－Ａ－けー10	20×16	6	
148	Ⅳ－Ａ－けー10	20×17	5	
149	Ⅳ－Ｂ－けー１	24×22	11	Ｄ９を切る。
150	Ⅳ－Ｂ－けー１	24	16	
151	Ⅳ－Ｂ－けー１	24×20	19	
152	Ⅳ－Ｂ－けー１	46×42	5	
153	Ⅳ－Ｂ－けー１	22×20	27	
154	Ⅳ－Ｂ－けー１	26×25	7	
155	Ⅳ－Ｂ－こー１	19×18	9	
156	Ⅳ－Ｂ－こー１	22×21	47	
157	Ⅳ－Ｂ－こー１	18	10	
158	Ⅳ－Ｂ－こー１	16	9	
159	Ⅳ－Ｂ－こー１	23×21	20	
160	Ⅳ－Ｂ－こー１	25×23	39	弥生土器片
161	Ⅳ－Ｂ－こー１	24	23	
162	Ⅳ－Ｂ－こー２	30	24	
163	Ⅳ－Ｂ－こー２	60×55	24	弥生土器片
164	Ⅳ－Ｇ－あー１	27×26	47	
165	Ⅳ－Ｇ－あー１	23×22	22	
166	Ⅳ－Ｇ－あー１	20	14	弥生土器片
167	Ⅳ－Ｇ－あー１	21×20	19	
168	Ⅳ－Ｇ－いー１	22×20	10	弥生土器片
169	Ⅳ－Ｆ－あー10	28×26	16	
170	Ⅳ－Ｆ－いー10	44×42	32	
171	Ⅳ－Ｆ－いー10	30×26	21	Ｐ172を切る。
172	Ⅳ－Ｆ－いー10	32×31	35	Ｐ171に切られる。
173	Ⅳ－Ｆ－いー10	35×28	19	
174	Ⅳ－Ｆ－あー10	18	7	弥生土器片
175	Ⅳ－Ｆ－あー10	23×21	3	
176	Ⅳ－Ｆ－あー10	27×26	3	
177	Ⅳ－Ｆ－あー10	34×30	49	
178	Ⅳ－Ｂ－けー１	24	19	
179	Ⅳ－Ｂ－けー１	13×12	4	
180	Ⅳ－Ｂ－けー１	26×18	9	弥生土器片
181	Ⅳ－Ｂ－けー１	24×22	8	弥生土器片
182	Ⅳ－Ｂ－こー１	24×22	23	
183	Ⅳ－Ｂ－こー１	18×17	12	
184	Ⅳ－Ｂ－こー１	32×28	18	Ｐ135、136に切られる。
185	Ⅳ－Ｂ－こー１	26×21	31	
186	Ⅳ－Ｂ－こー２	22×16	12	
187	Ⅳ－Ｂ－こー２	28×24	20	
188	Ⅳ－Ｂ－こー２	22×20	23	
189	Ⅳ－Ｂ－こー２	20×17	26	
190	Ⅳ－Ｂ－こー２	24×18	20	
191	Ⅳ－Ｂ－こー２	24×20	6	
192	Ⅳ－Ｂ－けー２	19×18	6	
193	Ⅳ－Ｂ－けー２	19×14	8	
194	Ⅳ－Ｂ－くー７	24×22	12	
195	Ⅳ－Ｂ－くー６	28×27	10	
196	Ⅳ－Ａ－けー２	43×41	13	
197	Ⅳ－Ａ－けー２	39×38	46	
198	Ⅳ－Ａ－けー２	54	25	
199	Ⅳ－Ａ－けー２	41×38	57	
200	Ⅳ－Ａ－こー２	78×77	28	
201	Ⅳ－Ａ－こー３	50×40	27	
202	Ⅳ－Ａ－けー３	59×56	22	
203	Ⅳ－Ａ－けー３	44×43	24	
204	Ⅳ－Ａ－けー３	43×42	25	
205	Ⅳ－Ｂ－きー７	61×36	24	
206	Ⅳ－Ｂ－きー７	22×21	12	
207	Ⅳ－Ｂ－きー７	26×24	14	
208	Ⅳ－Ｂ－きー７	32×18	9	
209	Ⅳ－Ｂ－くー７	28×27	13	

第５節　遺構外出土遺物（第138図）

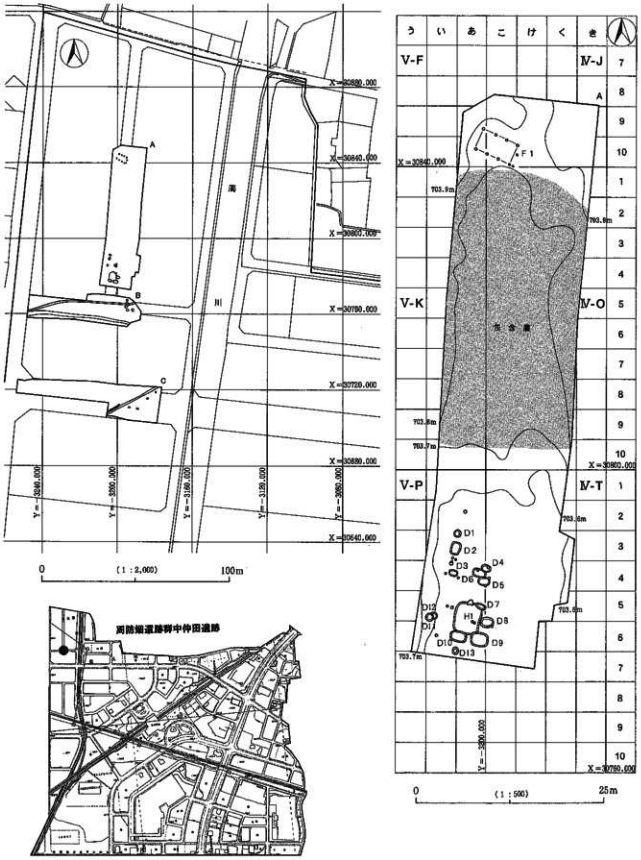
遺構外出土遺物として１～４の甕４点を図示した。１は折り返し口縁の甕で球形の胴部をもつものと思われ、２は１の底部である。３は底部に木葉痕が認められる。４は台付甕の台部である。



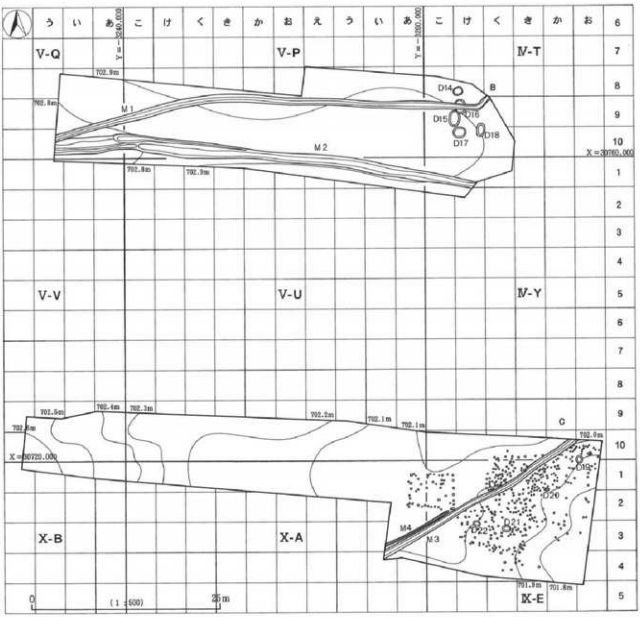
第138図　遺構外出土遺物

第76表　遺構外出土遺物観察表

No	器種	法量 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	成形・調整・文様 外面	内面	備考
1	甕	(12.9)	－	(7.7)	ナデ	ナデ	
2	甕	－	(4.4)	(2.4)	ナデ	ナデ	
3	甕	－	(7.2)	(1.4)	ヘラミガキ、底部木葉痕	ナデ	
4	台付甕	－	(8.8)	(3.8)	ナデ	ナデ	



第139図　周防畑遺跡群中仲田遺跡全体図（1）



第140図　周防畑遺跡群中仲田遺跡全体図（2）

第Ⅸ章　周防畑遺跡群中仲田遺跡

第１節　竪穴住居址

Ｈ１号住居址（第141図、図版81・94）

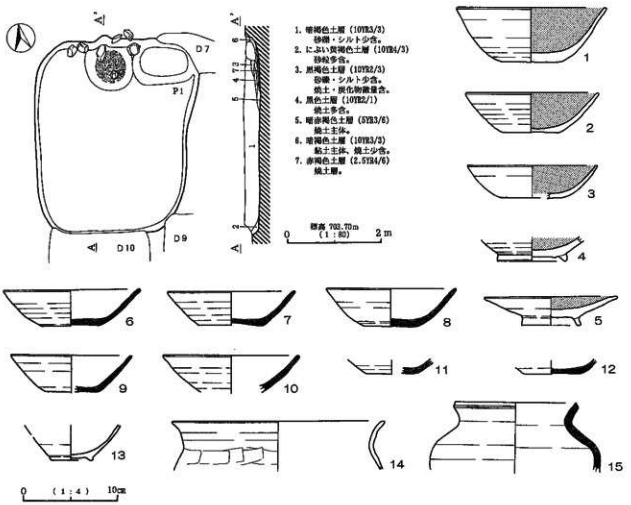
本住居址はＡ地区南側、Ｖ－Ｐ－あ－５グリッドに位置し、Ｄ７・９・10号土坑、Pit 410・411に切られる。南北3.92m、東西3.04mの隅丸長方形を呈し、壁残高13～32cm、床面積9.5㎡を測る。長軸方位はＮ－12°－Ｅを示す。周溝は検出されなかった。覆土は自然堆積である。

カマドは北壁中央に構築されるが、袖部は残存せずカマドに用いられた礫と火床がみられるのみである。

柱穴は確認されなかったが、カマドの東側から深さ16cmのＰ１が検出されており貯蔵穴と思われる。

遺物には土師器・須恵器・灰釉陶器があり大半がカマドから出土している。土師器には坏（１～３）、有台坏（４）、有台皿（５）、甕（14）がある。坏はすべてが内面に黒色処理され、１・２の底部は回転糸切りの後ヘラケズリが行われる。有台坏（４）・有台皿（５）も内面に黒色処理され、回転糸切り→付高台の成形がなされる。甕はヘラケズリ調整される「武蔵甕」である。

須恵器には坏（６～12）と甕（15）がある。坏の底部にはすべて右回転の糸切り痕が残る。15はロクロ成形による甕である。13は灰釉陶器壺の底部で、内面に軸の付着が認められる。



第141図　Ｈ１号住居址

第77表　Ｈ１号住居址出土遺物観察表

No.	器種	法量			成形・調整・文様			備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面		
1	土師器	坏 (15.8)	6.0	5.8	ロクロナデ、底部回転糸切り→ヘラケズリ		黒色処理	カマド
2	土師器	坏 (13.8)	6.1	4.2	ロクロナデ、底部回転糸切り→ヘラケズリ		黒色処理	カマド
3	土師器	坏 (13.8)	(6.0)	3.4	ロクロナデ		黒色処理	カマド
4	土師器	有台坏	－	(7.0)	(2.2)	ロクロナデ、底部回転糸切り→付高台	黒色処理	カマド
5	土師器	有台椀	(13.8)	6.2	3.0	ロクロナデ、付高台	黒色処理	カマド
6	須恵器	坏	14.2	6.0	3.8	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	カマド
7	須恵器	坏	(13.3)	6.8	3.6	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	
8	須恵器	坏	(13.4)	(5.6)	4.0	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	カマド
9	須恵器	坏	(12.4)	(5.2)	3.9	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	カマド
10	須恵器	坏	(14.4)	－	(3.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	カマド
11	須恵器	坏	－	(5.4)	(1.5)	ロクロナデ、底部周転糸切り	ロクロナデ	
12	須恵器	坏	－	6.2	(1.2)	ロクロナデ、底部周転糸切り	ロクロナデ	
13	灰釉陶器	皿	－	4.1	(3.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	
14	土師器	甕	(22.6)	－	(9.1)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ	カマド
15	須恵器	甕	(12.8)	－	(7.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	カマド

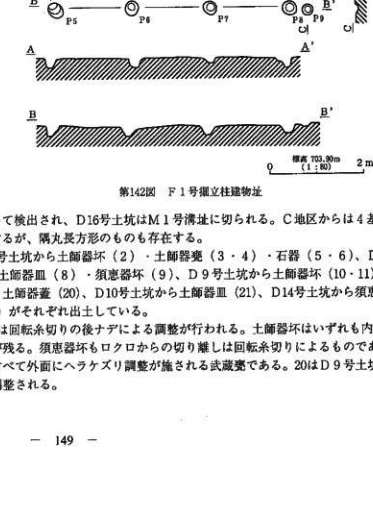
第２節　掘立柱建物址

Ｆ１号掘立柱建物址（第142図、図版86）

Ａ地区北端部、Ⅳ－Ｊ－こ－10グリッドから検出された。他遺構との重複関係はない。規模は東西5.06m、南北2.76m、面積13.9m²を測り、１間×３間の東西に長い側柱式の建物址である。長軸方位はＮ－65°－Ｗを示す。東西柱間は西から1.76m・1.62m・1.68mで整った配置である。また、東側に沿ってＰ９・Ｐ10の２基が検出された。

ピットはＰ１～Ｐ８は径30～34cm、深さ15～29cmの規模を有し、Ｐ９・Ｐ10は径22cm、深さ６cmと小規模である。柱痕は確認されなかった。

本址からの出土遺物はない。



第142図　Ｆ１号掘立柱建物址

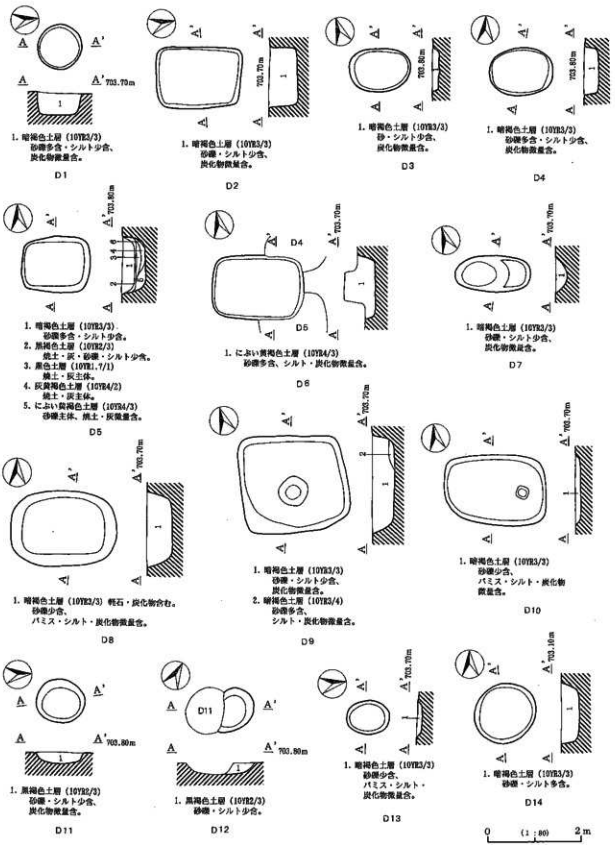
第３節　土　坑

（第143・144・145図、図版87・88・90～92）

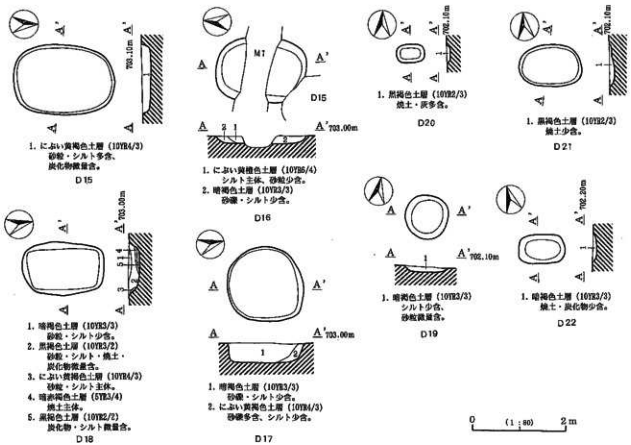
本遺跡からは総数で22基の土坑が検出された。Ａ地区では13基が調査区南側に集中して認められ、Ｄ７・９・10号土坑はＨ１号住居址を切る。Ｂ地区では東側から５基がまとまって検出され、Ｄ16号土坑はＭ１号溝址に切られる。Ｃ地区からは４基が検出された。形状は円形または楕円形を呈するが、隅丸長方形のものも存在する。

遺物はＤ４号土坑から土師器皿（１）、Ｄ５号土坑から土師器坏（２）・土師器甕（３・４）・石器（５・６）、Ｄ６号土坑から土師器皿（７）、Ｄ８号土坑から土師器皿（８）・須恵器坏（９）、Ｄ９号土坑から土師器坏（10・11）・須恵器坏（12～15）・土師器甕（16～19）・土師器蓋（20）、Ｄ10号土坑から土師器皿（21）、Ｄ14号土坑から須恵器坏（22）、Ｄ15号土坑から須恵器有台坏（23）がそれぞれ出土している。

土師器皿は口径９cm、器高1.5cm前後で底部は回転糸切りの後ナデによる調整が行われる。土師器坏はいずれも内面に黒色処理され、２は底部に回転糸切り痕が残る。須恵器坏もロクロからの切り離しは回転糸切りによるものである。甕は全体の器形が知れるものはないが、すべて外面にヘラケズリ調整が施される武蔵甕である。20はＤ９号土坑から出土した土師器蓋で天井部にヘラケズリ調整される。



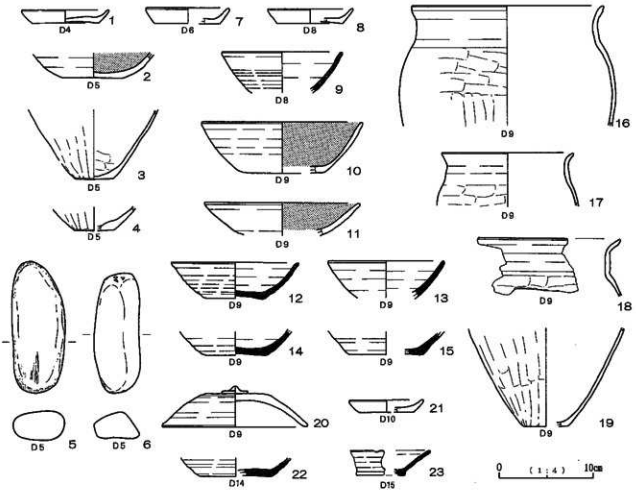
第143図　Ｄ１～14号土坑



第144図 D15～22号土坑

第78表 土坑一覧表

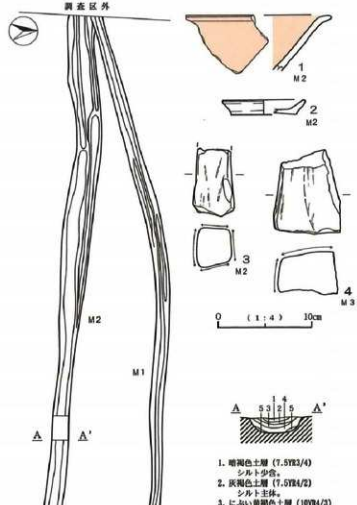
No	検出位置	平面形態	規模（cm）			長軸方向	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
D 1	V－P－あ－3	円形	96	93	49	N－15°－W	A地区
D 2	V－P－あ－3	隅丸長方形	178	130	62	N－13°－E	A地区
D 3	V－P－い－4	楕円形	132	92	17	N－80°－W	A地区
D 4	Ⅳ－T－こ－4	楕円形	136	102	32	N－88°－E	A地区、D 6を切る。
D 5	V－P－あ－4	隅丸長方形	146	120	52	N－89°－E	A地区、D 6を切る。
D 6	V－P－あ－4	隅丸長方形	192	136	66	N－76°－W	A地区、D 4・5に切られる。
D 7	V－P－あ－5	楕円形	162	74	25	N－70°－W	A地区、H 1を切る。
D 8	Ⅳ－T－あ－5	楕円形	226	158	58	N－88°－E	A地区
D 9	V－P－あ－6	隅丸長方形	228	206	50	N－79°－W	A地区、H 1を切る。
D10	V－P－あ－6	隅丸長方形	218	148	14	N－77°－W	A地区、H 1を切る。
D11	V－P－い－5	楕円形	104	91	22	N－9°－E	A地区、D12を切る。
D12	V－P－い－5	楕円形	－	80	24	－	A地区、D11に切られる。
D13	V－P－あ－6	楕円形	91	70	10	N－6°－E	A地区
D14	Ⅳ－T－け－8	円形	134	124	38	N－60°－E	B地区
D15	Ⅳ－T－け－9	楕円形	214	146	20	N－4°－E	B地区、D16を切る。
D16	Ⅳ－T－け－9	楕円形	192	132	16	N－4°－W	B地区、D15・M 1に切られる。
D17	Ⅳ－T－け－10	円形	174	162	44	N－50°－E	B地区
D18	Ⅳ－T－け－10	隅丸長方形	172	112	22	N－7°－E	B地区
D19	Ⅳ－Y－お－10	円形	96	92	14	N－21°－W	C地区
D20	Ⅸ－E－き－1	隅丸長方形	58	39	10	N－80°－E	C地区
D21	Ⅸ－E－く－3	楕円形	132	92	12	N－84°－W	C地区
D22	Ⅸ－E－け－3	隅丸長方形	98	62	10	N－76°－W	C地区



第145図　D４～６・８～10・14・15号土坑出土遺物

第79表　D４～６・８～10・14・15号土坑出土遺物観察表

No.	器種	法量 口径(長)	法量 底径(幅)	法量 器高(厚)	成形・調整・文様 外面	成形・調整・文様 内面	備考
1	土師器　皿	(9.0)	(7.0)	1.4	ロクロナデ	ロクロナデ	D４
2	土師器　坏	－	(6.4)	(2.5)	ロクロナデ、底部回転糸切り	黒色処理	D５
3	土師器　甕	－	3.9	(7.4)	ヘラケズリ	ヘラナデ	D５
4	土師器　甕	－	(4.2)	(2.3)	ヘラケズリ	ヘラナデ	D５
5	権石・敲石	14.0	5.7	3.2	敲打痕・線状痕あり		D５、434g
6	権石・敲石	12.8	4.9	3.3	敲打痕２		D５、276g
7	土師器　皿	(9.0)	(7.0)	1.5	ロクロナデ	ロクロナデ	D６
8	土師器　皿	(8.6)	(7.0)	1.7	ロクロナデ	ロクロナデ	D８
9	須恵器　坏	(13.0)	－	(4.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	D８
10	土師器　坏	(17.0)	(9.0)	5.4	ロクロナデ、底部回転糸切り	黒色処理	D９
11	土師器　坏	(16.4)	－	(3.4)	ロクロナデ	黒色処理	D９
12	須恵器　坏	(13.2)	(6.0)	3.8	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	D９
13	須恵器　坏	12.2	－	(4.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	D９
14	須恵器　坏	－	(6.4)	(2.5)	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	D９
15	須恵器　坏	－	(7.7)	(2.5)	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	D９
16	土師器　甕	(20.4)	－	(12.7)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ	D９
17	土師器　甕	(14.0)	－	(5.6)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ	D９
18	土師器　甕	－	－	(6.0)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ	D９
19	土師器　甕	－	(4.4)	(10.4)	ヘラケズリ	ナデ	D９
20	土師器　壺	－	(15.2)	4.3	ロクロナデ、火井部ヘラケズリ	ヘラミガキ	D９
21	土師器　鼎	(7.8)	(5.6)	1.3	ロクロナデ	ロクロナデ	D10
22	須恵器　坏	－	(7.6)	(2.0)	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	D14
23	緑釉陶器　有台坏	－	－	(2.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	D15



第146図　M1・2号溝址

第4節　溝址・ピット

溝　址（第146・147図、図版90・91・94）

M1号溝址

B地区Ⅳ－T－く－9グリッドからV－Q－う－10グリッドにかけて検出された。調査区を東西に走る溝で、検出長57.5m、幅0.7～1.1m、深さ15～36cmを測る。8cmの比高差をもって東から西に向かって傾斜する。覆土は底面に砂礫を主体とする4・5層が堆積しており流路と考えられる。

遺物は弥生土器が少量出土しているが図示できたものはない。

M2号溝址

B地区Ⅳ－Y－け－1グリッドからV－Q－う－10グリッドにかけて検出され、西端部でM1号溝址と交差する。検出長54.5m、幅1.1～2.2m、深さ23～28cmを測る。16cmの比高差をもって東から西へ傾斜する。M1号溝址と同様に流路と思われる。

遺物は高坏（1）、土師器皿（2）、砥石（3）を図示した。

M3・4号溝址

M3号溝址はC地区東側、Ⅳ－Y－お－10グリッドからX－A－い－4グリッドにかけて北東から南西に向かって延びる溝である。検出長30.5m、幅0.6～0.9m、深さ5～18cmで、7cmの比高差をもって西へ傾斜する。

M4号溝址はM3号溝址に平行しており、10mについて調査した。幅20cm、深さ5cmを計測する。遺物はM3号溝址から出土した砂岩製の砥石（4）を1点図示した。

ピット（第147図、図版92・93）

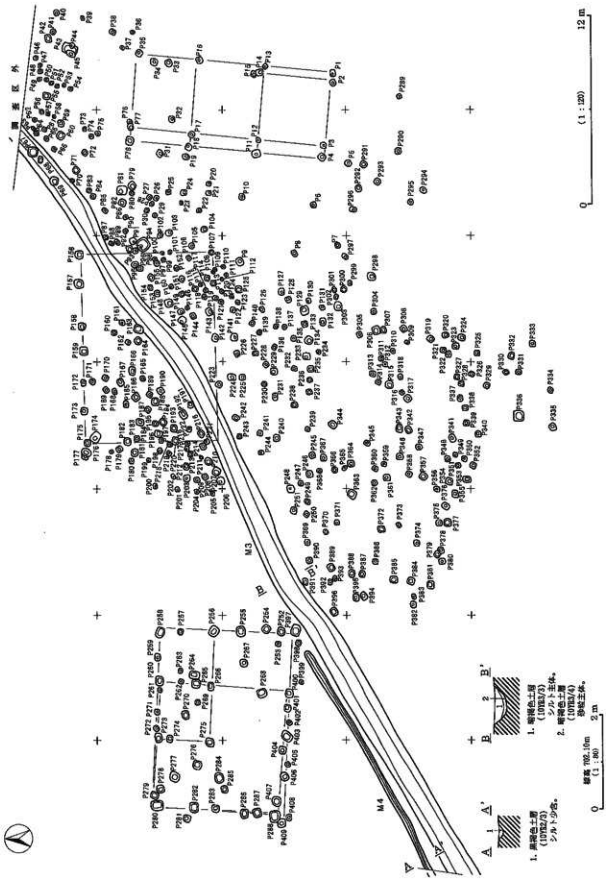
本遺跡からは総数で427基のピットが検出されたが、P410～P427の18基がA地区南側から検出された他、P1～P409はC地区東側から検出されたものである。径20cm前後の方形を呈するものが主体的である。配列から建物址として想定されるものが3箇所で認められた。

遺物は弥生土器・土師器・須恵器が少量出土しているが図示できたものはない。

各ピットの検出位置・規模等については第83～85表ピット一覧表に記した。

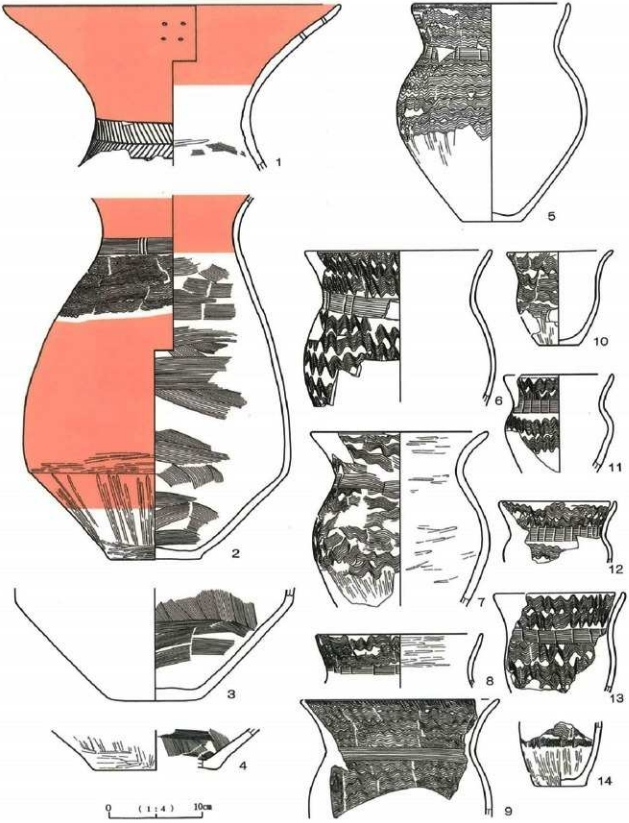
第80表　M2・3号溝址出土遺物観察表

No.	器種	法量 口径(長)	法量 底径(幅)	法量 器高(厚)	成形・調整・文様 外面	成形・調整・文様 内面	備考
1	高坏	－	－	(5.9)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	M2
2	土師器　皿	(8.6)	(7.0)	1.5	ロクロナデ	ロクロナデ	M2
3	砥石	7.2	4.4	4.3	四面使用		M2、228g
4	砥石	9.0	7.2	4.7			M3、375g

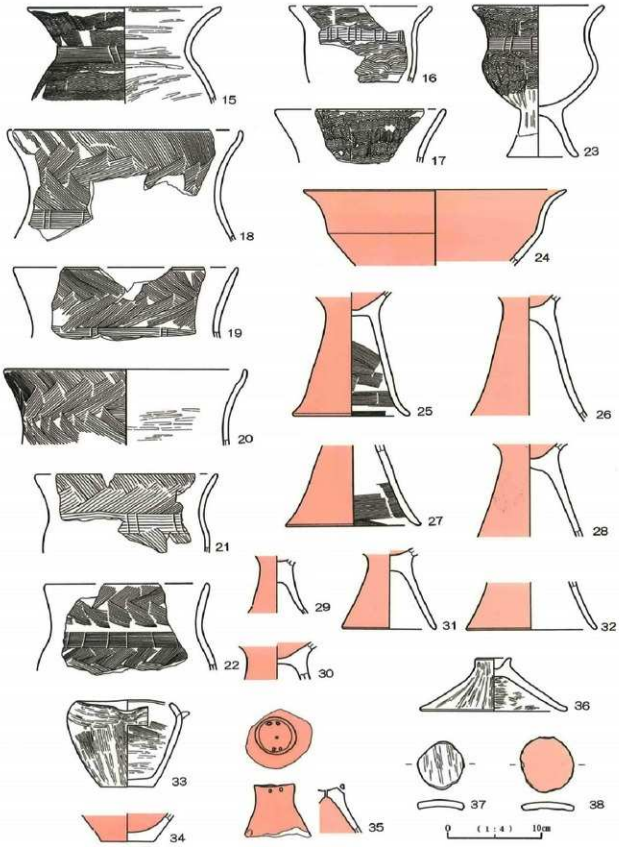


第147図　M3・4号溝址、ピット群

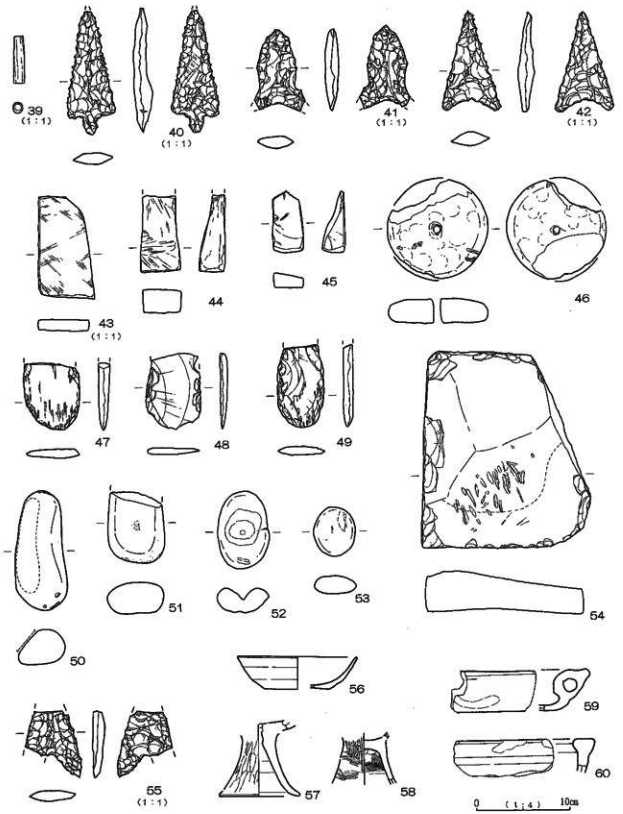
第５節　遺構外出土遺物（第148～151図、図版88・94～96）



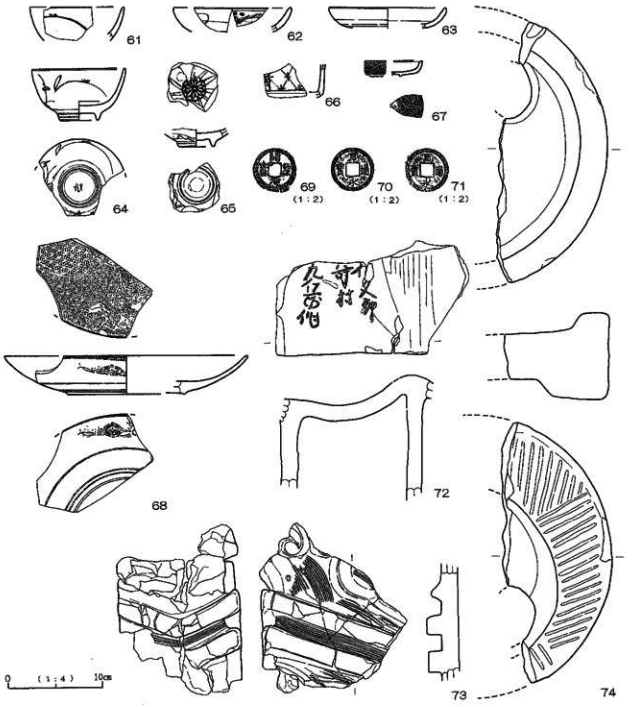
第148図　遺構外出土遺物（１）



第149図　遺構外出土遺物（2）



第150図　遺構外出土遺物（3）



第151図　遺構外出土遺物（4）

第81表　遺構外出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量			成形・調整・文様		備考
		口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	
1	壺	(35.8)	—	(17.2)	ヘラミガキ、赤色塗彩、頸部施櫛横線文・羽状文	ヘラミガキ、赤色塗彩	口縁部穿孔
2	壺	—	9.8	(38.1)	ヘラミガキ、赤色塗彩、頸部施櫛横線文・波状文	口縁部ヘラミガキ、赤色塗彩 ハケメ	
3	壺	—	(6.4)	(11.9)	ヘラミガキ	ハケメ	
4	壺	—	(12.8)	(4.2)	ヘラミガキ	ハケメ	
5	甕	(16.4)	(6.2)	23.0	櫛描波状文、頸部櫛描廉状文	ヘラミガキ	
6	甕	(19.6)	—	(16.4)	櫛描波状文、頸部櫛描廉状文	ヘラミガキ	

第82表　遺構外出土遺物観察表（２）

No.	器種	法量 口径(長)	法量 底径(幅)	法量 器高(厚)	成形・調整・文様 外面	成形・調整・文様 内面	備考
7	甕	19.0	－	(18.4)	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
8	甕	(17.8)	－	(5.1)	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
9	甕	(21.1)	－	(12.5)	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
10	甕	11.0	4.0	10.9	櫛描波状文	ヘラミガキ	
11	甕	(11.3)	－	(10.3)	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
12	甕	(12.5)	－	(6.4)	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
13	甕	(13.4)	－	(10.5)	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
14	甕	－	5.5	(6.8)	櫛描波状文	ヘラミガキ	
15	甕	20.6	－	(9.8)	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
16	甕	(15.2)	－	(8.0)	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
17	甕	(17.7)	－	(5.7)	櫛描波状文	ヘラミガキ	
18	甕	(24.4)	－	(11.5)	櫛描羽状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
19	甕	(23.4)	－	(7.4)	櫛描羽状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
20	甕	(25.8)	－	(8.0)	櫛描羽状文	ヘラミガキ	
21	甕	(19.0)	－	(8.3)	櫛描羽状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
22	甕	(17.0)	－	(9.1)	櫛描羽状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
23	台付甕	13.6	(7.2)	16.0	櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	ヘラミガキ	
24	高坏	(27.7)	－	(8.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
25	高坏	－	11.9	(13.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩、脚部ハケメ	
26	高坏	－	－	(12.4)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩、脚部ナデ	
27	高坏	－	(13.8)	(8.5)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ハケメ	
28	高坏	－	－	(9.7)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩、脚部ナデ	
29	高坏	－	－	(5.3)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩、脚部ナデ	
30	高坏	－	－	(3.5)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩、脚部ナデ	
31	高坏	－	(9.8)	(7.9)	ヘラミガキ、赤色塗彩	坏部ヘラミガキ、赤色塗彩、脚部ナデ	
32	高坏	－	(13.4)	(5.0)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ナデ	
33	壺	10.1	5.7	9.2	ヘラミガキ	ナデ、ヘラミガキ	
34	鉢	－	5.7	(2.8)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	
35	甕	4.2	－	(5.7)	ヘラミガキ、赤色塗彩	ヘラミガキ、赤色塗彩	頂部穿孔
36	甕	3.9	15.7	5.6	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
37	土製円盤	5.1	5.0	0.7	ヘラミガキ	ハケメ	磨耗部片、20.2 g
38	土製円盤	5.8	5.8	0.7	ヘラミガキ、赤色塗彩	ハケメ	磨耗部片、27.8 g
39	管玉	0.25	0.3	1.25			0.2 g
40	打製石鏃	3.3	1.3	0.4	有茎		1.2 g
41	打製石鏃	2.2	1.4	0.4	無茎、脚部欠損		0.9 g
42	打製石鏃	2.6	1.6	0.4	無茎		0.9 g
43	磨製石鏃	2.7	1.5	0.3	未製品		2.9 g
44	紡石	8.1	4.3	2.7			126.1 g
45	紡石	6.4	3.3	2.5			56.1 g
46	紡錘車	10.4	10.7	2.6			263 g
47	打製石斧	7.0	5.9	1.0			65.2 g
48	打製石斧	8.0	5.8	0.7			41.5 g
49	打製石斧	5.7	5.0	1.0			63.5 g
50	敲石	12.6	5.5	3.9			374 g
51	敲石	7.6	6.1	3.7			255 g
52	凹石	8.2	5.6	2.9			45.8 g
53	磨石	5.2	4.5	1.9			17.0 g
54	台石	20.8	18.1	4.3			2,670 g
55	打製石鏃	1.8	1.5	0.3	無茎、先端部・脚部欠損		0.6 g
56	土師器　高坏	(12.6)	(6.8)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ	
57	土師器　高坏	－	(8.3)	(7.4)	ヘラミガキ	ナデ	
58	土師器　高坏	－	－	(4.5)	ヘラミガキ	坏部ヘラミガキ、脚部ハケナデ	
59	土鈴	－	－	4.3			
60	土鈴	－	－	(3.6)			
61	椀	(9.8)	－	(3.6)			
62	椀	(12.4)	－	(2.6)			
63	瀬戸皿	(12.2)	－	(2.2)			
64	椀	(9.8)	3.8	5.5			
65	碗	－	3.6	(1.4)			
66	碗	－	－	(3.5)			
67	皿	－	－	1.7			
68	皿	(25.6)	(12.4)	4.1			
69	朝鮮元寶	2.3	－	－			2.6 g
70	寛永通寶	2.3	－	－			2.6 g
71	寛永通寶	2.3	－	－			2.1 g
72	瓦	－	－	－			
73	瓦	－	－	－			
74	石臼	(30.0)	－	9.2			3,490 g

1～54＝包含層出土遺物

第83表　ピット一覧表（1）

No.	検出位置	規模(cm) 径	規模(cm) 深さ	備考
1	IX－E－い－5	18×17	28	弥生土器壺
2	IX－E－い－5	22×20	41	弥生土器
3	IX－E－い－6	20×18	34	
4	IX－E－い－6	24×22	38	
5	IX－E－う－6	18×15	15	
6	IX－E－い－6	22×20	28	
7	IX－E－い－7	20×17	9	
8	IX－E－い－7	22	22	弥生土器
9	IX－E－い－7	22	26	
10	IX－E－い－6	20	31	
11	IX－E－い－6	29×26	44	
12	IX－E－い－6	16×15	19	
13	IX－E－い－5	18×16	34	
14	IX－E－い－5	－×24	57	
15	IX－E－い－5	24×20	38	
16	IX－E－あ－5	21	30	
17	IX－E－あ－6	20×18	25	
18	IX－E－あ－6	21×20	52	土師器甕
19	IX－E－あ－6	20×14	7	
20	IX－E－あ－6	13	10	
21	IX－E－あ－6	14×13	9	
22	IX－E－あ－6	15×13	12	
23	IX－E－あ－6	14×10	10	
24	IX－E－あ－6	20×18	44	土師器
25	IX－E－あ－6	13	11	
26	IX－E－あ－6	18×14	12	
27	IX－E－あ－6	13×12	9	
28	IX－E－あ－6	11×10	6	土師器
29	IX－E－あ－6	16×13	8	
30	IX－E－あ－6	14×13	8	
31	IX－E－あ－6	20×19	6	
32	IX－E－あ－6	18×15	36	
33	IX－E－あ－5	22	64	
34	IX－E－あ－5	26×25	18	
35	IX－E－あ－5	22	39	
36	IX－E－あ－5	13×12	10	
37	IX－E－あ－5	12	10	
38	IX－E－あ－5	20	26	
39	IV－Y－こ－5	14×12	9	
40	IV－Y－こ－5	21×18	8	
41	IV－Y－こ－5	18	8	
42	IV－Y－こ－5	26×20	9	
43	IV－Y－こ－5	52×36	23	
44	IV－Y－こ－5	20	40	
45	IV－Y－こ－5	36×26	77	
46	IV－Y－こ－5	15×13	9	
47	IV－Y－こ－5	12×11	9	
48	IV－Y－こ－5	15×14	8	
49	IV－Y－こ－5	13×12	12	
50	IV－Y－こ－5	14×13	15	
51	IV－Y－こ－5	13×11	8	
52	IV－Y－こ－5	12×11	17	
53	IV－Y－こ－5	10	9	
54	IV－Y－こ－5	12	8	
55	IV－Y－こ－5	21×20	8	
56	IV－Y－こ－6	16	16	
57	IV－Y－こ－6	11×10	8	
58	IV－Y－こ－6	12×11	12	
59	IV－Y－こ－6	22×20	47	
60	IV－Y－こ－6	29×28	54	
61	IV－Y－こ－6	14	17	
62	IV－Y－こ－6	14	9	
63	IV－Y－こ－6	12×10	12	
64	IV－Y－こ－6	16	12	
65	IV－Y－こ－6	17×16	14	
66	IV－Y－こ－6	16×14	8	
67	IV－Y－こ－6	32×28	7	M3と重複
68	IV－Y－こ－6	20	5	M3と重複、土師器甕
69	IV－Y－こ－6	26	41	M3と重複
70	IV－Y－こ－6	14×25	8	
71	IV－Y－こ－6	19×15	9	
72	IV－Y－こ－6	18×16	12	
73	IV－Y－こ－6	12	11	
74	IV－Y－こ－6	15×13	13	
75	IX－E－あ－6	17	17	
76	IX－E－あ－6	17×16	24	
77	IX－E－あ－6	21×19	22	土師器甕
78	IX－E－あ－6	27	44	
79	IX－E－あ－6	22×20	11	
80	IX－E－あ－6	16×14	14	
81	IX－E－あ－6	29×28	36	
82	IX－E－あ－6	22	15	
83	IV－Y－こ－6	15×14	10	
84	IV－Y－こ－6	17×16	8	
85	IX－E－あ－6	14×13	11	
86	IX－E－あ－6	14×13	6	
87	IX－E－あ－7	14	9	
88	IX－E－あ－7	14×12	6	
89	IX－E－あ－7	18×12	9	
90	IX－E－あ－6	15×14	7	
91	IX－E－あ－7	24×18	16	
92	IX－E－あ－7	23×22	7	
93	IX－E－あ－7	17	9	
94	IX－E－あ－7	45×39	13	
95	IX－E－あ－7	22×19	7	
96	IX－E－あ－7	20×18	11	
97	IX－E－あ－7	18×17	7	
98	IX－E－あ－7	14×12	7	
99	IX－E－あ－7	16×15	7	
100	IX－E－あ－7	11	7	
101	IX－E－あ－7	13	8	
102	IX－E－あ－6	17×15	9	
103	IX－E－あ－6	22	17	
104	IX－E－あ－6	17×14	5	
105	IX－E－あ－7	17×16	10	
106	IX－E－あ－7	21×16	9	
107	IX－E－あ－7	17×16	10	
108	IX－E－あ－7	13×11	12	
109	IX－E－あ－7	16×11	12	
110	IX－E－い－7	16×13	13	
111	IX－E－い－7	14×12	7	
112	IX－E－い－7	11	11	
113	IX－E－あ－7	17	9	
114	IX－E－あ－7	18×16	11	
115	IX－E－あ－7	12	9	
116	IX－E－あ－7	21×20	11	
117	IX－E－あ－7	18×15	8	
118	IX－E－あ－7	17×16	10	
119	IX－E－あ－7	17×15	10	
120	IX－E－い－7	14×13	10	
121	IX－E－あ－7	14	7	
122	IX－E－い－7	16×15	7	
123	IX－E－い－7	13	7	須恵器坏
124	IX－E－い－7	12	5	
125	IX－E－い－7	23×22	9	
126	IX－E－い－7	19×18	8	
127	IX－E－い－7	23×20	13	
128	IX－E－い－7	19×17	6	
129	IX－E－い－7	28	19	
130	IX－E－い－7	17×14	9	
131	IX－E－い－7	18×14	8	
132	IX－E－い－7	22	9	
133	IX－E－い－7	21×20	8	
134	IX－E－い－7	21	10	
135	IX－E－い－7	18×17	14	
136	IX－E－い－7	18×14	7	
137	IX－E－い－7	13	12	
138	IX－E－い－7	15×14	9	
139	IX－E－い－7	17×14	13	
140	IX－E－い－7	20	13	
141	IX－E－い－7	25×24	21	
142	IX－E－あ－7	23	14	
143	IX－E－あ－7	24	13	
144	IX－E－あ－7	18×17	10	

第84表　ピット一覧表（2）

No.	検出位置	規模(cm) 径	深さ	備考
145	Ⅸ－E－あ－7	26×25	12	
146	Ⅸ－E－あ－7	15×13	9	
147	Ⅸ－E－あ－7	17	11	
148	Ⅸ－E－あ－7	27×25	14	
149	Ⅸ－E－あ－7	18×17	8	
150	Ⅸ－E－あ－7	14×13	10	
151	Ⅸ－E－あ－7	18×17	8	
152	Ⅸ－E－あ－7	17×16	8	
153	Ⅸ－E－あ－7	20×19	9	
154	Ⅸ－E－あ－7	16×14	9	
155	Ⅸ－E－あ－7	20	7	
156	Ⅳ－Y－こ－7	25	11	
157	Ⅳ－Y－こ－7	28×27	15	
158	Ⅳ－Y－こ－7	24×22	15	
159	Ⅳ－Y－こ－7	28×27	15	
160	Ⅸ－E－あ－7	18	7	
161	Ⅸ－E－あ－7	21×18	6	
162	Ⅸ－E－あ－7	17×16	15	
163	Ⅸ－E－あ－7	34×30	9	M3と重複
164	Ⅸ－E－あ－7	22×21	8	
165	Ⅸ－E－あ－8	18	10	
166	Ⅸ－E－あ－8	24×22	11	
167	Ⅸ－E－あ－8	24×19	11	
168	Ⅸ－E－あ－8	17×16	8	
169	Ⅸ－E－あ－8	19×18	11	
170	Ⅸ－E－あ－8	20×18	13	
171	Ⅳ－Y－こ－8	19	9	
172	Ⅳ－Y－こ－8	19×18	17	
173	Ⅳ－Y－こ－8	22×21	12	
174	Ⅳ－Y－こ－8	36×31	28	
175	Ⅳ－Y－こ－8	24×20	11	
176	Ⅳ－Y－こ－8	32×20	19	
177	Ⅳ－Y－こ－8	24×18	19	土師器甕
178	Ⅸ－E－あ－8	14×13	9	
179	Ⅸ－E－あ－8	23×21	13	
180	Ⅸ－E－あ－8	19×18	29	
181	Ⅸ－E－あ－8	22×21	6	
182	Ⅸ－E－あ－8	23×22	9	
183	Ⅸ－E－あ－8	18	11	
184	Ⅸ－E－あ－8	26×24	8	
185	Ⅸ－E－あ－8	20×14	6	
186	Ⅸ－E－あ－8	24×23	10	
187	Ⅸ－E－あ－8	19×18	15	
188	Ⅸ－E－あ－8	26×25	13	
189	Ⅸ－E－あ－8	19	23	
190	Ⅸ－E－あ－8	22×21	15	
191	Ⅸ－E－あ－8	21×19	7	M3と重複
192	Ⅸ－E－あ－8	28×24	12	
193	Ⅸ－E－あ－8	23×21	16	
194	Ⅸ－E－あ－8	23×22	11	
195	Ⅸ－E－あ－8	20×17	12	
196	Ⅸ－E－あ－8	25×24	20	
197	Ⅸ－E－あ－8	18×17	8	
198	Ⅸ－E－あ－8	20×19	10	
199	Ⅸ－E－あ－8	13	10	
200	Ⅸ－E－あ－8	15×11	7	
201	Ⅸ－E－あ－9	15×12	15	
202	Ⅸ－E－あ－8	14×13	15	
203	Ⅸ－E－あ－8	25×24	35	
204	Ⅸ－E－あ－9	14×11	8	
205	Ⅸ－E－あ－9	14	8	
206	Ⅸ－E－あ－8	26×23	17	
207	Ⅸ－E－あ－8	27×25	8	
208	Ⅸ－E－あ－8	19	19	
209	Ⅸ－E－あ－8	20×19	18	
210	Ⅸ－E－あ－8	24×23	11	
211	Ⅸ－E－あ－8	13×11	11	
212	Ⅸ－E－あ－8	22×20	10	
213	Ⅸ－E－あ－8	20×18	8	
214	Ⅸ－E－あ－8	21×19	8	
215	Ⅸ－E－あ－8	19×16	8	
216	Ⅸ－E－あ－8	24×20	12	
217	Ⅸ－E－あ－8	18×16	8	
218	Ⅸ－E－あ－8	20×18	7	
219	Ⅸ－E－あ－8	20×19	11	
220	Ⅸ－E－あ－8	18×16	14	
221	Ⅸ－E－あ－8	17×24	15	
222	Ⅸ－E－あ－8	16	9	
223	Ⅸ－E－あ－8	20	7	
224	Ⅸ－E－い－8	26×24	15	
225	Ⅸ－E－い－8	20	23	
226	Ⅸ－E－い－7	20×19	7	
227	Ⅸ－E－い－7	21×18	13	
228	Ⅸ－E－い－8	21×18	24	
229	Ⅸ－E－い－8	22×20	11	
230	Ⅸ－E－い－8	18	8	
231	Ⅸ－E－い－8	24×19	22	
232	Ⅸ－E－い－8	20×15	9	
233	Ⅸ－E－い－7	28×25	37	
234	Ⅸ－E－い－7	16×14	9	
235	Ⅸ－E－い－8	22×19	11	
236	Ⅸ－E－い－8	17×16	10	
237	Ⅸ－E－い－8	18×17	13	
238	Ⅸ－E－い－8	19×17	10	
239	Ⅸ－E－い－8	16×13	10	
240	Ⅸ－E－い－8	22×21	26	須恵器甕
241	Ⅸ－E－い－8	23×17	12	
242	Ⅸ－E－い－8	21	9	
243	Ⅸ－E－い－8	22×17	11	
244	Ⅸ－E－い－8	18×15	9	
245	Ⅸ－E－い－8	22×21	11	
246	Ⅸ－E－い－8	22×21	15	
247	Ⅸ－E－い－8	13×12	8	
248	Ⅸ－E－い－9	28×22	22	
249	Ⅸ－E－い－9	23×16	11	
250	Ⅸ－E－い－9	20	10	
251	Ⅸ－E－い－9	20×18	27	
252	Ⅸ－E－い－10	29×26	22	
253	Ⅸ－E－い－10	17	13	土師器甕
254	Ⅸ－E－い－10	29×26	15	
255	Ⅸ－E－い－10	29×24	13	
256	Ⅸ－E－あ－10	31×24	23	
257	Ⅸ－E－あ－10	22×21	15	
258	Ⅸ－E－あ－10	33×28	17	
259	Ⅸ－E－あ－10	22×21	20	
260	Ⅸ－E－あ－10	32×28	17	
261	Ⅸ－E－あ－10	17×15	16	
262	Ⅸ－E－あ－10	15×13	19	
263	Ⅸ－E－あ－10	15×13	7	
264	Ⅸ－E－あ－10	34×27	17	
265	Ⅸ－E－あ－10	27×26	7	
266	Ⅸ－E－あ－10	26×24	11	
267	Ⅸ－E－い－10	23×21	13	
268	Ⅸ－E－い－10	36×28	8	
269	Ⅸ－E－あ－10	19×18	7	
270	Ⅸ－E－あ－10	25×22	11	
271	Ⅸ－E－あ－10	20×18	12	
272	Ⅸ－E－あ－10	20	26	
273	Ⅸ－E－あ－10	31×24	13	
274	Ⅸ－E－あ－10	24×18	17	
275	Ⅹ－A－あ－1	28×24	10	
276	Ⅹ－A－あ－1	36×26	12	
277	Ⅹ－A－あ－1	30×28	20	
278	Ⅹ－A－あ－1	28×23	14	土師器甕
279	Ⅹ－A－あ－1	28×23	13	
280	Ⅹ－A－あ－1	40×32	15	
281	Ⅹ－A－あ－1	24	10	
282	Ⅹ－A－あ－1	36×28	11	
283	Ⅹ－A－あ－1	28×20	19	
284	Ⅹ－A－あ－1	30×26	12	
285	Ⅹ－A－い－1	22×20	18	
286	Ⅹ－A－い－1	28×24	11	
287	Ⅹ－A－い－1	30×29	15	
288	Ⅹ－A－い－1	40×32	14	須恵器杯

第85表　ピット一覧表（3）

No.	検出位置	規模(cm) 径	規模(cm) 深さ	備考
289	Ⅸ－E－ゝい－6	12×10	12	
290	Ⅸ－E－う－6	20×18	26	
291	Ⅸ－E－う－6	22	21	
292	Ⅸ－E－う－6	20×19	7	
293	Ⅸ－E－う－6	21	9	
294	Ⅸ－E－う－6	24×22	22	土師器甕
295	Ⅸ－E－う－6	18×17	31	
296	Ⅸ－E－う－6	20×18	19	
297	Ⅸ－E－う－7	19×18	23	
298	Ⅸ－E－う－7	24×23	17	
299	Ⅸ－E－う－7	16×14	10	
300	Ⅸ－E－ゝい－7	19×18	8	
301	Ⅸ－E－ゝい－7	20×17	9	
302	Ⅸ－E－ゝい－7	16×14	11	
303	Ⅸ－E－ゝい－7	30×27	14	
304	Ⅸ－E－う－7	17×16	9	
305	Ⅸ－E－う－7	17×15	11	
306	Ⅸ－E－う－7	27×25	14	
307	Ⅸ－E－う－7	24×18	19	
308	Ⅸ－E－う－7	23×22	15	
309	Ⅸ－E－う－7	14	9	
310	Ⅸ－E－う－7	15×14	7	
311	Ⅸ－E－う－7	16×14	13	
312	Ⅸ－E－う－8	16×15	7	
313	Ⅸ－E－う－8	19×18	9	
314	Ⅸ－E－う－8	16	9	
315	Ⅸ－E－う－8	23×21	17	
316	Ⅸ－E－う－8	18×16	17	
317	Ⅸ－E－う－8	24	13	
318	Ⅸ－E－う－8	14	8	
319	Ⅸ－E－う－7	20	13	
320	Ⅸ－E－う－7	20×19	11	
321	Ⅸ－E－う－7	18×17	12	土師器甕
322	Ⅸ－E－う－7	19×18	20	
323	Ⅸ－E－う－7	20×19	8	
324	Ⅸ－E－う－7	24×21	14	
325	Ⅸ－E－え－7	18×16	11	
326	Ⅸ－E－え－8	20×19	11	
327	Ⅸ－E－う－8	19×17	16	
328	Ⅸ－E－う－8	20×19	14	
329	Ⅸ－E－え－8	20	12	
330	Ⅸ－E－え－8	20	17	
331	Ⅸ－E－え－8	19×16	14	
332	Ⅸ－E－え－7	26×20	11	
333	Ⅸ－E－え－7	17×15	12	土師器
334	Ⅸ－E－え－8	17	12	
335	Ⅸ－E－え－8	22×18	11	
336	Ⅸ－E－え－8	35×34	11	
337	Ⅸ－E－う－8	18×17	8	
338	Ⅸ－E－う－8	20×19	15	
339	Ⅸ－E－う－8	19×17	11	
340	Ⅸ－E－え－8	21×20	13	
341	Ⅸ－E－う－8	22×20	16	
342	Ⅸ－E－う－8	24×19	14	
343	Ⅸ－E－う－8	26×20	13	
344	Ⅸ－E－ゝい－8	26×25	10	
345	Ⅸ－E－う－8	18×17	10	
346	Ⅸ－E－う－8	25×23	18	
347	Ⅸ－E－う－8	20×19	8	
348	Ⅸ－E－う－8	19×18	21	
349	Ⅸ－E－う－8	15×14	11	
350	Ⅸ－E－う－8	20	20	
351	Ⅸ－E－う－8	20	12	
352	Ⅸ－E－え－8	21×18	21	
353	Ⅸ－E－う－8	23×22	13	
354	Ⅸ－E－う－8	24×23	11	
355	Ⅸ－E－う－9	21	35	
356	Ⅸ－E－う－9	17	13	
357	Ⅸ－E－う－8	24×23	13	
358	Ⅸ－E－う－8	21×20	16	
359	Ⅸ－E－う－8	17×16	16	
360	Ⅸ－E－う－8	21×18	18	
361	Ⅸ－E－う－8	22×18	11	
362	Ⅸ－E－う－8	16×14	10	
363	Ⅸ－E－う－9	29×26	12	
364	Ⅸ－E－う－8	22	18	
365	Ⅸ－E－ゝい－8	14×12	7	
366	Ⅸ－E－ゝい－8	18	17	
367	Ⅸ－E－ゝい－8	21×19	14	
368	Ⅸ－E－ゝい－8	19×17	9	土師器甕
369	Ⅸ－E－ゝい－9	15×14	10	
370	Ⅸ－E－ゝい－9	18×16	14	
371	Ⅸ－E－ゝい－9	17×15	13	
372	Ⅸ－E－う－9	21	9	
373	Ⅸ－E－う－9	16×15	18	
374	Ⅸ－E－う－9	18×15	12	
375	Ⅸ－E－う－9	18×16	10	
376	Ⅸ－E－う－9	22×20	31	
377	Ⅸ－E－う－9	21×20	12	
378	Ⅸ－E－う－9	22×19	17	
379	Ⅸ－E－う－9	20×19	19	
380	Ⅸ－E－う－9	20×18	18	
381	Ⅸ－E－う－9	25×23	20	
382	Ⅸ－E－う－9	20×19	10	
383	Ⅸ－E－う－9	15×14	11	
384	Ⅸ－E－う－9	22×21	17	
385	Ⅸ－E－う－9	24×18	10	
386	Ⅸ－E－う－9	14×13	11	
387	Ⅸ－E－う－9	21×19	22	
388	Ⅸ－E－う－9	20×19	14	
389	Ⅸ－E－ゝい－9	23×22	15	
390	Ⅸ－E－ゝい－9	18	28	
391	Ⅸ－E－ゝい－9	20×19	23	
392	Ⅸ－E－ゝい－9	16×14	11	土師器甕
393	Ⅸ－E－ゝい－9	12	10	
394	Ⅸ－E－う－9	22×19	11	
395	Ⅸ－E－う－9	18×15	13	
396	Ⅸ－E－ゝい－9	24×23	13	
397	Ⅸ－E－ゝい－10	34×29	18	土師器甕
398	Ⅸ－E－ゝい－10	16	17	土師器甕
399	Ⅸ－E－ゝい－10	13	20	
400	Ⅸ－E－ゝい－10	25×23	18	
401	Ⅸ－E－ゝい－10	23	13	
402	Ⅸ－E－ゝい－10	19×18	14	
403	Ⅸ－E－ゝい－10	36×31	15	
404	Ⅹ－A－ゝい－1	24×23	10	
405	Ⅹ－A－ゝい－1	17×16	17	
406	Ⅹ－A－ゝい－1	25	17	土師器
407	Ⅹ－A－ゝい－1	28×27	13	
408	Ⅹ－A－ゝい－1	20×17	14	
409	Ⅹ－A－ゝい－1	27×24	19	
410	Ⅴ－P－か－1	32×26	10	H１を切る、須恵器坏、土師器
411	Ⅴ－P－か－1	30×25	13	H１を切る
412	Ⅴ－P－え－2	27	9	須恵器坏
413	Ⅴ－P－え－1	30×27	18	D６を切る
414	Ⅴ－P－か－2	37×36	23	
415	Ⅴ－P－え－2	38×35	5	
416	Ⅴ－P－う－2	30×28	12	
417	Ⅴ－P－え－2	30×22	15	
418	Ⅴ－P－え－2	42×40	10	
419	Ⅴ－P－え－1	26	48	
420	Ⅳ－T－か－10	32×18	41	D８と重複
421	Ⅳ－T－か－10	32	60	D８と重複
422	Ⅳ－T－え－10	32×30	57	D５と重複
423	Ⅳ－T－え－10	32×28	55	D５と重複、須恵器蓋、土師器小皿、土師器
424	Ⅳ－T－え－10	29×24	20	D４と重複
425	Ⅴ－P－お－2	27×24	13	土師器甕
426	Ⅴ－P－お－2	43×40	13	
427	Ⅴ－P－ゝい－1	33×32	25	弥生土器

※Ｐ１～Ｐ409＝Ｃ地区、Ｐ410～Ｐ427＝Ａ地区

第Ⅹ章　調査のまとめ

今回の発掘調査で検出された竪穴住居址は、下伯母塚遺跡９棟、直路遺跡Ⅰ４棟、直路遺跡Ⅱ10棟、直路遺跡Ⅲ３棟、清水田遺跡Ⅱ９棟、辻の前遺跡14棟、中仲田遺跡１棟であり総数で50棟を数えるが、平安時代である中仲田遺跡Ｈ１号住居址を除いて弥生時代中期から後期の住居址が主体を占めている。

ここでは規模・形態について明らかとなった弥生時代の竪穴住居址について概観してみたい。

弥生時代中期

弥生時代中期の竪穴住居址には直路遺跡ⅠＨ１・２号住居址の２棟があり、特にＨ１号住居址からは良好な資料が出土している。

住居址の規模・形態

Ｈ１号住居址　　南北8.16m、東西5.04m、床面積41.1㎡

Ｈ２号住居址　　南北7.88m、東西5.60m、床面積42.8㎡

いずれも床面積40㎡を越える大型の住居址で、主柱穴は南北方向２列に各３本の主柱穴を有する。入口施設に関する柱穴は南壁下中央に２基設けられる。また、北壁下中央に位置する所謂「棟持柱」と貯蔵穴は確認されていない。炉址はともに住居址の中央に設けられるが、Ｈ１号住居址では炉址内に壺の底部が埋設されるのに対して、Ｈ２号住居址では土器の埋設は行われていない地床炉である。

土器様相

壺　口縁部の形態には単純口縁のものと端部が内彎して受口状となるものとが存在し、受口状を呈するものには口縁部に櫛描による波状文または縄文＋篦描による波状文が施文される。

施文は頸部から胴上半部に櫛描文・篦描文が施文されるＨ１号住居址２・４を除いて頸部に集中する。文様構成は篦描直線文・鋸歯文＋櫛描波状文、縄文＋篦描直線文・波状文、櫛描簾状文＋波状文、篦描直線文＋櫛描波状文など多様である。

甕　口縁部の形態には短く外反する単純口縁のものと明瞭な稜をもたず内彎して受口状に立ち上がるものとがあり、受口状のものには口縁部に縄文＋篦描波状文または櫛描波状文が施文され、口唇部に縄文が施される。

施文は頸部に櫛描簾状文が巡り、胴部に櫛描波状文または羽状文が施文される。

壺・甕にみられる口縁部が内彎して立ち上がる受口状の口縁部形態と壺の口縁部が大きく開き、頸部に施文が集中する点などから、小山1999「佐久地方の弥生土器」の中期後半Ⅲ期、小林1999『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』の弥生時代中期後半新相の様相をもつものであるが、壺頸部への櫛描文の多用と鋸歯文の施文、甕の口縁部の伸長化傾向など後期的要素が認められる。

弥生時代後期

弥生時代後期と考えられる竪穴住居址のうち規模について計測可能な22棟について以下のように分類を行った。

住居址の規模・形態

面積10～13㎡－長軸長3.8～4.2m、短軸長3.0～3.5m

下伯母塚遺跡Ｈ３・７号住居址、清水田遺跡ⅡＨ７号住居址

面積16～20㎡－長軸長4.7～5.3m、短軸長3.6～4.0m

下伯母塚遺跡Ｈ２・６号住居址、清水田遺跡ⅡＨ５号住居址、辻の前遺跡Ｈ１・２・７号住居址

面積22～25㎡－長軸長5.4～5.7m、短軸長4.2～4.8m

下伯母塚遺跡Ｈ１・８号住居址、清水田遺跡ⅡＨ１号住居址、辻の前遺跡Ｈ６・８・９・13号住居址

面積27～32㎡－長軸長6.0～6.8m、短軸長4.5～5.0m

下伯母塚遺跡Ｈ４号住居址、直路遺跡ⅡＨ８号住居址、清水田遺跡ⅡＨ３・４号住居址、

辻の前遺跡Ｈ11号住居址

面積46.6㎡－長軸長8.14m、短軸長6.08m

下伯母塚遺跡Ｈ５号住居址

住居址の形態については方形を呈するもの、東西方向に長軸をもつものも存在するが、南北方向に長軸をもつ隅丸長方形を主体とする。規模については床面積10～13㎡の小型の住居址は３例で、20～25㎡前後の住居址規模に集中する。また、中期の住居址にみられる40㎡を越える大型の住居址も１例存在する。

第86表　住居址一覧表（1）

遺跡名	No.	検出位置	平面形態	規模（cm・㎡） 南北長	東西長	壁高	面積	長軸方向	炉址 カマド	柱穴	時期	備考
下伯母塚遺跡	H 1	Ⅷ－R－こ－6	隅丸長方形	548	420	13～22	22.5	N－17°－W	北主柱穴間 炉・壺坏	主柱穴 4 他 6	弥生後期	
	H 2	Ⅷ－S－あ－8	隅丸方形	444	448	4～12	－	－	北主柱穴間 地床炉	主柱穴 4 他 5	弥生後期	撹乱により一部破壊
	H 3	Ⅷ－R－き－10	隅丸長方形	312	384	14～21	10.8	N－70°－E	1、中央東 甕 2、中央東 甕	主柱穴 2 他 2	弥生後期	
	H 4	Ⅷ－X－お－1	隅丸長方形	684	496	0～10	－	N－34°－W	北主柱穴間 地床炉	主柱穴 4 他 5	弥生後期	M 2、撹乱に切られる
	H 5	Ⅷ－W－き－3	隅丸長方形	814	608	31～43	46.6	N－30°－W	北主柱穴間 高坏	主柱穴 4 他 6	弥生後期	床下より旧炉址・ 旧主柱穴4・他2
	H 6	Ⅷ－W－け－4	隅丸長方形	388	492	2～10	18.9	N－75°－E	東主柱穴間 地床炉	主柱穴 4 他 3	弥生後期	
	H 7	Ⅷ－W－か－5	隅丸方形	340	355	7～26	11.6	N－80°－W	－	他 9	弥生後期	
	H 8	Ⅷ－X－あ－4	隅丸長方形	540	432	29～44	23.1	N－19°－W	北主柱穴間 壺	主柱穴 4 他 12	弥生後期	H 9を切る 床下より旧主柱穴4
	H 9	Ⅷ－X－い－5	隅丸長方形	－	－	4～9	－	－	北主柱穴間 甕	主柱穴 4	弥生後期	H 8、撹乱に切られる
直路遺跡Ⅰ	H 1	Ⅵ－W－か－8	隅丸長方形	816	504	13～28	41.1	N－1°－E	中央 壺	主柱穴 6 他 2	弥生中期	D15・16、撹乱に 切られる
	H 2	Ⅵ－W－く－7	隅丸長方形	788	560	1～49	42.8	N－1°－E	中央 地床炉	主柱穴 5 他 8	弥生中期	撹乱に切られる
	H 3	Ⅵ－W－こ－2	－	－	－	29～44	－	－	－	－	弥生中期	北西部大半調査区外
	H 4	Ⅵ－W－く－2	－	－	－	20～25	－	－	－	－	－	Ta 1に切られる
直路遺跡Ⅱ	H 5	Ⅵ－G－き－10	(隅丸長方形)	－	476	10～40	－	－	北主柱穴間 鉢・甕	主柱穴 2 他 3	弥生後期	H 6・7を切る 南半部調査区外
	H 6	Ⅵ－G－か－10	－	－	－	36～50	－	－	北主柱穴間 甕	主柱穴 1	弥生後期	H 5・撹乱に切られる 南半部調査区外
	H 7	Ⅵ－G－き－10	－	－	－	8～14	－	－	－	－	弥生後期	H 5に切られる 南側調査区外
	H 8	Ⅵ－G－う－10	隅丸長方形	－	－	26～74	－	－	北主柱穴間 甕	主柱穴 4 種持柱 1 他 8	弥生後期	撹乱に切られる 南端部調査区外
	H 9	Ⅵ－G－こ－10	(隅丸長方形)	－	452	24～48	－	－	北主柱穴間 壺＋炉線石	主柱穴 2	弥生後期	H11を切る M 4に切られる 南半部調査区外
	H10	Ⅵ－H－い－9	隅丸長方形	－	－	8～30	－	－	1、南西隅 壺 2、南西隅 甕	主柱穴 2 他 3	弥生後期	H12・M 4に切られる 西・南側調査区外 床下より旧主柱穴2他
	H11	Ⅵ－G－こ－10	－	－	－	33～42	－	－	－	－	弥生後期	H 9に切られる 南側調査区外
	H12	Ⅵ－H－う－8	－	－	－	8～18	－	－	東 甕・壺	－	弥生後期	H10を切る M 4に切られる
	H13	Ⅵ－L－い－1	－	－	196	22～32	－	－	－	－	－	南側調査区外
	H14	Ⅵ－L－お－1	－	－	－	52～56	－	－	－	－	－	撹乱に切られる 西・南側調査区外
直路遺跡Ⅲ	H15	Ⅵ－Q－く－5	－	－	－	0～11	－	－	－	主柱穴 1 他 4	－	東側調査区外
	H16	Ⅵ－R－え－7	－	－	－	31～49	－	－	北主柱穴間 壺＋炉線石	主柱穴 1 種持柱 1	弥生後期	撹乱に切られる 南側調査区外
	H17	Ⅵ－R－う－5	－	－	－	2～25	－	－	－	－	弥生後期	撹乱に切られる 北側調査区外
清水田遺跡Ⅱ	H 1	Ⅲ－U－く－8	隅丸長方形	542	486	6～19	24.9	N－81°－E	北主柱穴間 地床炉＋炉線石	主柱穴 4 他 4	弥生後期	M 1に切られる
	H 2	Ⅲ－U－こ－6	隅丸長方形	670	－	40～60	－	－	北主柱穴間 地床炉	主柱穴 4 種持柱 1 他 4	弥生後期	H 4・M 1に切られる
	H 3	Ⅲ－U－き－6	隅丸長方形	508	598	11～22	29.5	N－81°－E	1、西主柱穴間 壺 2、東主柱穴間 壺	主柱穴 4 他 2	弥生後期	M 2・Pit 1に切られる
	H 4	Ⅲ－U－こ－6	隅丸長方形	632	452	80～88	27.5	N－15°－E	北主柱穴間 甕	主柱穴 4 他 4	弥生後期	H 2を切る
	H 5	Ⅲ－V－お－6	隅丸長方形	524	380	20～70	19.5	N－10°－W	北主柱穴間 高坏＋炉線石	主柱穴 4 他 9	弥生後期	H 6を切る 撹乱に切られる
	H 6	Ⅲ－V－お－6	隅丸長方形	－	542	28～44	－	－	－	他 2	－	H 5・撹乱に切られる
	H 7	Ⅲ－V－き－6	隅丸長方形	334	424	2～23	13.3	N－79°－E	東主柱穴間 地床炉	主柱穴 4 他 1	弥生後期	撹乱に切られる
	H 8	Ⅲ－V－け－8	－	－	－	1～7	－	－	－	他 5	弥生後期	撹乱に切られる
	H 9	Ⅲ－V－く－6	－	－	－	16	－	－	－	他 1	－	撹乱に切られる

第87表　住居址一覧表（2）

遺跡名	No	検出位置	平面形態	規模（cm・㎡） 南北長	東西長	壁高	面積	長軸方向	炉址 カマド	柱穴	時期	備考
辻の前遺跡	H 1	Ⅳ－G－お－1	隅丸長方形	496	396	13～29	19.3	N－18°－E	北主柱穴間 壺	主柱穴 4 他 8	弥生後期	D 8に切られる
	H 2	Ⅳ－G－き－2	隅丸長方形	468	362	30～41	16.2	N－18°－E	北主柱穴間 壺	主柱穴 4 他 5	弥生後期	
	H 3	Ⅳ－B－く－9	隅丸長方形	628	464	11～53	－	N－6°－E	北主柱穴間 地床炉	主柱穴 2 他 4	弥生後期	掘乱に切られる
	H 4	Ⅳ－B－く－7	－	－	－	－	－	－	－	主柱穴 4 他 4	－	掘乱に切られる
	H 5	Ⅳ－B－え－9	隅丸長方形	－	－	27～34	－	－	北主柱穴間 壺	主柱穴 2	弥生後期	D 5・M 2・掘乱に切られる 床下より甕址・胆主柱穴 2
	H 6	Ⅳ…B－い－8	隅丸長方形	568	416	23～38	23.4	N－7°－W	北主柱穴間 壺	主柱穴 4 棟持柱 1 他 3	弥生後期	
	H 7	Ⅳ－A－け－9	隅丸長方形	534	380	39～62	20.2	N－2°－E	北主柱穴間 地床炉	主柱穴 3 他 8	弥生後期	Ta 1・D 6・Pit 64・113・117に切られる
	H 8	Ⅳ－F－く－1	隅丸長方形	574	432	39～68	25.4	N－1°－E	北主柱穴間 地床炉＋炉縁石	主柱穴 4 他 1	弥生後期	M 3・Pit 35・41・45・46に切られる
	H 9	Ⅳ－F－き－1	隅丸方形	550	500	5～67	25.9	N－17°－W	東主柱穴間 地床炉	主柱穴 4 他 1	弥生末～古墳初頭	M 3・M 7に切られる
	H10	Ⅳ－A－き－9	（隅丸長方形）	－	－	－	－	－		主柱穴 4 他 4	弥生後期	M 6に切られる
	H11	Ⅳ－A－え－9	隅丸長方形	688	456	51～60	30.7	N－1°－W	北主柱穴間 壺	主柱穴 4 他 9	弥生後期	
	H12	Ⅲ－E－け－8	隅丸長方形	616	506	19～52	28.7	N－17°－W	中央	主柱穴 4	弥生末～古墳初頭	掘乱に切られる
	H13	Ⅲ－E－け－7	隅丸長方形	552	448	16～27	24.2	N－2°－W	北主柱穴間	主柱穴 4 他 3	弥生後期	
	H14	Ⅳ－G－こ－2	－	640	－	25～48	－	－	北主柱穴間 地床炉	主柱穴 2 棟持柱 1 他 6	弥生後期	西側調査区外
中野田遺跡	H 1	Ⅴ－P－あ－5	隅丸長方形	392	304	13～32	9.5	N－12°－E	北壁中央	－	平安	D 7・D 9・D10・Pit 410・411に切られる

主柱穴は４本を基本として方形に配され、北壁下中央に棟持柱、南壁下に貯蔵穴をもつものも存在する。また、床下から建て替え以前の柱穴が検出され、住居址の拡張等が想定されるものも認められた。

炉址は31棟から検出され、住居址の規模にかかわらず北側主柱穴間を基本とするが、東西方向に長軸をもつ清水田遺跡Ⅱ Ｈ７号住居址は東側主柱穴間に設けられる。複数の炉址を有する例には、比較的大型の清水田遺跡Ⅱ Ｈ３号住居址・直路遺跡Ⅱ Ｈ10号住居址と床面積10.8㎡と今回の調査で最も小型の住居址である下伯母塚遺跡Ｈ３号住居址の３例がある。

炉址の形態は土器を伴うものが24例、地床炉が10例であり石囲炉はない。土器を伴うものには壺または甕の底部を埋設するものが18例と最も多く、他に高坏の坏部が２例、鉢が１例、土器片を炉底に敷き詰めた土器敷炉が２例認められる。また、炉縁石を伴うものには土器＋炉縁石が３例、地床炉＋炉縁石が２例あり、清水田遺跡Ⅱ Ｈ１号住居址とＨ５号住居址の炉縁石が接合しており同住居址の同時性を示すものである。

土器様相

壺　口縁部が大きく外反する単純口縁のものと受口状の口縁部のものがあり、受口状のものには端部に櫛描波状文が多く施文される。辻の前遺跡Ｈ５号住居址からは単純口縁の内面に櫛描波状文が１条施文される壺（115－１）が１点出土している。
頸部文様には櫛描によるＴ字文の他に多段の櫛描横線文、簾状文＋横線文がある。また、箆描による沈線間を斜走文または斜格子目文で充填するものに、円形貼付文が付加されるものもある。赤色塗彩は口縁部内外面と外面の文様帯を除く上半部に行われるが、無彩のものもわずかに存在する。また、胴下半部に稜をもつものともたないものとがある。

甕　器形により頸部の括れから胴部が張るものと胴部が球形を呈するものとに分類される。また、口縁部の形態には頸部から外反する単純口縁のものと端部でわずかに内彎して受口気味に立ち上がるもの、折り返し口縁のものとがある。文様構成は外面に櫛描波状文または羽状文を施文した後、頸部に簾状文を巡らせるものが基本的であるが、口縁部に波状文・胴部に羽状文のもの、頸部に波状文が巡るもの、簾状文をもたないものなども存在する。

高坏　坏部の形態により全体が内彎して立ち上がり椀状を呈するもの、端部が大きく外反するもの、坏部中位に稜を有し端部で大きく開く有稜高坏、坏部が逆三角形を呈し短い脚部をもつものとに分類される。脚部では３～４単位の円形または三角形の透かしを有するものがあり、特異な例として辻の前遺跡Ｈ７号住居址

より出土した4箇所に三角形の透かしをもつ脚部に台部が付加される118－14がある。この他、外来系の土器として東海西部からの影響が考えられる小型高坏（辻の前遺跡Ｈ９号住居址122－21・22）がある。

壺の頸部にみられる櫛描によるＴ字文の多用、甕の口縁部の外反が強く胴部が張り、球胴化の傾向が見られる、有稜高坏の存在などの点から、弥生時代後期後半（小山1999「佐久地方の弥生土器」の後期Ⅳ・Ⅴ期）の様相をもつものであるが、辻の前遺跡Ｈ９・12・13号住居址はこれよりやや後出するものと思われる。

引用参考文献

佐久市教育委員会

1996　『佐久市埋蔵文化財　年報４　平成６年度』「清水田遺跡」

1997　『円正坊遺跡Ⅱ』

1999　『西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ』

1999　『五里田遺跡』

2001　『辻の前遺跡Ⅱ　中仲田遺跡Ⅱ』

2002　『深堀Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ』

2002　『円正坊遺跡Ⅳ』

佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財調査センター

1987　『北西ノ久保　－南部台地上の調査－』

飯田市教育委員会

1986　『恒川遺跡群』

（財）長野県埋蔵文化財センター

1989　『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書３』
　　『－塩尻市内その２－　吉田川西遺跡』

1994　『県道中野豊野線バイパス志賀中野有料道路埋蔵文化財発掘調査報告書』
　　『－長野県中野市内－　栗林遺跡　七瀬遺跡』

長野県考古学会

1999　『99シンポジウム　長野県の弥生土器編年』

佐久考古学会

1990　『佐久考古６号　赤い土器を追う』

東海考古学フォーラム三重大会事務局

2000　『第７回東海考古学フォーラム三重大会　Ｓ字甕を考える』

図　　版

図版	一	調査区全景
図版	二	調査区付近航空写真
図版	三～五	長土呂遺跡群上村遺跡
図版	六～十一	長土呂遺跡群上前田遺跡
図版	十二	長土呂遺跡群永存遺跡
図版	十三～二十三	長土呂遺跡群下伯母塚遺跡
図版	二十四～五十一	枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
図版	五十二～六十五	円正坊遺跡群清水田遺跡Ⅱ
図版	六十六～八十四	周防畑遺跡群辻の前遺跡
図版	八十五～九十六	周防畑遺跡群中仲田遺跡

調査区全景

図版二

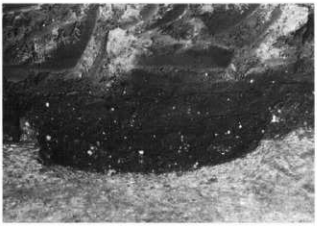
調査区付近航空写真

図版　三　長土呂遺跡群上村遺跡

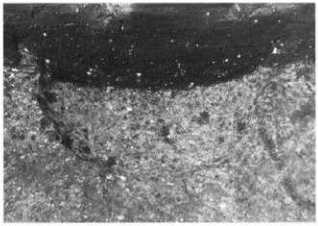
上村遺跡全景

上村遺跡全景

図版　四　長土呂遺跡群上村遺跡



D１号土坑土層断面



D１号土坑

M１号溝址土層断面

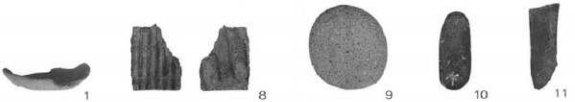
M１号溝址

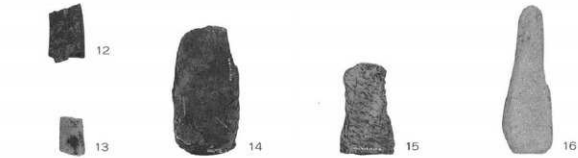
M２号溝址

M３号溝址

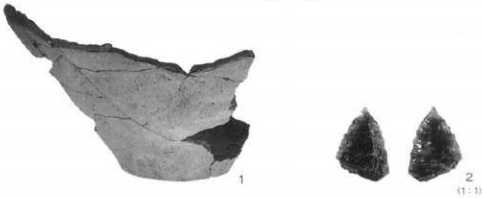
M２・３号溝址

M 1 号溝址　　M 2 号溝址





M 3 号溝址



遺構外出土遺物

M 1 ～ 3 号溝址、遺構外出土遺物

図版　六　長土呂遺跡群上前田遺跡

上前田遺跡全景

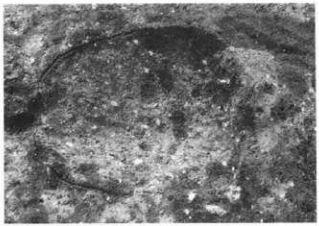
D１号土坑

D１号土坑

D１号土坑

D１号土坑

D２号土坑



D３号土坑

D４号土坑

D５号土坑土層断面

D５号土坑

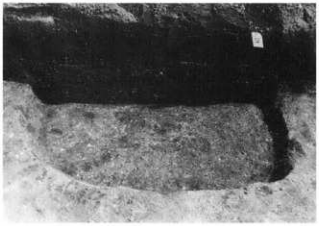
D５号土坑

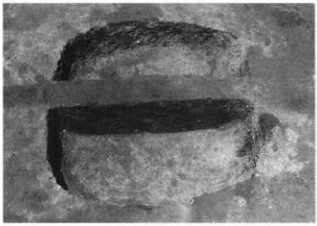
D５号土坑

D５号土坑

D６号土坑

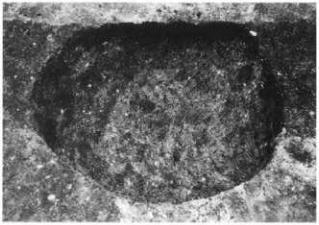
D７号土坑

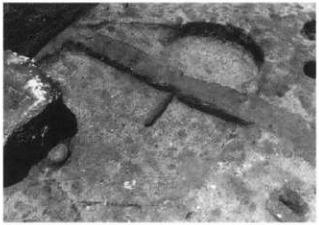

D８号土坑


D９号土坑

D10号土坑

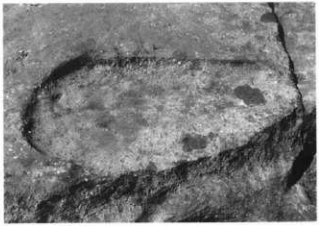
D11号土坑


D12号土坑


D13号土坑

D14号土坑

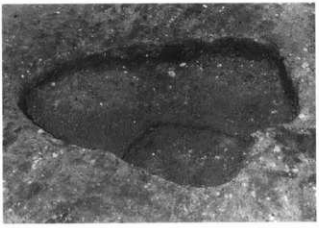
D15号土坑

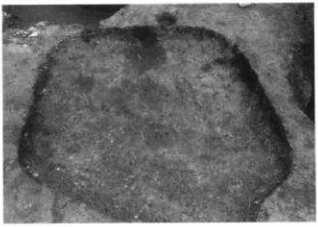

D16号土坑

D17号土坑

D18号土坑

D19号土坑


D20号土坑


D21号土坑

図版十　長土呂遺跡群上前田遺跡

D22号土坑

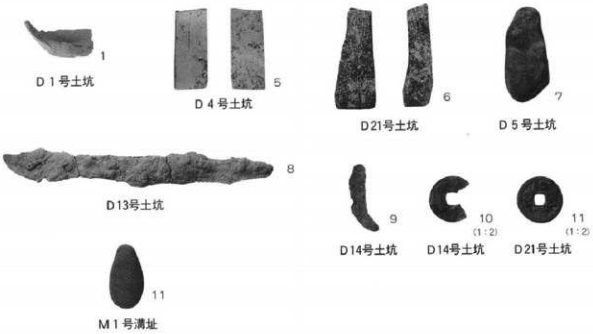
D23号土坑

D25号土坑

M1号溝址

M3号溝止

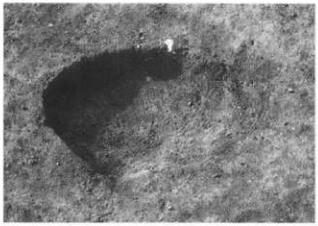
ピット群



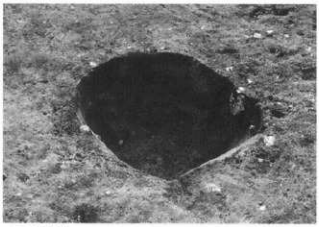
D 1 · 4 · 5 · 13 · 14 · 21号土坑、M 1 号溝址出土遺物

図版 十二 長土呂遺跡群永存遺跡

D１号土坑



D２号土坑



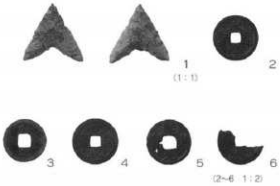
D３号土坑

D４号土坑

D５号土坑

M１号溝址

M２号溝址



遺構外出土遺物